



# CP1

STAGE PIANO

取扱説明書

# 安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

## ■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



### 警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

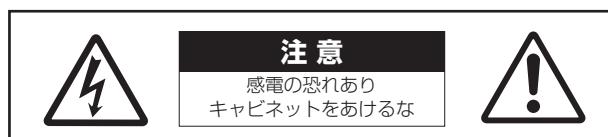


### 注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

## ■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。この製品の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

# ⚠ 警告

## 電源 / 電源コード



電源は必ず交流 100V を使用する。  
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。  
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。  
感電やショートのおそれがあります。



電源コード / プラグは、必ず付属のものを使用する。  
他の電源コード / プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。

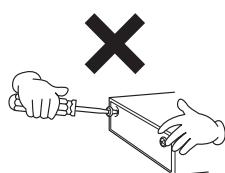


電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、  
無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。  
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

## 分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。  
感電や火災、けが、または故障の原因になります。



## 水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。  
感電のおそれがあります。

## 火に注意



本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。  
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

## 異常に気づいたら



電源コード / プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常においや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

# ⚠ 注意

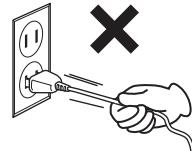
## 電源 / 電源コード



アースプラグを確実に取り付ける。  
感電のおそれがあります。(アースプラグの取り付け方については 10 ページをご参照ください。)



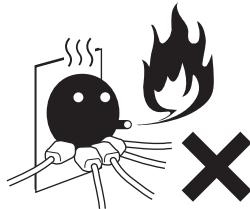
電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。  
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。  
感電や火災、故障の原因になることがあります。



**たこ足配線をしない。**  
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



## 設置



**直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところに置かない。**

本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



**テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。**  
楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



**不安定な場所に置かない。**  
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



**本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。**  
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



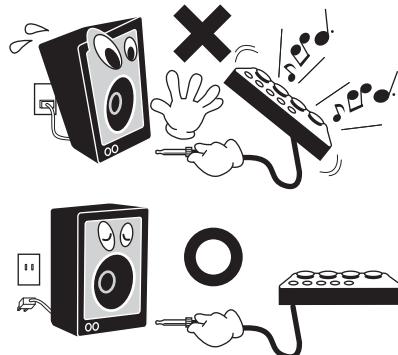
**この機器を電源コンセントの近くに設置する。**  
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

## 接続



他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。

感電または機器の損傷の原因になることがあります。



## 手入れ



**本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。**

本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。



**水滴がついたらすぐに拭きとる。**

極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく（結露する）ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭いてください。

## 使用時の注意



**本体のすき間に手や指を入れない。**  
お客様がけがをするおそれがあります。



**パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。**

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



**本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。**

本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。



禁止

本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。  
聴覚障害の原因になります。



## データの保存

### 作成したデータの保存とバックアップ



必ず実行

エディットバッファー(39ページ)上のデータは電源を切ると消えてしまいます。保存しておきたいデータは、ユーザーメモリー(39ページ)、USBフラッシュメモリー、またはコンピューターなどの外部機器に保存してください。

また、ユーザーメモリーに保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータはUSBフラッシュメモリーやコンピューターなどの外部機器に保存してください。



禁止

ユーザーメモリーへの書き込み中(画面に「Executing...」と表示されます)に、絶対に電源を切らないでください。

ユーザーメモリー上のデータが失われたりシステムデータが壊れたりして、次に電源を入れたときに正常に起動しなくなる恐れがあります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、不定期に製品本体のファームウェアおよび関連アプリケーションソフトウェアをアップデートすることができます。

ステージピアノ製品の最新バージョンアップについては、以下のウェブサイトで確認、ダウンロードすることができます。お使いのCP1についても、本体ファームウェアや関連アプリケーションソフトウェアを最新バージョンにアップデートされることを推奨します。

<http://www.yamahasynth.com/jp/>

なおこの取扱説明書では、本書制作時のバージョンで説明しております。

製品本体のファームウェアアップデートがある場合は、本体バージョンの確認方法やその機能／操作についても上記ページでご確認いただきますようお願いします。

# はじめに

このたびは YAMAHA ステージピアノ CP1 をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。CP1 には往年の名機を忠実に再現したピアノ音色やアンプ、エフェクターが搭載されており、これらを自由に組み合わせることで定番のセッティングからオリジナルのセッティングまでを CP1 一台で実現できます。ライブパフォーマンスや音楽制作の幅をより一層広げるものとして、ご活用いただけます。

CP1 の優れた機能を使いこなしていただくために、この取扱説明書をご活用いただきますようご案内申しあげます。また、ご一読いただいたあとも不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願い申しあげます。

## 付属品

- |            |                  |                                     |
|------------|------------------|-------------------------------------|
| □電源コード     | □ペダル             | □「Illustrated Guide to the CP1」(別冊) |
| □取扱説明書(本書) | □「DATA LIST」(別冊) | □ディスク *×1枚(付属ソフトウェア)                |
| □保証書       | □2P-3P 変換器       |                                     |

\* 付属ディスクについては、68 ページをご参照ください。

## 取扱説明書の使い方

### 取扱説明書の構成

CP1 の取扱説明書は、以下のように構成されています。

#### ■「Illustrated Guide to the CP1」(別冊)

CP1 の音を作り出すさまざまなピアノ音色、アンプ、エフェクターについて紹介しています。CP1 の魅力を感じていただくために、まずこの冊子をご覧ください。

#### ■取扱説明書(本書)

CP1 の基本的な機能の使い方と操作について、また編集可能なパラメーターについて説明しています。

#### ■「DATA LIST」(別冊)

CP1 に搭載されているパフォーマンスのリストや、ピアノブロック、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ / コンプレッサーブロックのタイプおよびパラメーターのリスト、また MIDI に関する資料を掲載しています。

### ご注意

- ・ 取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- ・ この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・ この製品は、ヤマハ（株）が著作権を有する著作物やヤマハ（株）が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物は、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ（株）の許諾を受けることなく、個人的な使用的範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
- ・ この製品には、XG フォーマット以外の音楽 / サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ（音楽 / サウンドデータ）制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。
- ・ ヤマハ（株）および第三者から販売もしくは提供されている音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・ Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Macintosh は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- ・ Steinberg および Cubase は、Steinberg Media Technologies GmbH の登録商標です。
- ・ 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。



## CP1 の特長

### ■最高峰のクオリティーを誇るアコースティックピアノサウンドを搭載

ステージピアノ作りのノウハウをそぞごんで、1鍵ごとに細かい音の調整や鍵盤タッチとの合わせこみを行ない、さらにペダルを踏んだときの弦や響板の響きも再現しています。こうした技術を踏まえた音作りにより、ソロ演奏に映える濃密なピアノサウンドと、アンサンブル演奏の中でも埋もれないピアノサウンドの両方を CP1 一台で得ることができます。

### ■忠実に再現されたビンテージエレクトリックピアノサウンドを搭載

エレクトリックピアノの発音機構を最新の技術を用いて解析することで、スムーズな鍵盤タッチを実現しています。さらに、オリジナルのプリアンプ、パワーアンプ、スピーカーに加え、サウンドメイキングに欠かせないさまざまなバリエーションを生む外部エフェクターも忠実にモデリングすることで、往年の名機といわれるエレクトリックピアノのサウンドを再現しています。

### ■木製象牙調ウェイティッド鍵盤

アコースティックピアノやエレクトリックピアノの弾き心地を実現した木製の 88 鍵ハンマー鍵盤を装備しています。

### ■オリジナルのピアノサウンドを作るカスタマイズ機能(19 ページ)

CP1 に搭載されているピアノタイプ、アンプ、エフェクターを自由に組み合わせるカスタマイズ機能により、往年の定番セッティングの再現からオリジナルの組み合わせまで簡単に実現できます。さらに、各パラメーターを調整することで、オリジナルのピアノサウンドを作成できます。

### ■マスター・キーボード機能を搭載(51 ページ)

CP1 には、ステージで使うために必要なマスター・キーボード機能を厳選して搭載しています。鍵盤を 4 つの領域(ゾーン)にわけて、それぞれの領域で外部 MIDI 音源を含む 4 つの異なる音源を本体からコントロールできます。

# 目次

---

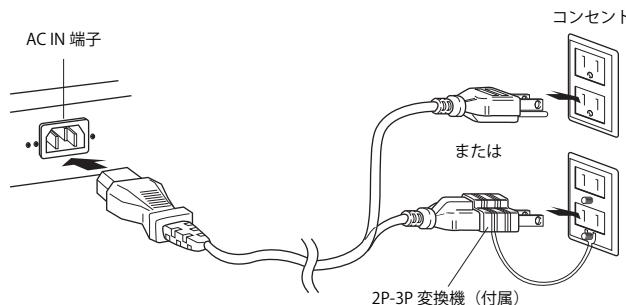
<b>演奏前の準備</b>	<b>10</b>
電源コードを接続する	10
外部オーディオ機器と接続する	11
アンプやスピーカーを使う場合	11
ミキサーを使う場合	11
ペダルを接続する	12
電源を入れる	13
画面の明るさを調整する	14
音量を調整する	14
<b>デモソングを聞いてみよう</b>	<b>15</b>
<b>各部の名称と機能</b>	<b>16</b>
フロントパネル	16
リアパネル	18
<b>CP1 のしくみ</b>	<b>19</b>
CP1 の全体構成	19
音源部	19
音源部を構成する各ブロックおよびパラメーターの役割	20
パフォーマンスのメモリー構成	21
コントローラー部	23
CP1 の基本操作	24
ページの切り替え	24
値の変更 / 設定	24
名前の設定	25
ノートナンバーの入力	25
エディットマーク	26
現在表示されている画面からの抜け方	26
<b>クリックガイド</b>	<b>27</b>
パフォーマンスを演奏する	27
パフォーマンスを選ぶ	27
ノブ 1 ~ 6 を使って音に変化をつける	28
ペダルを使って演奏する	30
音のピッチを変える	31
パフォーマンスを構成するブロックのオン / オフを切り替える	31
オリジナルのパフォーマンスを作る	33
MIDI 機器と接続して使用する	35
CP1 で外部シンセサイザーをコントロールする	35
コンピューターと接続して使用する	36
USB ケーブルを使って接続する	36
コンピューターと接続しているときのローカルオン / オフの設定	38
設定を保存する	39
メモリー構成	39
設定を保存する	40

USB フラッシュメモリーとファイルをやりとりする .....	41
工場出荷時の状態に戻す（ファクトリーセット） .....	42
<b>リファレンス .....</b>	<b>43</b>
<b>ピアノ .....</b>	<b>43</b>
ピアノタイプとプリアンプについて .....	43
ピアノタイプのパラメーターについて .....	44
プリアンプのパラメーターについて .....	45
<b>モジュレーションエフェクト .....</b>	<b>46</b>
モジュレーションエフェクトのタイプについて .....	46
モジュレーションエフェクトのパラメーターについて .....	46
<b>パワーアンプ / コンプレッサー .....</b>	<b>48</b>
パワーアンプ / コンプレッサーのタイプについて .....	48
パワーアンプ / コンプレッサーのパラメーターについて .....	48
<b>リバーブ .....</b>	<b>49</b>
<b>コモン .....</b>	<b>50</b>
パフォーマンスの名前と鍵盤の発音方式を設定する（1/4 ページ） .....	50
各パートのピッチやパンを設定する（2/4 ページ） .....	52
各パートのピッチベンドレンジやペロシティーを設定する（3/4 ページ） .....	52
コントローラーの設定をする（4/4 ページ） .....	54
<b>マスター EQ .....</b>	<b>54</b>
マスター EQ のゲインを設定する（1/6 ページ） .....	54
帯域ごとに信号を調整する（2/6 ~ 6/6 ページ） .....	55
<b>ユーティリティ .....</b>	<b>56</b>
キーの設定をする（1/5 ページ） .....	56
音律やペダルの設定をする（2/5 ページ） .....	57
コントローラーの設定をする（3/5 ページ） .....	57
MIDI の設定をする（4/5 ページ） .....	58
その他の設定をする（5/5 ページ） .....	59
<b>ファイル .....</b>	<b>59</b>
USB フラッシュメモリーの容量を確認する（1/7 ページ） .....	59
ファイルを USB フラッシュメモリーに保存（セーブ）する（2/7 ページ） .....	60
USB フラッシュメモリーのファイルを本体に保存（ロード）する（3/7 ページ） .....	61
ファイル / ディレクトリーをリネームする（4/7 ページ） .....	61
ファイル / ディレクトリーを削除する（5/7 ページ） .....	62
ディレクトリーを作成する（6/7 ページ） .....	62
USB フラッシュメモリーをフォーマットする（7/7 ページ） .....	62
<b>資料 .....</b>	<b>63</b>
困ったときは .....	63
メッセージリスト .....	66
付属ディスクについて .....	68
ソフトウェアのご使用条件 .....	69
MIDI について .....	71
仕様 .....	74
索引 .....	75
ユーザーサポートサービスのご案内 .....	78
保証とアフターサービス .....	79

# 演奏前の準備

## 電源コードを接続する

- 1 本体のリアパネルにある  (電源) スイッチがオフになっていることを確認します。
- 2 付属の電源コードのプラグを、本体のリアパネルにある [AC IN] 端子に接続します。
- 3 電源コードの、もう一端のプラグを電源コンセント (家庭用 AC100V) に接続します。



 **警告** 電源コードは、必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用すると、発熱や感電の原因になります。

 **警告** 電源は必ず AC100V を使用してください。

 **注意** CP1 は、アース線の使用を前提として設計されています。感電と機器の損傷を防ぐため、電源コードにはアース端子が付いています。コンセントにプラグを差し込むときは、アース端子を接続してください。なお、接続方法がわからないときは、巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

 **注意**  (電源) スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。

## 外部オーディオ機器と接続する

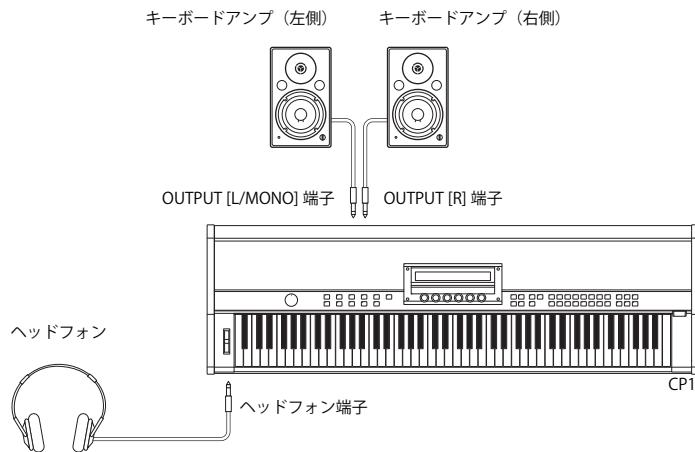
CP1にはスピーカーが内蔵されていません。音を出すためには、外部ステレオシステムやアンプ、スピーカーなどと接続が必要です。ヘッドフォン端子にヘッドフォンを接続すれば直接音を聞くこともできます。ここでは、一般的な接続の方法をいくつか紹介します。次のイラストを参考に外部のオーディオシステムと接続しましょう。

**△注意** 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

**△注意** 外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った状態で行ってください。

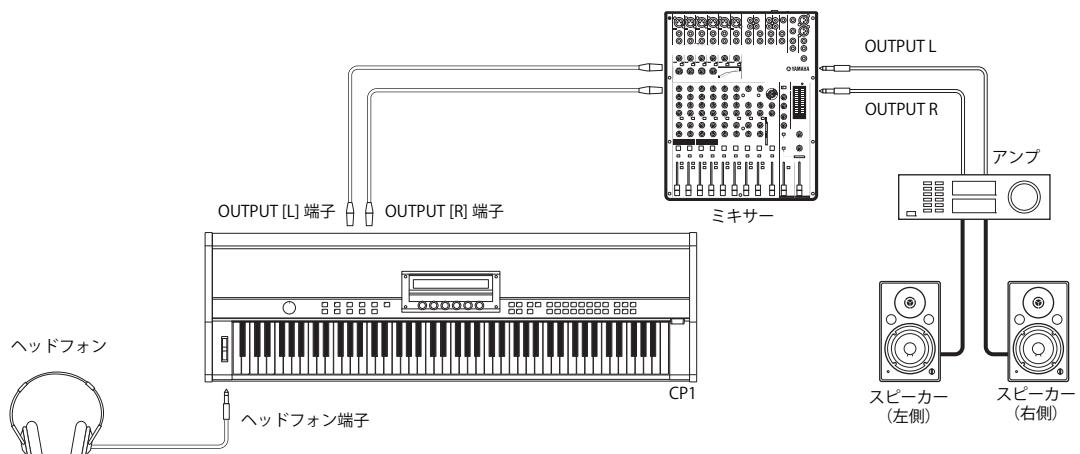
### アンプやスピーカーを使う場合

キーボードアンプやモニタースピーカーを2台使用すると、各パフォーマンスのパンやエフェクトなどの設定が再現され、拡がりのある豊かなサウンドが得られます。この場合、リアパネルのOUTPUT [L/MONO]/[R]端子(UNBALANCED)を使用します。キーボードアンプやモニタースピーカーを1台のみ使用する場合は、OUTPUT [L/MONO]端子(UNBALANCED)に接続します。



### ミキサーを使う場合

レコーディングやライブパフォーマンスでは、ミキサーを接続して使用することが一般的です。CP1では、ノイズに強い3極のOUTPUT [L]/[R]端子(BALANCED)が標準装備されていますので、OUTPUT [L]/[R]端子(BALANCED)をお使いになることをお勧めします。



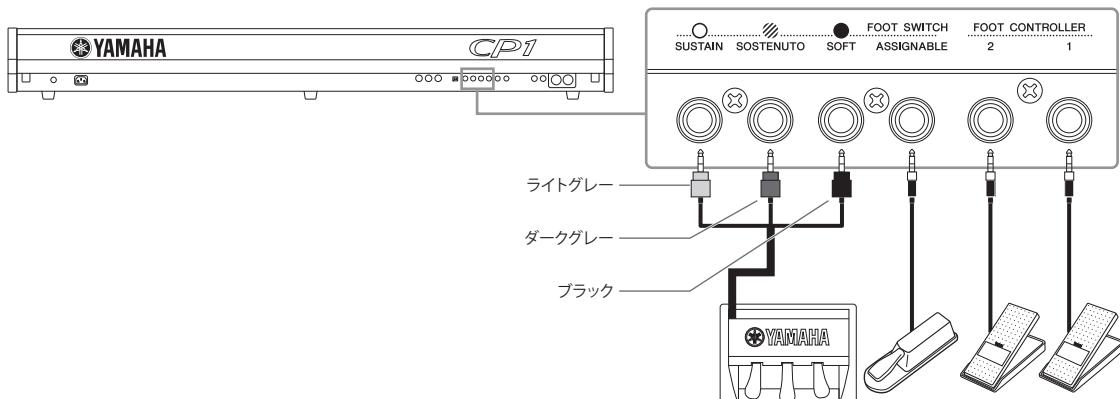
**NOTE** • ヘッドフォンでは、OUTPUT [L]、[R]端子やOUTPUT [L/MONO]、[R]端子の出力と同じ信号をモニターできます。なお、楽器本体の[MASTER VOLUME]ダイアルで外部オーディオ機器やヘッドフォンから出る音量を調整できます。

• OUTPUT [L]、[R]端子やOUTPUT [L/MONO]、[R]端子などからのサウンドは、ヘッドフォンの抜き差しに関係なく出力されます。

## ペダルを接続する

付属ペダルを FOOT SWITCH [SUSTAIN]/[SOSTENUTO]/[SOFT] 端子に接続します。サステインペダル(右側のペダル)はライトグレーのプラグ、ソステヌートペダル(真ん中のペダル)はダークグレーのプラグ、ソフトペダル(左側のペダル)はブラックのプラグに色分けされています。それぞれ端子側の色と合わせて、ライトグレーのプラグは FOOT SWITCH [SUSTAIN] 端子に、ダークグレーのプラグは FOOT SWITCH [SOSTENUTO] 端子に、ブラックのプラグは FOOT SWITCH [SOFT] 端子に接続します。

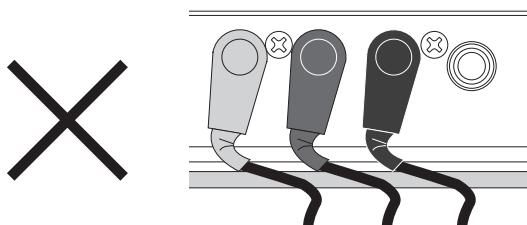
また、別売のフットスイッチ FC4/FC5 を FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] 端子に接続したり、別売のフットコントローラー FC7/FC9 を FOOT CONTROLLER [1]/[2] 端子に接続したりして、さまざまなパラメーターをコントロールすることもできます。コントローラーへのパラメーターの割り当てについては、コモン設定画面の 4 ページ目(54 ページ)をご参照ください。



**NOTE** FOOT SWITCH [SUSTAIN] 端子には別売のフットペダル FC3 およびフットスイッチ FC4/FC5 を、FOOT SWITCH [SOSTENUTO]/[SOFT] 端子には別売のフットスイッチ FC4/FC5 を接続することもできます。

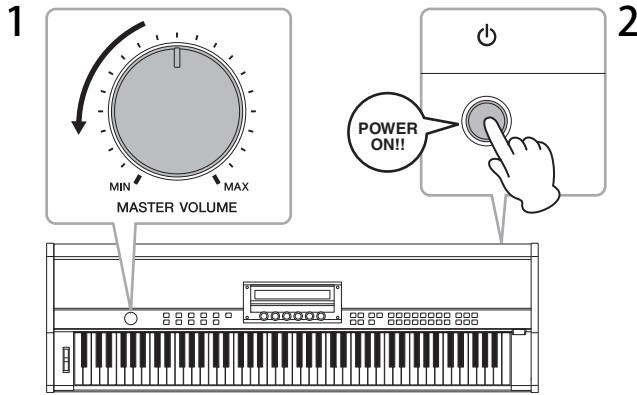
**△ 注意** 付属ペダルを本体から外す場合は、必ずケーブルのプラグ部分を持って、接続端子から抜いてください。

**△ 注意** 本体をテーブル等の平板に設置して使用する場合、下図のように付属ペダルのプラグを平板に対して垂直の向きにして接続すると、端子から平板までの距離が短いため、プラグの根元に無理な力がかかり、ケーブルの断線の原因になる可能性があります。平板に対してプラグを斜めの向きにして接続するなど、ケーブルに無理な力がかからないよう、ご注意ください。



## 電源を入れる

- 1 ペダルやヘッドフォンなどの接続が完了したら、本体パネルの左側にある [MASTER VOLUME] ダイアルと本体に接続しているキーボードアンプやモニタースピーカーのボリュームが最小（「MIN」や 0）になっていること、さらに電源がオフになっていることを確認します。
- 2 本体のリアパネルにある  (電源) スイッチを押します。
- 3 本体に接続しているキーボードアンプやモニタースピーカーなどの電源を入れます。



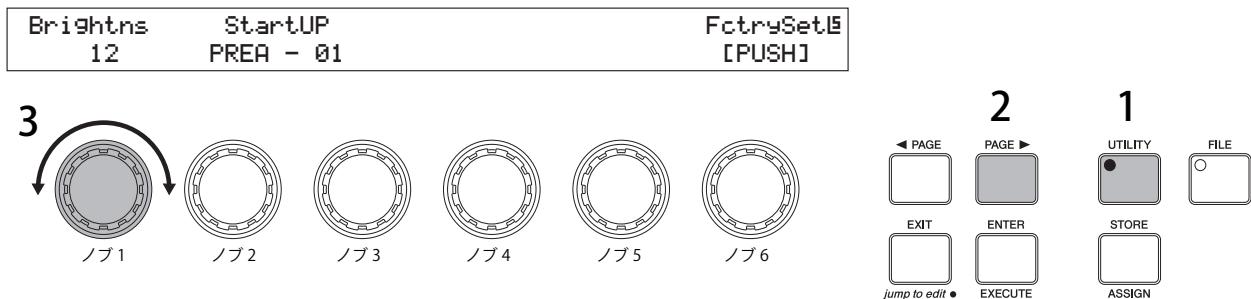
電源を切るときは、本体の [MASTER VOLUME] ダイアルと本体に接続しているキーボードアンプやモニタースピーカーのボリュームを最小（「MIN」や 0）にし、本体に接続しているキーボードアンプやモニタースピーカーの電源を切ってから、本体リアパネルの  (電源) スイッチを押して電源を切ります。

### HINT

USB フラッシュメモリーが接続されている状態で電源を入れた場合は、パフォーマンスのトップ画面が表示される前に、エクスターナルパフォーマンスデータ（22 ページ）が USB フラッシュメモリー上に作成されたり、USB フラッシュメモリー上にあるエクスターナルパフォーマンスデータが本体の DRAM（39 ページ）上にロードされたりします。詳しくは、「CP1 のしくみ」の 19 ページをご参照ください。

画面の明るさを調整する

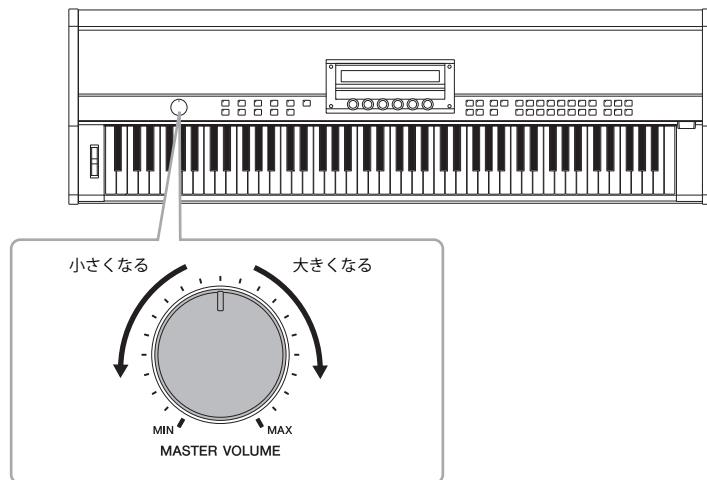
- 1 本体パネルの右側にある [UTILITY] ボタンを押して、ユーティリティ画面を表示します。
- 2 本体パネルの右側にある [PAGE ▶] ボタンを押して、ユーティリティ画面の 5 ページ目を表示します。
- 3 「Brightness(ディスプレイライトネス)」の値をノブ 1 を回して設定し、画面の明るさを調整します。  
「1」に設定すると画面が一番暗くなり、「15」に設定すると一番明るくなります。



**NOTE** [UTILITY] ボタンと [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを使って画面の明るさを調整することもできます。[UTILITY] ボタンを押しながら [◀PAGE] ボタンを押すと画面が暗くなり、[UTILITY] ボタンを押しながら [PAGE▶] ボタンを押すと画面が明るくなります。

## 音量を調整する

本体パネルの左側にある [MASTER VOLUME] ダイアルで、本体の音量を調整します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調整してください。



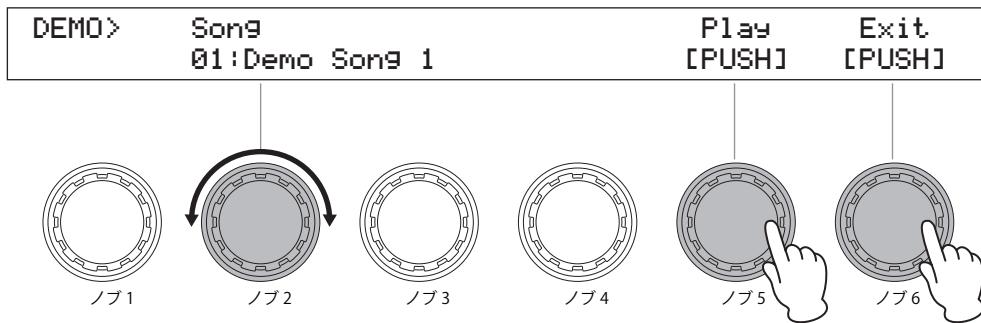
**NOTE** [MASTER VOLUME] ダイアルでヘッドフォン端子の出力レベルも調整できます。

**△ 注意** [MASTER VOLUME] ダイアルの操作によって、OUTPUT [L]/[R] 端子、OUTPUT [L/MONO]/[R] 端子、ヘッドフォン端子の出力レベルが同時に変更されるため、ヘッドフォン端子の出力レベルを調整する場合は、キーボードアンプやモニタースピーカーの音量にも気をつけながら調整してください。

# デモソングを聞いてみよう

CP1 にはデモソングが複数曲収録されています。次の手順でデモソングを再生し、CP1 の音色をお聴きください。

- 1 [UTILITY] ボタンと [FILE] ボタンを同時に押すと、デモソング再生画面が表示されます。



**NOTE** ここに掲載しているデモソングの画面は操作説明のためのものです。したがって、実際とは異なる場合があります。

- 2 ノブ 2 を回してデモソングを選択します。

**NOTE** デモソングの選択は、デモソング停止中のみ可能です。

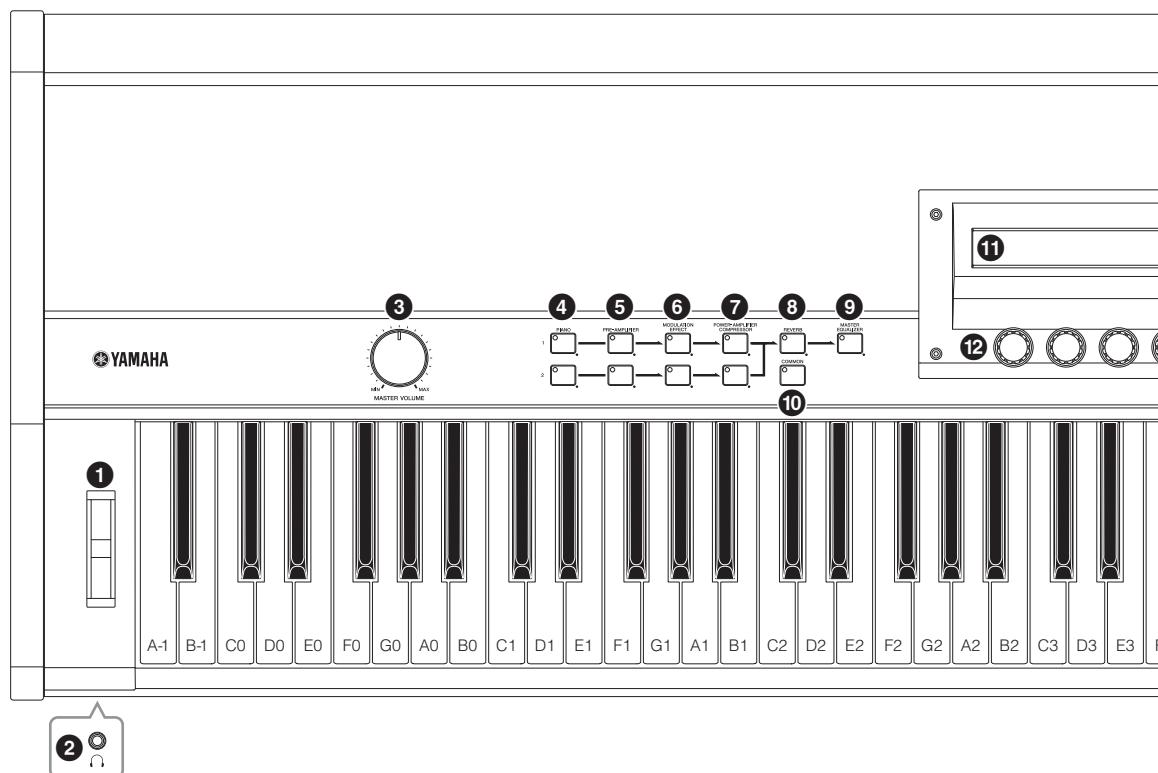
- 3 ノブ 5(「Play」)を押してデモソングを再生します。

- 4 ノブ 5(「Stop」)を押してデモソングを停止します。

- 5 ノブ 6(「Exit」)または [EXIT] ボタンを押して、パフォーマンス画面に戻ります。

# 各部の名称と機能

## フロントパネル



### ① ピッチベンドホール(31 ページ)

ピッチベンド効果のアップ / ダウンをコントロールします。

### ② ヘッドフォン端子(11 ページ)

ステレオヘッドフォンを接続する端子です。

### ③ [MASTER VOLUME] ダイアル(14 ページ)

本体全体の音量を調整します。

### ④ [PIANO 1]/[PIANO 2] ボタン(43 ページ)

ピアノ  
ブリアンプ

### ⑤ [PRE AMPLIFIER 1]/[PRE AMPLIFIER 2] ボタン(45 ページ)

モジュレーションエフェクト

モジュレーションエフェクト

### ⑥ [MODULATION EFFECT 1]/[MODULATION EFFECT 2] ボタン(46 ページ)

コンプレッサー  
パワーアンプ

コンプレッサー

### ⑦ [POWER AMPLIFIER/COMPRESSOR 1]/ [POWER AMPLIFIER/COMPRESSOR 2] ボタン(48 ページ)

コンプレッサー  
パワーアンプ

### ⑧ [REVERB] ボタン(49 ページ)

リバーブ  
マスターイコライザー

### ⑨ [MASTER EQUALIZER] ボタン(54 ページ)

これらのボタンを押すことで、パート 1/2 のピアノタイプ / ブリアンプ / モジュレーションエフェクト / パワーアンプ / リバーブ / マスターEQ ブロック(19 ページ)のオン(ランプ点灯) / オフ(ランプ消灯)を切り替えます。また、このボタンを 1 秒以上押すと、ボタンのランプが点滅し、各ブロックの

設定画面を表示します。設定画面を表示させている場合にボタンを押しても、パート 1/2 の各ブロックのオン / オフの切り替えができます。この場合、オンとオフでランプの点滅の仕方が異なります。オンの場合は点灯時間が長くて消灯時間が短くなり、オフの場合は点灯時間が短くて消灯時間が長くなります。

### ⑩ [COMMON] ボタン(50 ページ)

このボタンを押すことで、ボタンのランプが点灯し、パート 1/2 に共通の設定画面を表示します。

### ⑪ 画面(14 ページ)

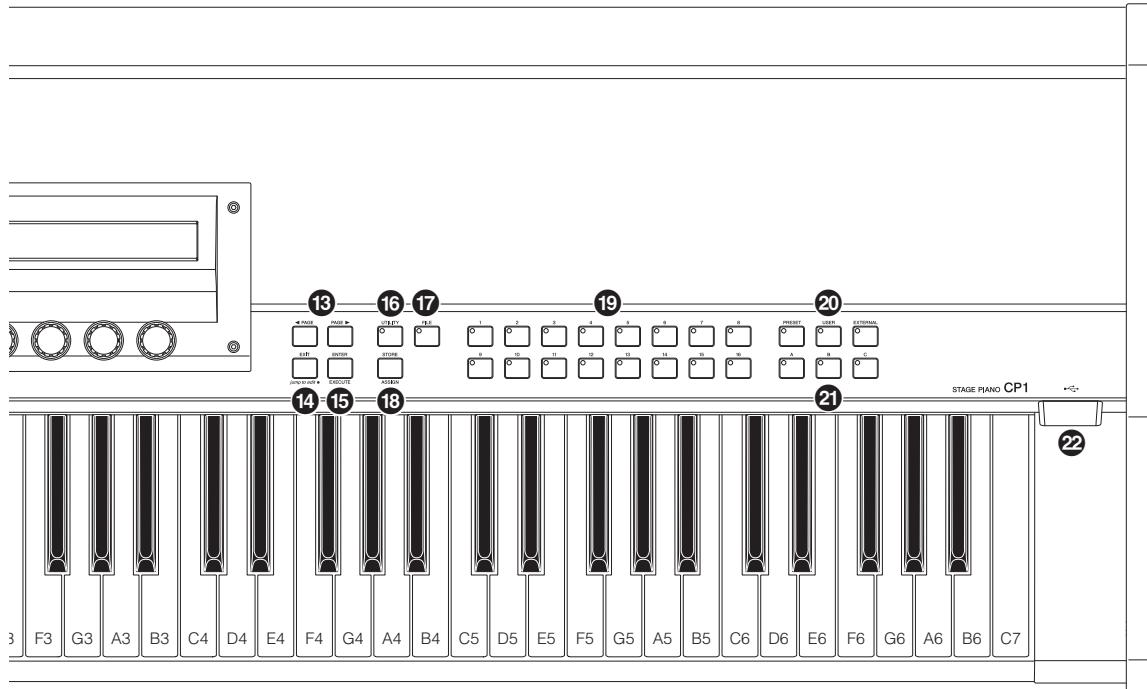
場面に応じて、さまざまなメッセージや各種設定など表示されます。

### ⑫ ノブ 1 ~ 6(28 ページ)

本書では、6 つのノブを左からノブ 1、ノブ 2、ノブ 3、ノブ 4、ノブ 5、ノブ 6 と表記します。ノブ 1 ~ 6 を回すことで、それぞれに割り当てたパラメーターを操作します。設定画面を表示している場合は、ノブ 1 ~ 6 を回す / 押すことで、画面に表示された各ノブに該当するパラメーターを編集します。

### ⑬ [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタン(24 ページ)

設定画面が複数ページ存在する場合に、このボタンを押すことでページの切り替えができます。



**⑭ [ EXIT/jump to edit ] ボタン(26, 33 ページ)**

このボタンを押すことで、各ブロック(19 ページ)の設定画面、ユーティリティー画面またはファイル画面から抜けてパフォーマンスのプレイ画面に戻ります。また、このボタンを押しながら [PIANO 1]/[PIANO 2] ボタン、[PRE AMPLIFIER 1]/[PRE AMPLIFIER 2] ボタン、[MODULATION EFFECT 1]/[MODULATION EFFECT 2] ボタン、[POWER AMPLIFIER/COMPRESSOR 1]/[POWER AMPLIFIER/COMPRESSOR 2] ボタン、[REVERB] ボタン、[MASTER EQUALIZER] ボタンを押すことで各ブロックの設定画面を表示します。

**⑮ [ENTER/EXECUTE] ボタン**

このボタンを押すことで、設定した値を確定したり、操作を実行したりします。

**⑯ [UTILITY] ボタン(56 ページ)**

このボタンを押すことで、ユーティリティー画面を表示します。

**⑰ [FILE] ボタン(59 ページ)**

このボタンを押すことで、ファイル画面を表示します。

**⑯ [STORE/ASSIGN] ボタン(29, 40 ページ)**

このボタンを押すことで、パフォーマンス / マスターEQ/ユーティリティーの保存(ストア)画面を表示します。また、パフォーマンスのトップ画面およびピアノタイプ / ブリアンプ / モジュレーションエフェクト / パワーアンプ / コンプレッサー / リバーブの設定画面でこのボタンを 1 秒以上押すことで、ノブ 1 ~ 6 にピアノタイプ / ブリアンプ / モジュレーションエフェクト / パワーアンプ / コンプレッサー / リバーブのパラメーターを割り当てる画面を表示します。

**⑯ ナンバー-[1] ~ [16] ボタン(27 ページ)**

選択されたパフォーマンスバンクにおけるパフォーマンスナンバーを切り替えます。

**⑯ メモリー ボタン(27 ページ)**

[PRESET]/[USER]/[EXTERNAL] ボタンを押して、パフォーマンスマモリーを切り替えます。

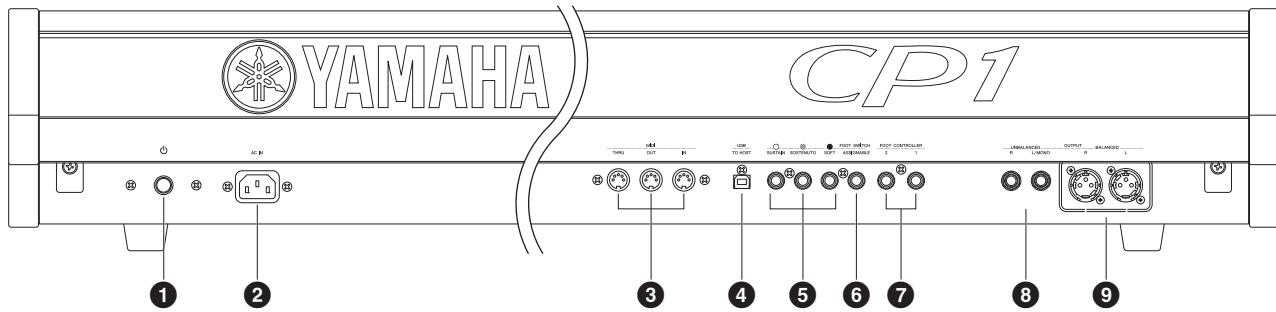
**⑯ バンク ボタン(21, 27 ページ)**

[A]/[B]/[C] ボタンを押して、選択されたパフォーマンスマモリーにおけるバンクを切り替えます。

**⑯ USB TO DEVICE 端子(23 ページ)**

本体と USB フラッシュメモリーを接続する端子です。

# リアパネル



## ① **電源スイッチ (13 ページ)**

電源のオン / オフスイッチです。

## ② **[AC IN] 端子 (10 ページ)**

付属の電源コードを接続します。付属の電源コード以外は使用しないでください。

## ③ **MIDI [IN]/[OUT]/[THRU] 端子 (35 ~ 36 ページ)**

MIDI 機器を接続する場合に使います。

## ④ **[USB TO HOST] 端子 (36 ~ 37 ページ)**

本体とコンピューターを、USB ケーブルを使って接続する場合に使います。

## ⑤ **FOOT SWITCH [SUSTAIN]/[SOSTENUTO]/[SOFT] 端子 (12, 30 ページ)**

付属のペダルを接続します。[SUSTAIN] 端子には別売のフットペダル FC3、およびフットスイッチ FC4/FC5 も接続でき、サステイン専用に使います。[SOSTENUTO]/[SOFT] 端子には別売のフットスイッチ FC4/FC5 も接続でき、この端子に接続したペダルには様々な機能を割り当てられます。

## ⑥ **FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] 端子 (12 ページ)**

別売のフットスイッチ FC4/FC5 を接続します。この端子に接続したペダルには、さまざまな機能を割り当てられます。

## ⑦ **FOOT CONTROLLER [1]/[2] 端子 (12 ページ)**

別売のフットコントローラー FC7/FC9 を接続します。これら端子に接続したペダルには、さまざまな機能を割り当てられます。

## ⑧ **OUTPUT [L/MONO]/[R] 端子 (UNBALANCED) (11 ページ)**

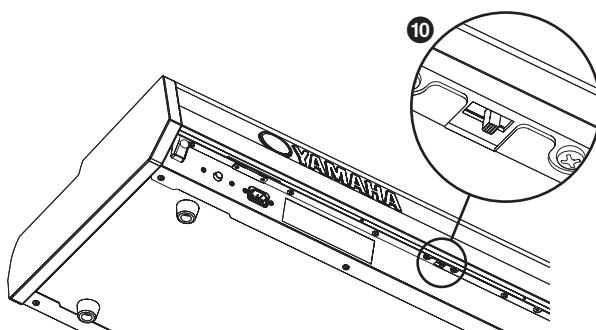
オーディオ信号を出力する端子(標準ジャック)です。アンバランス接続に対応しています。モノラル出力したい場合は、[L/MONO] 端子だけに接続します。規定出力レベルは +4dBu です。

## ⑨ **OUTPUT [L]/[R] 端子 (BALANCED) (11 ページ)**

オーディオ信号をバランス出力する端子です。ミキサーなどと接続します。ノイズを防ぐことができ、頑丈で変形しにくく、端子にロック機構がついていて引っ張っても接続が外れないようになっているので、信頼性の要求されるプロの現場などで使用頻度が高い端子です。規定出力レベルは +4dBu です。

## ⑩ **[LIGHT] スイッチ**

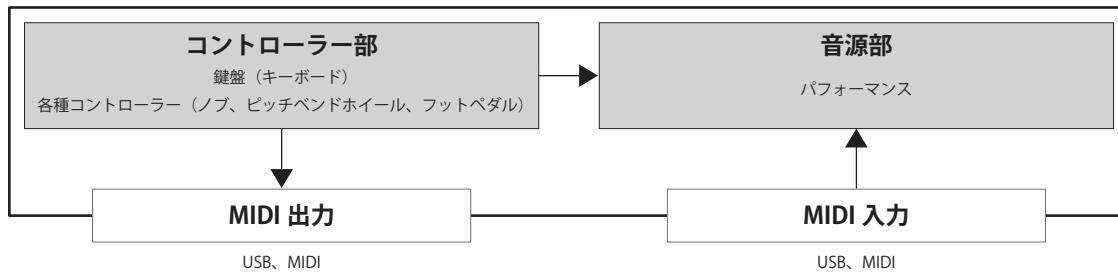
ヤマハロゴの LED のオン / オフおよび LED の明るさを切り替えます。左端にスイッチがあると、LED はオフになります。右にスイッチを動かすとカチッと音が鳴り、LED がオンになります。そこから 3 段階で明るさ調整ができる、最も右端にスイッチがあるとき、LED が最も明るくなります。



# CP1 のしくみ

## CP1 の全体構成

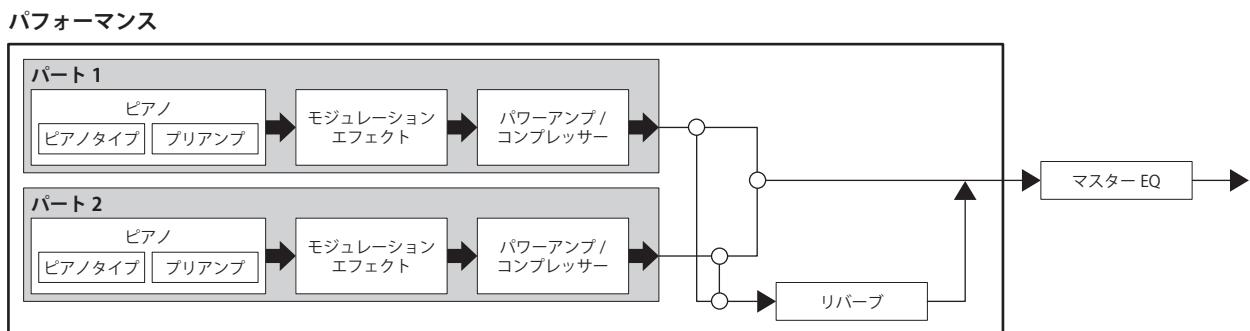
CP1 は、音源部とコントローラー部から構成されています。



## 音源部

音源部は、キーボードの演奏や各種コントローラーによる演奏情報によって、実際に発音するブロックです。

CP1 の音源は、パフォーマンスと、マスターEQ ブロックによって作り上げられます。パフォーマンスは、2つのパートとリバーブブロックで構成されています。全体の信号の流れは、次の図のようになっています。



パフォーマンスの各パートは、ピアノブロック、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ / コンプレッサーブロックの3つのブロックから構成されています。各ブロックには、アコースティックピアノから往年の名機と言われるエレクトリックピアノまでを忠実に再現したピアノ音色やアンプ、エフェクターなどが複数用意されています。これらを自由に組み合わせることで、往年の定番セッティングの再現はもちろん、実際の機器では不可能なセッティングまで実現でき、オリジナルのピアノサウンドを作り出せます(ピアノのカスタマイズ機能)。

さらに、作成した2つのパートのピアノサウンドに、共通のリバーブブロックのエフェクトを設定することで、パフォーマンスを作り出せます。またパフォーマンスには、パフォーマンスの名称や発音方法の設定、コントローラーの設定、各パートのパン設定などを行なうコモンパラメーターも用意されています。このコモンパラメーターを調整することで、1つのパフォーマンスが完成します。CP1には、これらの組み合わせをあらかじめ最適な音になるように設定したプリセットパフォーマンスが複数搭載されています。

また全パフォーマンスに共通した設定となるマスターEQ ブロックがあります。マスターEQ を設定することで、CP1 の音を、鳴らす環境に最適な音に調整します。これで、CP1 の音が完成します。

## 音源部を構成する各ブロックおよびパラメーターの役割

CP1 の音を作り上げる各ブロックとコモンパラメーターの役割は次のとおりです。

### ピアノブロック

ピアノブロックは、ピアノタイプとプリアンプで構成されています。ピアノタイプには、アコースティックピアノから往年の名機といわれるエレクトリックピアノまでのピアノの原音を、それぞれ最適な発音システムを用いて忠実に再現した音色が搭載されています。また、プリアンプには、実際のステージなどでそれぞれのピアノと合わせて使われていたプリアンプを忠実に再現したプリアンプが搭載されています。各パートで発音システムとなるピアノタイプを選択すると、それに最適なプリアンプのタイプが連動して設定されます。選択したピアノタイプとプリアンプに対して、それぞれパラメーターを調整できます。ピアノタイプとプリアンプのタイプおよびパラメーターについて詳しくは、リファレンスの「ピアノ」(43 ページ)をご参照ください。

### モジュレーションエフェクトブロック

ステージやレコーディングでのピアノのサウンドメイキングに欠かさないモジュレーション系のエフェクトタイプが複数搭載されています。このブロックは、各パートのピアノブロックの後に用意されており、モジュレーション系エフェクトの効果をピアノ音色に付加します。各パートでモジュレーションエフェクトタイプを選択し、そのパラメーターを調整します。各タイプとパラメーターについて詳しくは、リファレンスの「モジュレーションエフェクト」(46 ページ)をご参照ください。

### パワーアンプ / コンプレッサーブロック

忠実に再現されたパワーアンプやスピーカー、およびコンプレッサーが複数搭載されており、パワーアンプとスピーカーの組み合わせか、コンプレッサーのどちらかを設定できます。このブロックは各パートのモジュレーションエフェクトブロックの後に用意されており、音質を調整します。各パートでパワーアンプ / コンプレッサーのタイプを選択し、そのパラメーターを調整します。各タイプとパラメーターについて詳しくは、リファレンスの「パワーアンプ / コンプレッサー」(48 ページ)をご参照ください。

### リバーブブロック

ヤマハがプロオーディオ機器用に開発した、リバーブアルゴリズムを用いたリバーブエフェクトが複数搭載されています。このブロックは、両パートのピアノ音色に対して共通した残響効果を付加します。1つのパフォーマンスにおいて、1つのリバーブタイプを設定し、そのパラメーターを調整します。各タイプとパラメーターについて詳しくは、リファレンスの「リバーブ」(49 ページ)をご参照ください。

### コモンパラメーター

パフォーマンスの名称や発音方法、コントローラーの設定のほか、パートごとのパン、ピッチ、ベロシティーの設定を行ないます。外部 MIDI 機器と接続して、マスターキーボードとして機能させたい場合も、ここで設定します。各パラメーターについて詳しくは、リファレンスの「コモン」(50 ページ)をご参照ください。

### マスターEQ ブロック

全パフォーマンスに共通のマスターEQ を設定し、最終的な音質補正を行ないます。各パラメーターについて詳しくは、リファレンスの「マスターEQ」(54 ページ)をご参照ください。

## パフォーマンスのメモリー構成

CP1には、パフォーマンスを記憶させるためのメモリーが用意されています。メモリーには、大きく分けてプリセットパフォーマンスマモリー、ユーザーパフォーマンスマモリー、エクスターナルパフォーマンスマモリーの3種類があります。各メモリーの役割は、次のように異なります。

### プリセットパフォーマンスマモリー([PRESET] ボタン)

あらかじめ本体に内蔵されたパフォーマンスが記憶されています。プリセットパフォーマンスマモリーには、PRE A(プリセット A)バンク、PRE B(プリセット B)バンク、PRE C(プリセット C)バンクが用意されており、それぞれ 16 個のパフォーマンスが記憶されています。プリセットパフォーマンスマモリーでは、新たにパフォーマンスの保存はできません。

**NOTE** プリセットパフォーマンスの一覧は、別冊「DATA LIST」をご参照ください。

### ユーザーパフォーマンスマモリー([USER] ボタン)

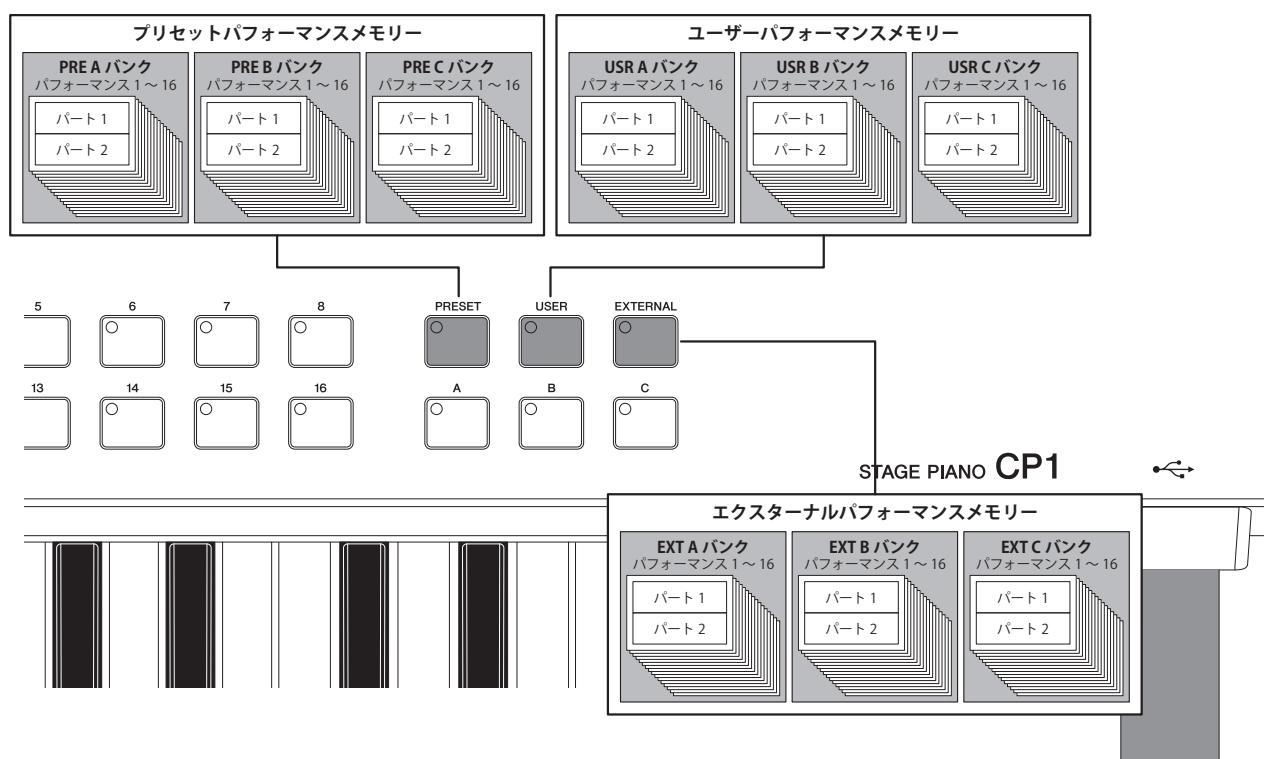
オリジナルのパフォーマンスを保存(ストア)しておくメモリーです。ユーザーパフォーマンスマモリーには、USR A(ユーザーA)バンク、USR B(ユーザーB)バンク、USR C(ユーザーC)バンクが用意されており、それぞれ 16 個のパフォーマンスを保存できます。初期状態では、プリセットと同じパフォーマンスが記憶されています。

**△注意** ユーザーバンクのパフォーマンスは、上書きされると消えてしまいます。オリジナルのパフォーマンスを保存する場合は、大切なパフォーマンスに上書き保存しないようにご注意ください。

### エクスターナルパフォーマンスマモリー([EXTERNAL] ボタン)

本体に接続した USB フラッシュメモリー上のメモリーです。オリジナルのパフォーマンスを保存(セーブ)できます。エクスターナルパフォーマンスマモリーには、EXT A(エクスターナル A)バンク、EXT B(エクスターナル B)バンク、EXT C(エクスターナル C)バンクが用意されており、それぞれ 16 個のパフォーマンスを保存できます。

USB フラッシュメモリーに保存したエクスターナルパフォーマンスデータを使う場合は、USB フラッシュメモリーを本体に接続して、エクスターナルパフォーマンスマモリーごと本体の DRAM にロードします。

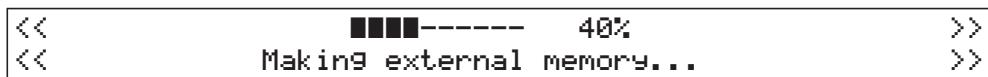


**HINT****エクスターナルパフォーマンスマモリーを使う場合について**

パフォーマンスデータをエクスターナルパフォーマンスマモリーに保存したり、USB フラッシュメモリー上のエクスターナルパフォーマンスデータを本体で使ったりする場合には、USB フラッシュメモリーを本体に接続する必要があります。このとき、接続する USB フラッシュメモリーの状態によって、接続時の本体の動作が異なります。ここでは、エクスターナルパフォーマンスマモリーを上手に使っていただくために、USB フラッシュメモリーを本体に接続したときの動作について説明します。

**●ルートディレクトリーにエクスターナルパフォーマンスマモリーが存在しない USB フラッシュメモリー**

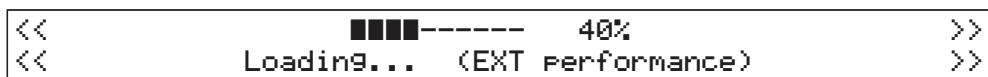
本体に接続した USB フラッシュメモリーには、接続直後に自動的にエクスターナルパフォーマンスマモリー (EXTBANK.C1E ファイル) がルートディレクトリーに作成されます。

**●ルートディレクトリーにエクスターナルパフォーマンスマモリーが存在する USB フラッシュメモリー**

本体に USB フラッシュメモリーを接続するのが、電源起動後の 1 回目か 2 回目以降かで、接続したときの動きが以下のとおり異なります。

**<電源起動後、1回目の接続>**

自動的に USB フラッシュメモリー上のデータを本体の DRAM 上にエクスターナルパフォーマンスデータとしてロードします。

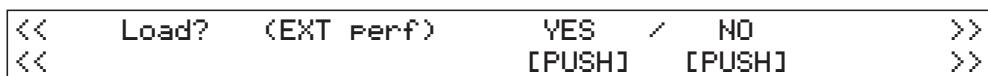


**NOTE** 電源起動後に別の USB フラッシュメモリーを本体に接続したことがある場合は、2回目以降の接続になります。

**△注意** USB フラッシュメモリー上有るエクスターナルメモリーを本体にロードすると、本体の DRAM (39 ページ) 上のエクスターナルパフォーマンスマモリーの全データやエディットバッファー上のデータが上書きされて消えてしまいます。USB フラッシュメモリーを接続する場合は、あらかじめ DRAM 上のエクスターナルパフォーマンスマモリーまたはエディットバッファー上に大切なデータがないか確認してください。

**<電源起動後、2回目以降の接続>**

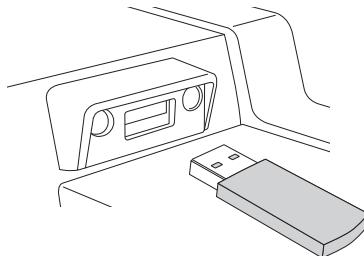
USB フラッシュメモリー上のデータを本体にロードするかどうか、確認する画面が表示されます。本体のエクスターナルパフォーマンスマモリー上で、消去したくない編集中のパフォーマンスデータがある場合は、ノブ 5 (「NO [PUSH]」) を押して、ロードするのをやめましょう。



**HINT****USB フラッシュメモリーの接続**

USB フラッシュメモリーを本体の USB TO DEVICE 端子に接続します。USB TO DEVICE 端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。

**NOTE** 本機は USB1.1 に対応していますが、USB2.0 の機器でも使用できます。ただし転送スピードは USB1.1 相当になりますので、ご了承ください。

**USB TO DEVICE 端子ご使用上の注意**

本機には USB TO DEVICE 端子があります。USB TO DEVICE 端子に USB 機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

**NOTE** USB 機器の取り扱いについては、お使いの USB 機器の取扱説明書もご参照ください。

**● 使用できる USB 機器**

CP1 でご利用いただける USB 機器は、USB フラッシュメモリーのみです。動作確認済み USB フラッシュメモリーについては、ご購入の前にインターネット上の下記 URL でご確認ください。

<http://www.yamahasynth.com/jp/>

**USB フラッシュメモリーの取り扱いについて**

本機に USB フラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で制作したデータを USB フラッシュメモリーに保存したり、USB フラッシュメモリーのデータを楽器本体にロードしたりできます。

**● USB フラッシュメモリーのフォーマット**

USB フラッシュメモリーの中には、本機で使用する前にフォーマットが必要なものがあります。USB TO DEVICE 端子に USB フラッシュメモリーを接続したときに、フォーマットを促すメッセージが表示された場合は、フォーマットを実行してください (62 ページ)。

**△ 注意** フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

**● 誤消去防止**

USB フラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用の前にお使いの USB フラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

**● USB フラッシュメモリーの抜き差し**

USB フラッシュメモリーを外すときは、ロード / セーブなどデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。

**△ 注意** USB フラッシュメモリーの頻繁な抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。また、ロード / セーブなどデータのアクセス中や USB フラッシュメモリーのマウント中は、USB フラッシュメモリーの抜き差しをしないでください。メモリーが壊れたり、楽器本体 / メモリーのデータが壊れたりするおそれがあります。

## コントローラー部

演奏を行なうキーボード、ピッチベンドホイール、ノブ、フットペダルなどの各種コントローラーが用意されています。キーボードは実際に音を出す装置ではなく、弾いた音程や強さなどの演奏情報を音源部に送信するための装置です。また、これと同様に各種コントローラーも、コントローラーを動かしたときの変化の情報を送信するための装置です。キーボードやコントローラーによる情報 (MIDI 情報) は、MIDI OUT 端子や USB TO HOST 端子を通じて外部 MIDI 機器やコンピューターへ出力することができます。

## CP1 の基本操作

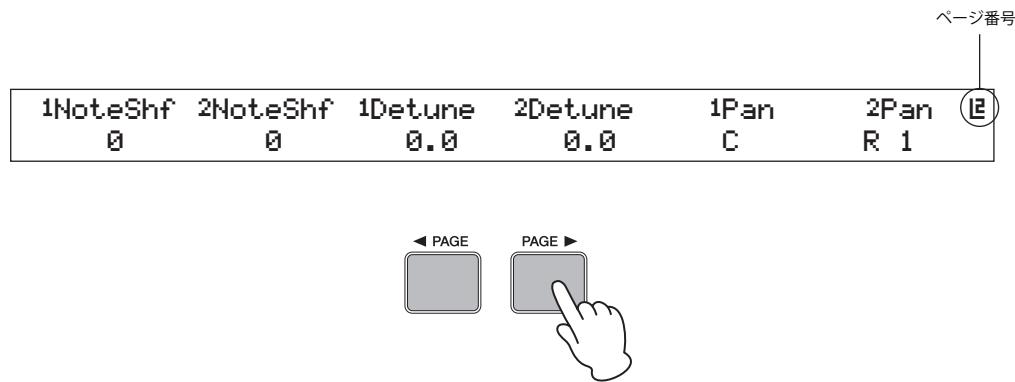
ここでは、CP1 の基本的な操作方法や画面表記の見方を説明します。

### ページの切り替え

CP1 の画面のうち、次の画面は複数ページ存在します。

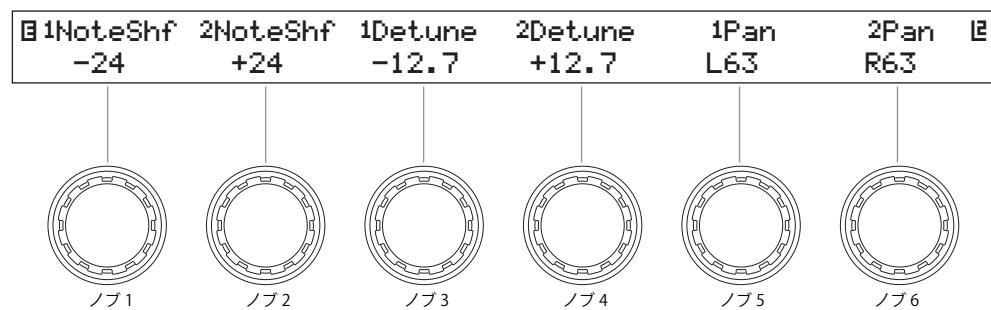
- ・パフォーマンスのトップ画面
- ・コモン設定画面
- ・ゾーンエディット画面
- ・マスターEQ 設定画面
- ・ユーティリティー設定画面
- ・ファイル設定画面

これらの画面は [◀PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを使ってページを移動させます。パフォーマンスのトップ画面とゾーンエディット画面以外の画面では、画面内の右上にページ番号が表示されます。



### 値の変更 / 設定

本体画面の下にあるノブ 1 ~ 6 を回す / 押すと、各ノブに対応するパラメーター値の変更や設定ができます。ノブを右方向(時計回り)に回すと値が増加し、左方向(反時計回り)に回すと値が減少します。

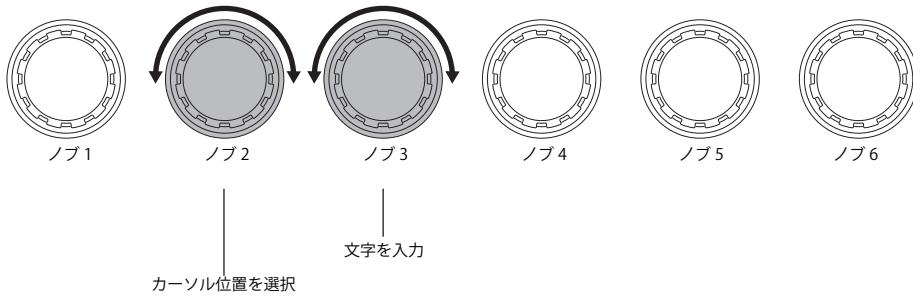


## 名前の設定

CP1 では、自分で編集したパフォーマンスに名前を設定できます(50 ページ)。また、本体から USB フラッシュメモリーに保存(セーブ)するファイルや、作成するディレクトリーにも名前を設定できます(60 ページ)。

各画面で名前を設定するには、画面上の「Cursor」パラメーターに対応するノブを回して文字を入力する位置を選択し、「Data」パラメーターに対応するノブを回して入力する文字を設定します。

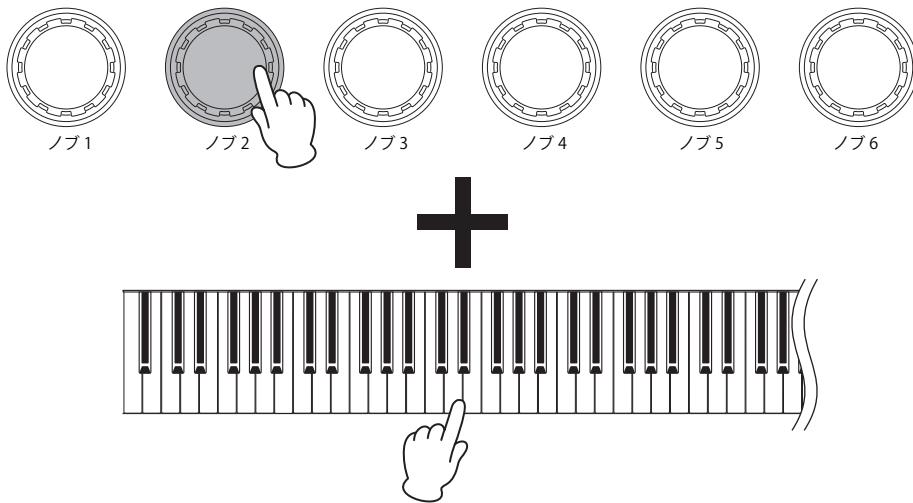
■	Name	Cursor	Data	KbdMode	L1
	[CF Grand]			layer	



## ノートナンバーの入力

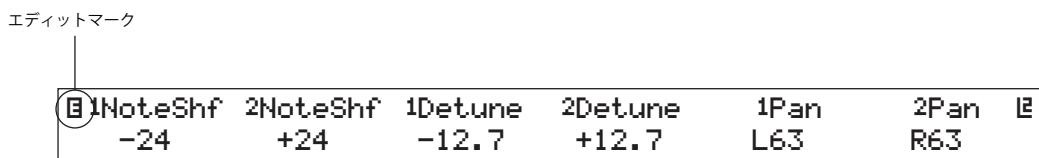
ノートを設定するパラメーターの場合、対応するノブを回して設定する以外に、対応するノブを押しながら鍵盤を押すことでもノートを設定できます。

Zone	Note Limit	Bank MSB	Bank LSB	PC Num	▶
Zone1	C 2 -- G 8	[on]	0	0	[on] 1



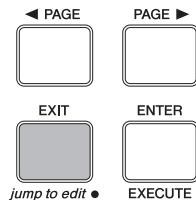
## エディットマーク

パフォーマンスを構成するパラメーターを編集すると、画面左上に **E**(エディット)マークが表示されます。この表示により、選択中のパフォーマンスが設定を変更された状態にあり、まだ保存されていないことを確認できます。現在の状態を保存するには、ストア(40 ページ)の操作を行ないます。



## 現在表示されている画面からの抜け方

CP1 のどの階層の画面を表示させていても、[EXIT] ボタンを押すと、1 つ前の階層の画面やパフォーマンスのトップ画面に戻ることができます。また、ピアノタイプまたはプリアンプ、モジュレーションエフェクト、パワーアンプ / コンプレッサー、リバーブ、マスターEQ の設定画面では、該当ボタンを長押し(1 秒以上押したままに)する、または [EXIT/jump to edit] ボタンを押しながら該当ボタンを押すことでも、パフォーマンスのトップ画面に戻ることができます。



# クイックガイド

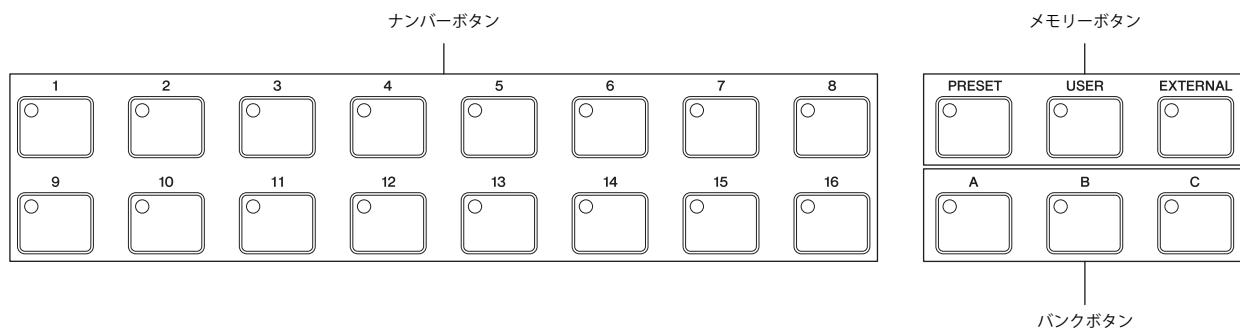
## パフォーマンスを演奏する

CP1には、「パフォーマンス」という演奏プログラムが複数搭載されています。CP1のトップ画面で好きなパフォーマンスを選択して鍵盤を弾くことで、パフォーマンスを鳴らすことができます。パフォーマンスは2パートで構成されており、2つのピアノ音色を重ねて鳴らしたり、鍵盤の音域やベロシティによって2つの音色を鳴らし分けたりすることができます。

## パフォーマンスを選ぶ

ここでは例としてプリセットパフォーマンスを選んで演奏してみましょう。

**NOTE** パフォーマンスのメモリー構成については、「CP1のしくみ」の「音源部」(19ページ)をご参照ください。



- 1 パフォーマンスのトップ画面で [◀ PAGE] ボタンを押して1ページ目を表示させます。  
パフォーマンスのトップ画面は2ページあり、ここでは1ページ目を表示させます。

**NOTE** 1ページ目はパフォーマンスや各パートのピアノタイプ、およびノブ1～6に割り当てられているパラメーターの名称が表示されるのに対し、2ページ目はノブ1～6に割り当てられているパラメーターの名称と設定値のみが表示されます。



**NOTE** ここに掲載しているパフォーマンスのトップ画面は操作説明のためのものです。したがって、実際とは異なる場合があります。

- 2 [PRESET] ボタンを押します。  
パフォーマンスマモリーのうち、プリセットパフォーマンスマモリーが選択され、[PRESET] ボタンのランプが点滅します。また、現在表示中のパフォーマンスに該当するバンクボタン、ナンバーボタンのランプも同時に点滅します。
- 3 バンク [A]～[C] ボタンのうち、いずれかのボタンを押します。  
PRE A(プリセット A)/PRE B(プリセット B)/PRE C(プリセット C) バンクが選択されます。

- 4 ナンバー[1]～[16]ボタンのうち、いずれかのボタンを押します。  
パフォーマンスが確定し、該当するメモリーボタン、バンクボタン、ナンバーボタンのランプが点灯状態に変わります。
- NOTE** プリセットパフォーマンスの一覧は、別冊「DATA LIST」をご参照ください。
- 5 鍵盤を弾いてみましょう。

**HINT**

**USB フラッシュメモリーに保存したエクスターナルパフォーマンスデータを本体で使う場合の手順**

- 1 USB フラッシュメモリー上のエクスターナルパフォーマンスデータが、USB フラッシュメモリーのルートディレクトリーにあることを確認します。
- 2 USB フラッシュメモリーを本体に接続します。  
USB フラッシュメモリー上のエクスターナルパフォーマンスデータが本体にロードされます。詳しくは、「CP1 のしくみ」の「エクスターナルパフォーマンスを使う場合」(22 ページ)をご参照ください。
- 3 パフォーマンストップ画面で [EXTERNAL] ボタンを押し、使いたいパフォーマンスを選択します。  
選択のしかたは、「パフォーマンスを選ぶ」の手順 3 以降と同じです。

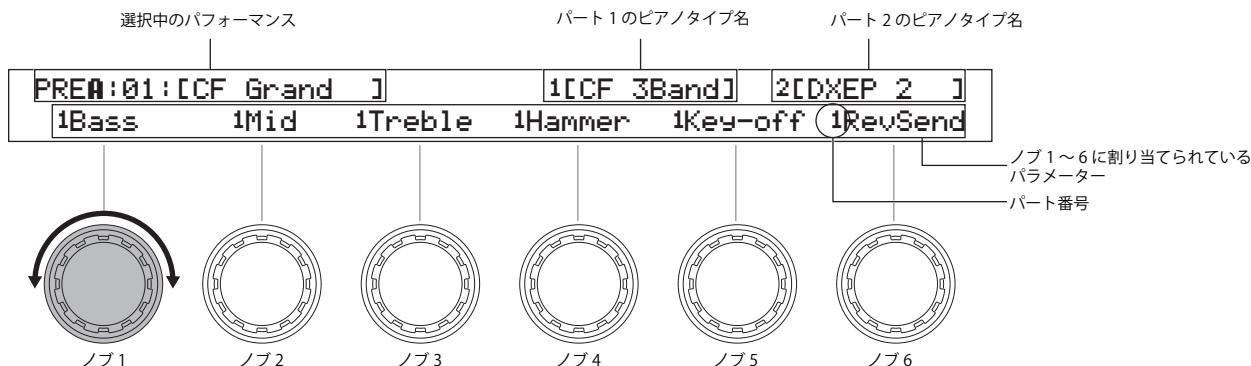
## ノブ 1～6 を使って音に変化をつける

### ■ノブ 1～6 を操作する

本体のノブ 1～6 には、パフォーマンスを構成するブロックのパラメーターがパフォーマンスごとに割り当てられています。該当するブロックは、ピアノブロック(ピアノタイプ、プリアンプ)、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロック、リバーブブロックです。割り当てられているパラメーターは、パフォーマンストップ画面に表示されています。パラメーターネームの左端についている数字は、パート 1/2 の番号を表しています。たとえば、「1Decay」はパート 1 の「Decay(ディケイタイム)」を表しています。ただし、パート 1 とパート 2 に共通のパラメーターについては、左端に数字は表示されません。

ノブ 1～6 を回すと、各ノブに割り当てられているパラメーターの設定値を変更でき、選択中のパフォーマンスの音を変化させることができます。

パフォーマンスのトップ画面（1 ページ目）



パフォーマンスのトップ画面の 1 ページ目で各ノブに割り当てられているパラメーターの設定値を確認したい場合は、ノブ 1～6 を押します。

[PAGE▶] ボタンを押すと、パフォーマンスのトップ画面の 2 ページ目が表示されます。2 ページ目には、次の画面のように、ノブ 1～6 に割り当てられているパラメーターとその設定値のみが表示されます。[◀PAGE] ボタンを押すことで、1

ページ目に戻ることができます。各パラメーターの名称と設定値を常に表示させておきたい場合は、2ページ目の画面をご利用ください。

パフォーマンスのトップ画面（2ページ目）

ノブ1～6に割り当てられているパラメーター					
1Bass	1Mid	1Treble	1Hammer	1Key-off	1RevSend
+0.5dB	+0.0dB	+1.0dB	Normal	+0	11

各パラメーターの設定値

## ■ノブ1～6に割り当てるパラメーターを設定する

ノブ1～6に割り当てられているパラメーターは、次の手順で変更できます。

- 1 パフォーマンスのトップ画面で [STORE/ASSIGN] ボタンを長押し(1秒以上押したまま)します。  
プロックの選択を促す画面が表示され、[PIANO 1]/[PIANO 2] ボタン、[PRE-AMPLIFIER 1]/[PRE-AMPLIFIER 2] ボタン、[MODULATION EFFECT 1]/[MODULATION EFFECT 2] ボタン、[POWER-AMPLIFIER /COMPRESSOR 1]/[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR 2] ボタン、[REVERB] ボタンの各ランプが点滅します。

Select Piano/PreAmp/ModEffect/PowerAmp/Reverb SW!!

**NOTE** 各プロックの設定画面で [STORE/ASSIGN] ボタンを長押しした場合は、手順3からの操作になります。

- 2 [PIANO 1]/[PIANO 2] ボタン、[PRE-AMPLIFIER 1]/[PRE-AMPLIFIER 2] ボタン、[MODULATION EFFECT 1]/[MODULATION EFFECT 2] ボタン、[POWER-AMPLIFIER /COMPRESSOR 1]/[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR 2] ボタン、[REVERB] ボタンのうちいずれかのボタンを押します。  
プロックが確定し、パラメーターの選択を促す画面が表示されます。

Select Parameter!!  
Decay Release Key-off DampReso Hammer

- 3 設定したいパラメーターの表示と対応しているノブを押します。  
パラメーターが確定し、割り当て先のノブの選択を促す画面が表示されます。

Select Assignable Knob!!  
1Decay 1Release 1DampRes 2Decay 2Release 2Key-off

- 4 割り当て先にするノブを押します。  
割り当て先のノブが確定し、パフォーマンスのトップ画面に戻ります。画面上で、ノブに割り当てられているパラメーターが変更されていることが確認できます。

### HINT

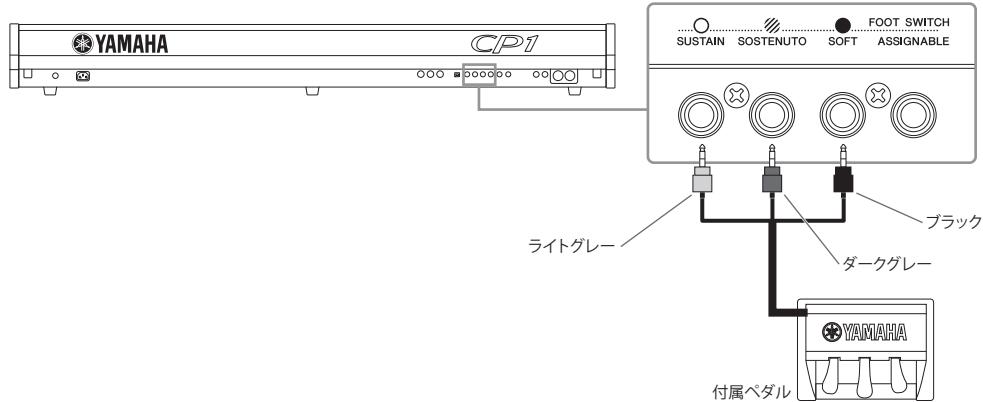
#### ノブ1～6に設定したパラメーターを解除する方法

パフォーマンスのトップ画面の2ページ目で、[EXIT] ボタンを押しながら設定を解除したいノブを押します。該当ノブには何も割り当てられていない状態になります。

**NOTE** ピアノプロックまたはモジュレーションエフェクトプロック、パワーインプ/コンプレッサー/リバーブプロックに設定されているタイプを変更した場合（33ページ）、ノブ1～6に割り当てられていたパラメーターが現在のパフォーマンスに存在しなくなることがあります。その場合、該当ノブの画面表示欄は「\*\*\*」となり、何も割り当てられていない状態になります。

## ペダルを使って演奏する

付属ペダルを本体の FOOT SWITCH [SUSTAIN]/[SOSTENUTO]/[SOFT] 端子に接続して(12 ページ)、演奏しながら使ってみましょう。



接続する端子によって、割り当てられる機能が異なります。各端子は、以下の用途で使えます。

### FOOT SWITCH [SUSTAIN] 端子

付属ペダルの右側のサステインペダル(ライトグレーのプラグ)を接続します。このペダルを踏んでいる間、弾いた音を鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。またサステインペダルはハーフダンパー演奏に対応しているので、踏み込むほど音が長く伸びます。

**NOTE** 別売のフットペダル FC3 およびフットスイッチ FC4/FC5 も FOOT SWITCH [SUSTAIN] 端子に接続できます。ただし、FC4/FC5 はハーフダンパー演奏に対応していません。別売のペダルを接続する場合は、接続するペダルによって、ユーティリティーの「SusPedal (サステインペダル)」(57 ページ) の設定を変更してください。

### FOOT SWITCH [SOSTENUTO] 端子

付属ペダルの真ん中のソステヌートペダル(ダークグレーのプラグ)を接続します。このペダルを踏んだときに押されていった鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。

### FOOT SWITCH [SOFT] 端子

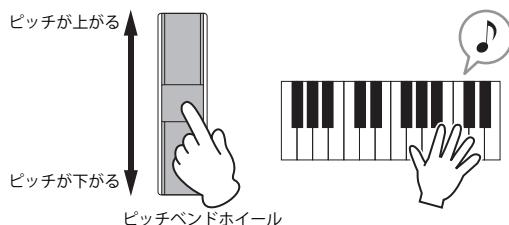
付属ペダルの左側のソフトペダル(ブラックのプラグ)を接続します。このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏んだときに押させていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。

**NOTE** FOOT SWITCH [SOSTENUTO]/[SOFT] 端子に割り当てられている機能は、変更できます。変更するには、コモンの 4 ページの設定画面 (54 ページ) で設定します。

**NOTE** 別売のフットスイッチ FC4/FC5 も FOOT SWITCH [SOSTENUTO]/[SOFT] 端子に接続できます。

## 音のピッチを変える

鍵盤演奏しながら本体のピッチベンドホイールを動かすと、鍵盤演奏で鳴っている音のピッチを上げたり下げたりできます。ホイールを奥に回すとピッチが上がり、手前へ回すとピッチが下がります。ピッチベンドホイールから手を離すと、自動的に真ん中の位置に戻り、本来のピッチに戻ります。鍵盤演奏をしながら、ピッチベンドホイールを上下に動かしてみましょう。



## パフォーマンスを構成するブロックのオン / オフを切り替える

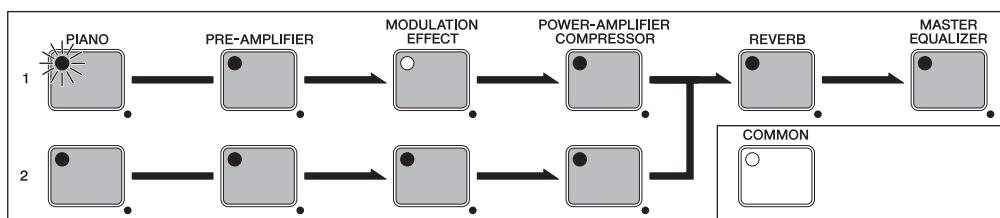
パフォーマンスの演奏中に、パフォーマンスを構成する各ブロック(19ページ)のボタンを押すことで、パート1/2の各ブロックをオン / オフに切り替えできます。該当するブロックは、ピアノブロック([PIANO 1]/[PIANO 2]と[PRE-AMPLIFIER 1]/[PRE-AMPLIFIER 2])、モジュレーションエフェクトブロック([MODULATION EFFECT 1]/[MODULATION EFFECT 2])、パワーインプ / コンプレッサーブロック([POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR 1]/[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR 2])、リバーブブロック([REVERB])、マスターEQブロック([MASTER EQUALIZER])です。各ブロックがオンの場合は該当ボタンのランプが点灯し、各ブロックがオフの場合は該当ボタンのランプが消灯します。

ただし、ブロックによっては、ブロック全体のオン / オフとは異なる動きをします。[PIANO 1]/[PIANO 2]ボタンを押した場合は、パート1/2のオン / オフになります。また、[PRE-AMPLIFIER 1]/[PRE-AMPLIFIER 2]ボタンを押した場合は、割り当てられているピアノタイプによってプリアンプの状態が以下のとおり異なります。

ピアノタイプ	[PRE-AMPLIFIER] ボタンを押した場合の状態
71Rd I, 73Rd I, 75Rd I, 78Rd II, 69Wr, 77Wr	ビブラート効果のオン / オフ。「Gain」、トーンコントロール効果、「Volume」については、常に有効。
CF 3Band, CF 2Band, S6 3Band, S6 2Band, DXEP 1, DXEP 2, DXEP 3, DXEP 4	トーンコントロール効果のオン / オフ。「Gain」と「Volume」は、常に有効。
上記以外	プリアンプ全体が常に有効。

さらに、[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR 1]/[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR 2]ボタンを押した場合は、「Output」パラメーター(48ページ)以外のパワーインプ / コンプレッサーブロックの機能がオン / オフになります。「Output」パラメーターは常に有効です。

パフォーマンスを演奏しながら各ブロックのボタンを押して、オン / オフを切り替えてみましょう。

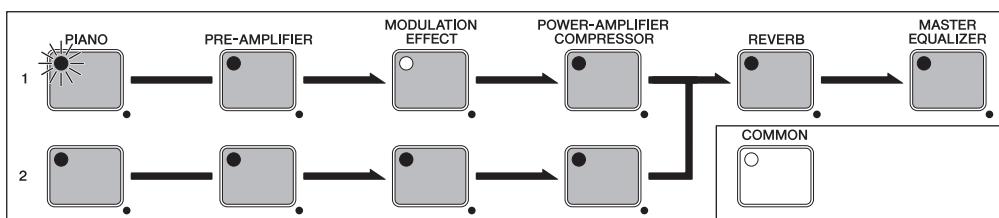


**HINT****ボタンのランプの点灯状態**

パフォーマンスを構成するブロックのうち、コモン以外の各ブロックのボタンにあるランプの点灯状態が、本体の設定によって次のように異なります。該当するボタンは、[PIANO 1]/[PIANO 2] ボタン、[PRE-AMPLIFIER 1]/[PRE-AMPLIFIER 2] ボタン、[MODULATION EFFECT 1]/[MODULATION EFFECT 2] ボタン、[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR 1]/ [POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR 2] ボタン、[REVERB] ボタン、[MASTER EQUALIZER] ボタンです。

- ・ 消灯 ..... パート 1/2 の各ブロックのオフ
- ・ 点灯 ..... パート 1/2 の各ブロックのオン
- ・ 点滅（点灯時間が長く、消灯時間が短い場合） ..... パート 1/2 のブロックがオンの状態で、該当ブロックの設定画面を表示中
- ・ 点滅（点灯時間が短く、消灯時間が長い場合） ..... パート 1/2 のブロックがオフの状態で、該当ブロックの設定画面を表示中

**NOTE** [PRE-AMPLIFIER] ボタンをオフにしてランプが消灯または点滅（点灯時間が短く、消灯時間が長い場合）している場合は、割り当てられているピアノタイプによって、プリアンプの機能状態が異なります。詳しくは、クイックガイドの「パフォーマンスを構成するブロックのオン/オフを切り替える」をご参照ください。



**NOTE** [COMMON] ボタンのランプは、消灯と点灯の 2 種類の状態になります。ランプが点灯するとコモンの設定画面が表示されていることを示し、ランプが消灯するとコモン以外の画面が表示されていることを示します。

## オリジナルのパフォーマンスを作る

パフォーマンスを構成するブロックおよびコモンパラメーターの設定をすることで、オリジナルのピアノサウンドを作成できます。次の設定手順にしたがって、音を聴きながら各ブロックを編集してみましょう。ここでは、ピアノブロック、ミュージレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロックを先に設定し、その後、リバーブブロック、コモンパラメーターを設定してパフォーマンスを作成し、最後に音を鳴らす環境に合わせてマスターEQを設定するという順番を例にして説明します。

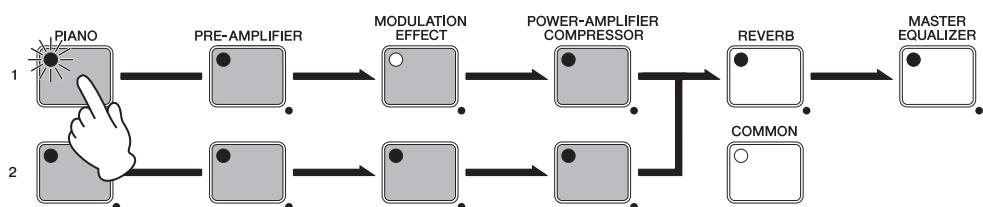
**NOTE** パフォーマンスを構成するブロックについて詳しくは、「CP1 のしくみ」の「音源部」(19 ページ) をご参照ください。

- 1 編集対象とするパフォーマンスナンバーを選択します(27 ページ)。

**⚠ 注意** エクステナーバンク上でパフォーマンスを作成する場合は、USB フラッシュメモリーを先に本体に接続してから行なってください。本体に一度接続したことのある USB フラッシュメモリーを接続すると、自動的に USB フラッシュメモリー上にあるエクステナーメモリーのファイルが本体にロードされ、本体で作成していたエクステナーバンクのデータが上書きされて消えてしまいます。

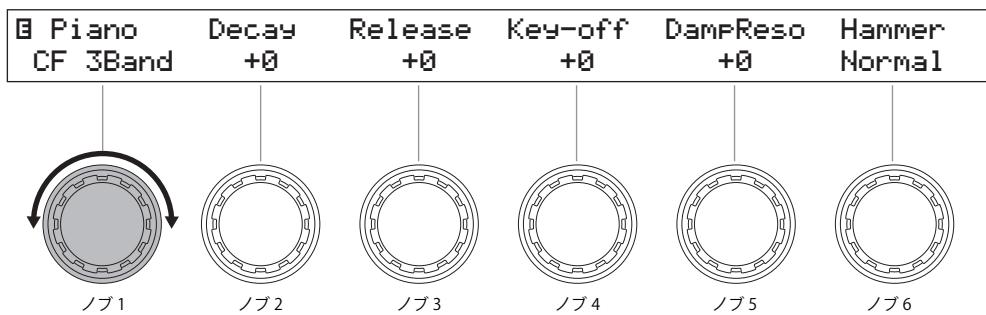
- 2 [PIANO 1]/[PIANO 2] ボタン、[PRE-AMPLIFIER 1]/[PRE-AMPLIFIER 2] ボタン、[MODULATION EFFECT 1]/[MODULATION EFFECT 2] ボタン、または [POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR 1]/[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR 2] ボタンのうち、編集したいブロックのボタンを長押し(1 秒以上押したまま)します。

該当するブロックの設定画面が表示されます。



**NOTE** [EXIT/jump to edit] ボタンを押しながら該当ブロックのボタンを押しても、設定画面を表示できます。

- 3 ノブ 1 を回して該当するブロックのタイプを設定します。ただし、プリアンプの場合は、タイプは自動的に設定されているので、そのまま手順 4 に進みます。



- 4 ノブ 2 ~ 6(プリアンプの場合は、ノブ 1 ~ 6)のうち、編集したいパラメーターに対応するノブを回します。各パラメーターについて詳しくは、リファレンスの該当ブロックのページ(43 ~ 48 ページ)をご参照ください。

- 5 手順 2 に戻って、他のブロックの設定を行ないます。設定が終わったら、手順 6 に進みます。

- 6 [REVERB] ボタンを長押し(1 秒以上押したまま)します。

リバーブの設定画面が表示されます。

**NOTE** [EXIT/jump to edit] ボタンを押しながら [REVERB] ボタンを押しても、設定画面を表示できます。

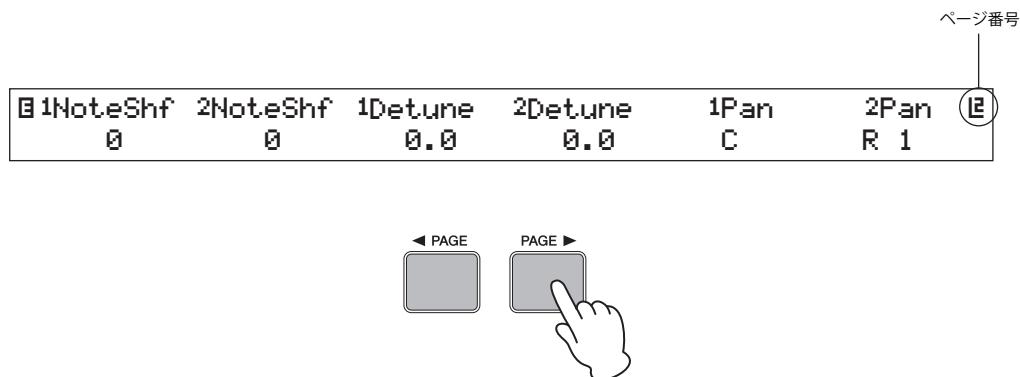
- 7 ノブ 1 を回してリバーブのタイプを設定します。

- 8 ノブ 2 ~ 6 のうち、編集したいパラメーターに対応するノブを回します。

各パラメーターについて詳しくは、リファレンスの「リバーブ」(49 ページ)をご参照ください。

## オリジナルのパフォーマンスを作る

- 9 [COMMON] ボタンを押します。  
コモンの設定画面が表示されます。
- 10 [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して、編集したいパラメーターがあるページを表示します。



- 11 ノブ1～6のうち、編集したいパラメーターに対応するノブを回します。  
各パラメーターについて詳しくは、リファレンスの「コモン」(50～54ページ)をご参照ください。
- 12 他のページのパラメーターも編集する場合は、手順10に戻ります。設定が終わったら、手順13に進みます。

- 13 [STORE] ボタンを押して、変更したパフォーマンスを保存(ストア)します。  
ピアノプロック(ピアノタイプとプリアンプ)、ミュレーションエフェクトプロック、パワーインプ/コンプレッサー/ブロック、リバーブブロック、コモンパラメーターの設定は、パフォーマンスとして保存できます。保存方法の詳細については、40ページをご参照ください。

**NOTE** エクステナルメモリーに保存する場合は、[STORE] ボタンを押す前に USB フラッシュメモリーを本体の USB TO DEVICE 端子に接続してください。

- 14 [MASTER EQUALIZER] ボタンを長押し(1秒以上押したまま)します。  
マスターEQの設定画面が表示されます。
- NOTE** [EXIT/jump to edit] ボタンを押しながら [MASTER EQUALIZER] ボタンを押しても、設定画面を表示できます。
- 15 [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して、編集したいパラメーターがあるページを表示します。
- 16 ノブ1～6のうち、編集したいパラメーターに対応するノブを回します。  
各パラメーターについて詳しくは、リファレンスの「マスターEQ」(55ページ)をご参照ください。
- 17 他のページのパラメーターも編集する場合は、手順15に戻ります。設定が終わったら、手順18に進みます。
- 18 [STORE] ボタンを押して、マスターEQの設定を保存します。  
マスターEQブロックの設定は、本体のシステム設定として保存できます。保存方法の詳細については、40ページをご参照ください。

## MIDI 機器と接続して使用する

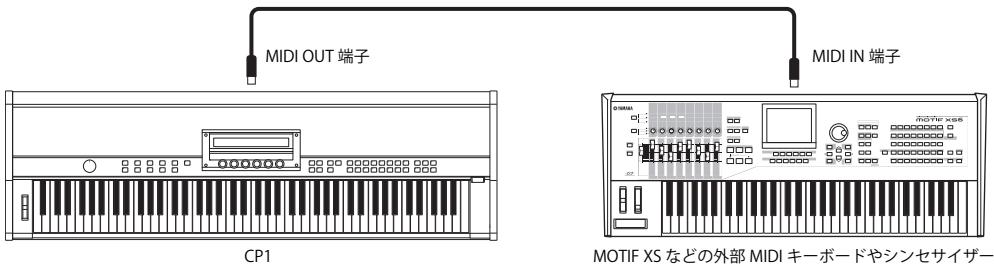
市販の MIDI ケーブルを使って CP1 の MIDI IN/OUT/THRU 端子と外部 MIDI 機器の MIDI 端子を接続します。ここでは、CP1 から外部 MIDI 機器をコントロールする場合について説明します。

**NOTE** CP1 と外部機器を接続した場合も、音を出すためには、外部ステレオシステムやアンプ、スピーカーなどとの接続が必要となります。ヘッドフォンをお使いになれば直接音を聞くこともできます。詳しくは、演奏前の準備の「外部オーディオ機器と接続する」(11 ページ) をご参照ください。

**⚠ 注意** 外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った状態で行なってください。また、すべての機器のボリュームが 0 になっていることを確認して、MIDI 送信側の機器→MIDI 受信側の機器→外部オーディオ機器（ミキサー→アンプ）の順で電源を入れてください。また、電源を切る場合は外部オーディオ機器のボリュームを下げ、逆の順番で切ってください。

### CP1 で外部シンセサイザーをコントロールする

本体の鍵盤演奏で、ほかの MIDI 音源（シンセサイザー、音源モジュールなど）の音を鳴らすことができます。



この接続では、CP1 の MIDI 送信チャンネルと、外部音源の MIDI 受信チャンネルを一致させる必要があります。CP1 では、本体の音源と外部音源を同時に鳴らすだけでなく、本体の音と外部音源の音を鳴らしわけることもできます。ここでは、本体の音と外部音源の音を鳴らしわける場合の設定について説明します。鳴らしわける必要がない場合は、以下の手順 1～2 を設定したあと、ユーティリティー設定画面の 4 ページ目 (58 ページ) で送信チャンネルを設定し、外部 MIDI 機器の受信チャンネルと同じチャンネルに設定します。

- 1 [UTILITY] ボタンを押し、[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してユーティリティー設定画面の 4 ページ目 (58 ページ) を表示させます。
- 2 ノブ 5 を回して、「In/Out (MIDI In/Out)」を「MIDI」に設定します。  
MIDI メッセージの入出力口が MIDI 端子に設定されます。
- 3 [STORE] ボタンを押して、設定を本体に保存します。  
本体のシステム設定として保存できます。保存方法の詳細については、40 ページをご参照ください。
- 4 [EXIT] ボタンを押してパフォーマンスのトップ画面に戻り、演奏したいパフォーマンスを選択します (27 ページ)。
- 5 [COMMON] ボタンを押し、[◀PAGE] ボタンを押してコモン設定画面の 1 ページ目を表示させます。
- 6 ノブ 5 を回して「KbdMode (キーボードモード)」を「zone」に設定します。
- 7 ノブ 6（「ZoneEdit [PUSH]」）を押します。  
ゾーンエディット画面が表示されます。
- 8 ノブ 1 を回して、「Zone」を編集したいゾーンに設定します。  
ゾーン 1（「zone1」）はパート 1、ゾーン 2（「zone2」）はパート 2、ゾーン 3 とゾーン 4（「zone3」、「zone4」）は外部音源用のパートになります。各ゾーンの MIDI 送受信チャンネルは固定されています。詳しくは、リファレンスの「ゾーンエディット」(51 ページ) をご参照ください。
- 9 ノブ 2～6 を回して、手順 8 で設定したゾーンのパラメーターを設定します。  
各パラメーターについて詳しくは、リファレンスの「ゾーンエディット」(51 ページ) をご参照ください。

**10** [PAGE▶] ボタンを押してゾーンエディット画面の 2 ページ目を表示し、ノブ 2 ~ 6 を回して、手順 8 で設定したゾーンのパラメーターを設定します。

**11** 外部 MIDI 機器の MIDI 受信チャンネルを「3」または「4」に設定します。

外部音源用のパートとなるゾーン 3 またはゾーン 4 の送信チャンネルと合わせます。この接続により、本体の音と外部音源の音との鳴らし分けができます。

#### HINT

MIDI [THRU] 端子は、MIDI [IN] 端子からはいってきた信号をそのまま外部に出力するための端子です。外部コントローラーから CP1 の音源を鳴らすだけでなく、MIDI THRU 端子を通じて別の MIDI 音源を鳴らすこともできます。

## コンピューターと接続して使用する

本体とコンピューターを接続することで、MIDI データの送受信ができます。コンピューター上でシーケンサーを再生させて本体音源を鳴らしたり、CP1 からコンピューターへ MIDI データを送信したりできます。

### USB ケーブルを使って接続する

本体の USB TO HOST 端子とコンピューターの USB 端子を、USB ケーブルで接続する方法について説明します。送受信できるデータは、MIDI データのみです。

**NOTE** 音を出すためには、本体に外部ステレオシステムやアンプ、スピーカーなどを接続する必要があります。ヘッドフォンをお使いになれば直接音を聞くこともできます。詳しくは、演奏前の準備の「外部オーディオ機器と接続する」(11 ページ) をご参照ください。

**1** 以下の URL から、最新の USB-MIDI ドライバーをダウンロードします。

ダウンロードボタンを押したあと、ファイルの実行および解凍をします。

[http://www.yamaha.co.jp/download/usb\\_midi/](http://www.yamaha.co.jp/download/usb_midi/)

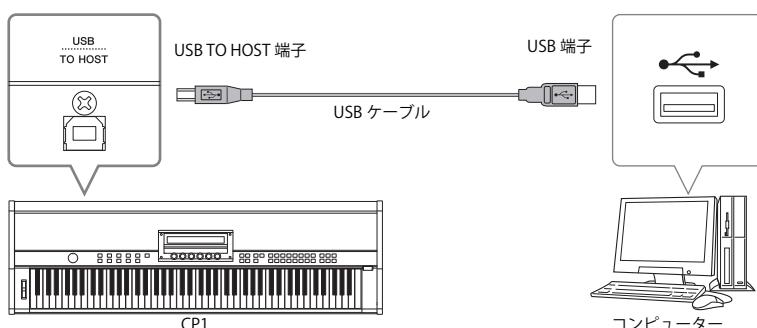
**NOTE** 動作環境については、上記 URL をご参照ください。

**NOTE** USB-MIDI ドライバーは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。詳細および最新情報については、上記 URL をご確認ください。

**2** USB-MIDI ドライバーをコンピューターにインストールします。

ダウンロードしたファイルに付属されているインストールガイドをご参照ください。

手順の中の、PA 機器 / 電子楽器の USB TO HOST 端子を USB ケーブルで接続する箇所については、下図を参考にしてください。



**3** 本体を USB TO HOST 端子を通して MIDI を送受信する状態に切り替えます。

[UTILITY] ボタンを押し、[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してユーティリティー設定画面の 4 ページ目 (58 ページ) を表示させます。ノブ 5 を回して「In/Out(MIDI In/Out)」を「USB MIDI」に設定します。

**NOTE** 本体とコンピューターを MIDI ケーブルを使って接続する場合は、「In/Out」を「MIDI」に設定します。

## 4 [STORE] ボタンを押して、設定を本体に保存します。

本体のシステム設定として保存されます。保存方法の詳細については、40 ページをご参照ください。

### USB TO HOST 端子ご使用時の注意

USB TO HOST 端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。以下のことを行なわないと、コンピューターや本体が停止（ハングアップ）して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。

コンピューターと本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動したり、本体の電源を入れなおしてください。

- ・ USB ケーブルは、AB タイプのものをご使用ください。
- ・ USB TO HOST 端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力（サスペンド / スリープ / スタンバイ / 休止）モードを解除してください。
- ・ 本体の電源を入れる前に、USB TO HOST 端子とコンピューターを接続してください。
- ・ 本体の電源オン / オフや USB ケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
  - すべてのアプリケーションを終了させてください。
  - 本体からデータが送信されていないか確認してください。（鍵盤を演奏すると、本体からデータが送信されます。）
- ・ 本体の電源オン / オフや USB ケーブルの抜き差しは、6 秒以上間隔を空けて行なってください。

### HINT

#### コンピューターから MIDI でパフォーマンスを選ぶ

コンピューター上のアプリケーションソフトウェアから、MIDI メッセージで本体のパフォーマンスを選択できます。この場合は、MIDI メッセージとして下記 3 つを本体に送信する必要があります。

- ・ バンクセレクト MSB
- ・ バンクセレクト LSB
- ・ プログラムチェンジ

本体パフォーマンスに割り当てられている、バンクセレクト MSB、バンクセレクト LSB、プログラムチェンジは、別冊「DATA LSIT」の「MIDI Data Table」をご参照ください。

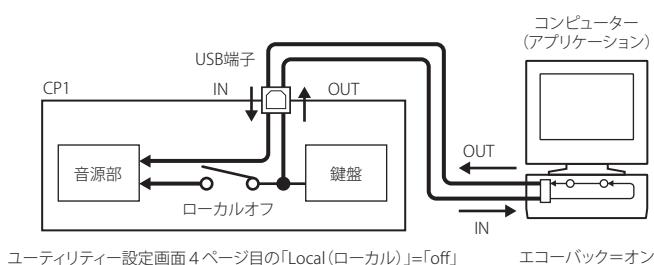
## コンピューターと接続しているときのローカルオン / オフの設定

本体をコンピューターと接続して使用する場合、通常は、鍵盤で演奏したデータをコンピューターに送信し、その情報をコンピューターから返してもらって音源部を鳴らします。このときに本体のローカルコントロールの設定がオンになっていると直接音源部にも情報を送信してしまうので、音が重なって発音してしまいます。

コンピューター上のアプリケーションにもよりますが、一般的には以下のように設定すると音が重なって鳴らず、適切なサウンドが得られます。

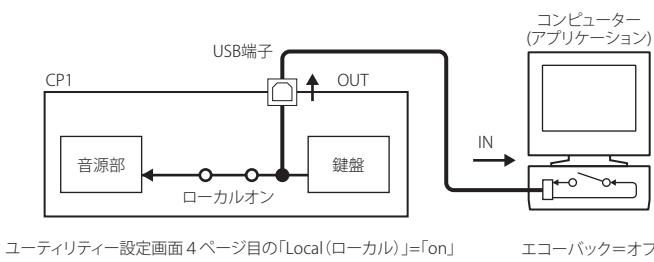
### ■ アプリケーションの設定でエコーバック (MIDI スルー)= オンのとき

本体のローカルコントロールをオフに設定します。



### ■ アプリケーションの設定でエコーバック (MIDI スルー)= オフのとき

本体のローカルコントロールをオンに設定します。



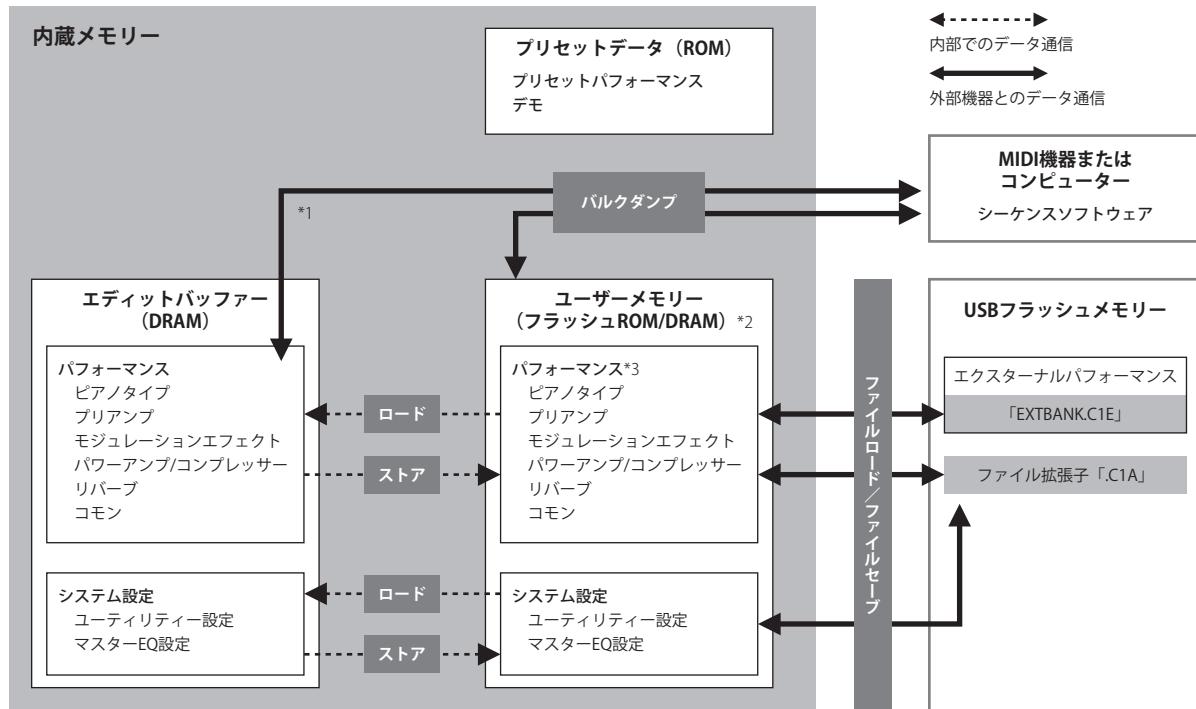
\* エコーバックとは、MIDI IN から受信した MIDI データを、MIDI OUT にスルーアウトする機能です。コンピューター用のアプリケーションでは、MIDI スルーとも言います。

**NOTE** エコーバックについて詳しくは、それぞれのアプリケーションに付属の取扱説明書をご参照ください。

# 設定を保存する

## メモリー構成

CP1 の内部メモリーおよび外部機器との関係は下図のとおりです。



\*1: エディットバッファーのパルクダンプは、現在エディット中のデータだけが対象となります。

\*2: ユーザーパフォーマンスマモリーはフラッシュROMにあり、エクスターナルパフォーマンスマモリーはDRAMにロードされます。

\*3: ユーザーパフォーマンスとエクスターナルパフォーマンスの両方の場合を1つにまとめて表しています。

### フラッシュROM

ROM(ロム =Read Only Memory の略)とは、読み出し専用のメモリーのことです。従来はデータを書き換えることはできませんでした。それに対してフラッシュROMは、従来の ROM と違ってデータの消去 / 書き込みができる ROM です。フラッシュROM 上のデータは、電源を切っても消えません。

### DRAM

RAM(ラム =Random Access Memory の略)は、読みだし / 書き込みの両方が可能なメモリーのことです。RAMには、記憶を保持できる条件により SRAM(Static RAM)と DRAM(Dynamic RAM)の2種類があります。本体に搭載されているのは、DRAMのみです。DRAM上のデータは電源を切ると消えてしましますので、電源を切る前に、フラッシュROMへの保存が必要です。

### エディットバッファーとユーザーメモリー

エディットバッファーとは、1つのパフォーマンスデータやシステム設定を編集(エディット)するための作業用メモリーエリアです。このエリアで作業して作ったデータを、ユーザーメモリーに保存(ストア)することになります。

別のパフォーマンスを選択すると、エディットバッファーの内容は、選択後のパフォーマンスに書き換えられます。保存が必要な場合は、変更前にユーザーメモリーにストアする必要があります。

## 設定を保存する

作成したオリジナルのパフォーマンスは、本体のユーザー・パフォーマンスメモリーまたはエクステナナル・パフォーマンスメモリーに保存できます。また、マスターEQおよびユーティリティー設定は、システム設定として本体のユーザー・メモリーに保存できます。さらに、編集中のパフォーマンスデータを外部MIDI機器やDAWソフトウェアにバルクデータとして保存できます。

**NOTE** パフォーマンスネームを変更する場合は、コモン・パラメーターで設定します。詳しくは、リファレンスの50ページをご参照ください。

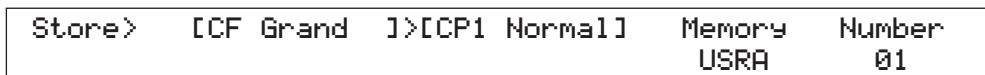
**△注意** ストアを実行すると、ストア先のデータは失われてしまいます。大切なデータは、あらかじめUSBフラッシュメモリーなどに保存（セーブ）しておくことをおすすめします。

### ■パフォーマンスを保存する

**NOTE** USBフラッシュメモリー（エクステナナルメモリー）に保存したい場合は、あらかじめUSBフラッシュメモリーを本体に接続しておきます。

- 1 パフォーマンスの編集が終わったら、[STORE]ボタンを押します。

ストア画面が表示されます。



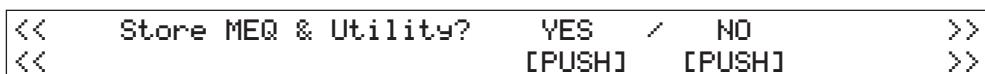
- 2 ノブ5とノブ6を回してストア先のメモリーとパフォーマンスナンバーを選択します。  
エクステナナルメモリーをストア先に選択する場合は、USBフラッシュメモリーが本体に接続されていることを確認します。
- 3 [ENTER]ボタンを押します。  
実行の確認画面が表示されます。
- 4 ノブ4（「YES [PUSH]」ボタン）を押して、ストアを実行します。  
画面に「Completed.」が表示されるとストアが終了し、ストア先のパフォーマンスのトップ画面が表示されます。  
ストアを中止したい場合は、実行の確認画面でノブ5（「NO [PUSH]」）または[EXIT]ボタンを押します。

**△注意** 画面に「Executing…」と表示されているときは、電源を切らないでください。「Executing」が表示されているときに電源を切ると、保存前のパフォーマンスデータが消えてしまうおそれがあります。

### ■マスターEQとユーティリティーの設定を保存する

- 1 マスターEQまたはユーティリティーの設定画面上で、[STORE]ボタンを押します。

ストア実行の確認画面が表示されます。



- 2 ノブ4（「YES [PUSH]」）ボタンを押して、ストアを実行します。  
画面に「Completed.」が表示されるとストアが終了し、マスターEQまたはユーティリティーの設定画面が表示されます。  
ストアを中止したい場合は、実行の確認画面でノブ5（「NO [PUSH]」）を押すか、または[EXIT]ボタンを押します。

**△注意** 画面に「Executing…」と表示されているときは、電源を切らないでください。「Executing」が表示されているときに電源を切ると、保存前のパフォーマンスデータが消えてしまうおそれがあります。

## ■選択中のパフォーマンスを外部機器に保存する(バルクダンプ)

現在編集中のパフォーマンスデータ(エディットバッファー上のデータ)を、バルクダンプ機能を使って本体に接続されている外部 MIDI 機器や DAW ソフトウェアなどに MIDI データとして記録することにより、保存できます。ここでは、DAW ソフトウェアに保存する場合について、説明します。

**NOTE** コンピューターと CP1 との接続については、36 ページをご参照ください。

**NOTE** バルクダンプを行なうためには、「DevNo (デバイスナンバー)」が正しく設定されている必要があります。詳細は、リファレンスの 58 ページをご参照ください。

### データを保存する

- 1 [UTILITY] ボタンを押し、[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してユーティリティー設定画面の 4 ページ目(58 ページ)を表示させます。
- 2 DAW ソフトウェアの MIDI トラックを選択し、リアルタイムレコーディングを開始します。
- 3 CP1 のユーティリティー設定画面の 4 ページ目でノブ 6(「BulkDump [PUSH]」)を押し、続けてノブ 4(「YES [PUSH]」)ボタンを押します。  
CP1 から DAW ソフトウェアに現在編集中のパフォーマンスがバルクデータとして送信され DAW ソフトウェアの MIDI トラックに記録されます。
- 4 DAW ソフトウェア上で、バルクデータが録音されたプロジェクトファイルを保存します。

### データを復元する

- 1 DAW ソフトウェア上で、復元したいバルクデータが含まれているプロジェクトファイルを開きます。
- 2 DAW ソフトウェア上で、バルクデータを含んだプロジェクトファイルを再生します。

**△注意** バルクを受信すると、本体の編集中のパフォーマンスデータは、バルクデータに合わせて上書きされます。大切なデータは上書きしないよう ござんまい。

## USB フラッシュメモリーとファイルをやりとりする

CP1 では、本体のユーザーメモリーの全データを USB フラッシュメモリーに保存したり、USB フラッシュメモリーからデータを読み込んだりできます。また、USB フラッシュメモリー上のディレクトリーの作成や、ファイルまたはディレクトリーのリネームや削除などもできます。これらの操作は、ファイル設定画面(59 ページ)で行ないます。ファイル設定画面での基本操作は次のとおりです。

- 1 USB フラッシュメモリーを本体の USB TO DEVICE 端子に接続します。
- 2 [FILE] ボタンを押します。  
ファイル設定画面が表示されます。
- 3 [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して、編集したいページを表示します。  
各ページの詳細については、リファレンスの「ファイル」(59 ページ)をご参照ください。
- 4 ノブ 1 ~ 6 を操作して、各パラメーターを設定します。
- 5 ファイル設定画面での操作が終わったら、[EXIT] ボタンを押します。  
パフォーマンスのトップ画面に戻ります。

## 工場出荷時の状態に戻す（ファクトリーセット）

ユーザー メモリー上のデータを初期化して工場出荷時の状態に戻すファクトリーセットを実行します。

**△注意** ファクトリーセットを実行すると、現在のユーザー メモリーのパフォーマンスデータや、システム設定の内容がすべて工場出荷時の設定に書き換えられます。大切なデータを失わないようご注意ください。また、必要な設定内容は、前もって USB フラッシュ メモリーやコンピューターなどに保存されることをおすすめします。

- 1 [UTILITY] ボタンを押し、[PAGE▶] ボタンを押してユーティリティー設定画面の 5 ページ目を表示させます。
- 2 ノブ 6（「FctrySet [PUSH]」）ボタンを押します。  
実行の確認画面が表示されます。
- 3 ノブ 4（「YES [PUSH]」）ボタンを押して、ファクトリーセットを実行します。  
画面に「Completed.」が表示されるとファクトリーセットが終了し、ユーティリティー設定画面に戻ります。  
ファクトリーセットを中止したい場合は、実行の確認画面でノブ 5（「NO [PUSH]」）または [EXIT] ボタンを押します。

**△注意** 画面に「Executing…」と表示されているときは、電源を切らないでください。「Executing」が表示されているときに電源を切ると、ユーザー メモリー上のデータが失われたりシステムデータが壊れたりして、次に電源を入れたときに正常に起動しなくなるおそれがあります。

# リファレンス

ここでは、CP1 で設定できるパラメーターについて説明します。

## ピアノ

このブロックでは、パート 1/2 にピアノタイプとプリアンプの組み合わせを設定します。

### ピアノタイプとプリアンプについて

エディット手順 [PIANO 1/2] ボタンを長押しする(1 秒以上押したままにする)→ノブ 1(「Piano」)を回す

CP1 のピアノタイプには、アコースティックピアノから往年の名機といわれるエレクトリックピアノまでのピアノの原音を忠実に再現した音色が搭載されています。各ピアノタイプにはそれぞれに最適なプリアンプが設定されています。次の表では、各ピアノタイプのしくみや効果、またそれぞれに設定されるプリアンプについて説明します。

タイプ名	説明
CF 3Band*	素直な音で、ジャンルを問わず応用範囲の広いピアノ音色です。ダイナミックレンジが広く表現力豊かな演奏が可能です。プリアンプには 3 バンドのトーンコントロールがつき、ヤマハのコンサートグランドピアノ CFIIIS に特化したチューニングがされています。
CF 2Band*	素直な音で、ジャンルを問わず応用範囲の広いピアノ音色です。ダイナミックレンジが広く表現力豊かな演奏が可能です。プリアンプには 2 バンドのトーンコントロールがつき、ヤマハのコンサートグランドピアノ CFIIIS に特化したチューニングがされています。
S6 3Band*	CF 音色に比べるとコンパクトで、木質感のあるピアノ音色です。温かさとパワーの両方を兼ね備えているので、いろいろなタイプの曲に使えます。プリアンプには 3 バンドのトーンコントロールがつき、ヤマハのグランドピアノ S6 に特化したチューニングがされています。
S6 2Band*	CF 音色に比べるとコンパクトで、木質感のあるピアノ音色です。温かさとパワーの両方を兼ね備えているので、いろいろなタイプの曲に使えます。プリアンプには 2 バンドのトーンコントロールがつき、ヤマハのグランドピアノ S6 に特化したチューニングがされています。
CP80*	典型的な CP80 の音色です。トーンコントロールで高域をブーストすると、80 年代風のサウンドになります。
CP88*	時代を感じさせる CP80 の音色です。中域の音に CP 特有の特徴ができます。
71Rd I	Rd 音色の中では一番古いタイプのピアノ音色です。フェルトハンマーによる柔らかいアタックと速い減衰が特徴で、コロコロした音です。
73Rd I	ハンマートップがゴムになり、71Rd I よりはやや明るく、減衰も遅くて音が延びるようになります。基本的には暗めで太い音です。
75Rd I	タインやピックアップなどの音を作り出す各部品が高性能化され、明るく、サステインタイムが長い音色です。
78Rd II	ハンマーアクション部分がプラスチックになり、プリアンプも IC(集積回路)化されたことでハイファイになり、さらに明るい音になります。
Dyno	78Rd II の音を極度にハイブーストしていく、キラキラした、80 年代の音色です。
69Wr	Rd 音色に比べ、柔らかなアタック音と速く減衰するディケイ音が特徴です。ダイナミックレンジは狭い音色です。
77Wr	69Wr に比べ、アタック感が強く、きらびやかな音色です。
DXEP 1	典型的な DX 系エレクトリックピアノの音色です。ヤマハのシンセサイザー DX7-II の音色「Fulltine」をイメージした音です。
DXEP 2	DXEP 1 のバリエーションで、メローなエレクトリックピアノ音色です。
DXEP 3	アタック音が木質感のあるエレクトリックピアノ音色です。
DXEP 4	DXEP 1 ~ DXEP 3 とはまったく異なった、アタック感の強い新しいタイプの DX エレクトリックピアノ音色です。

**NOTE** \* マークがついているピアノタイプは、「TunCurve (ピアノチューニングカーブ)」(56 ページ) の「stretch」の設定が効果するピアノタイプです。

## ピアノタイプのパラメーターについて

**エディット手順** [PIANO 1/2] ボタンを長押しする(1秒以上押したままにする)→ノブ 2 ~ 6 を回す

各ピアノタイプは、元の音源の発音機構が異なることにより、構成しているパラメーターも異なります。次の表は、ピアノタイプのすべてのパラメーターを説明しています。

**NOTE** 各ピアノタイプがどのパラメーターで構成されているかについて詳しくは、別冊「DATA LIST」のピアノのパラメーターリストをご参照ください。

パラメーター名	該当するタイプ	説明
Decay(Decay Time)	すべてのピアノタイプ	鍵盤を押している間の音の減衰時間を調整します。 □設定値: -16 ~ +16
Release(Release Time)	すべてのピアノタイプ	鍵盤から指を離した後の減衰時間を調整します。 □設定値: -16 ~ +16
Key-off(Key-off Noise Level)	DX EP 1 ~ 4 以外	鍵盤から指を離したときに、ダンパーが弦を押さえる音を再現します。ここではその音の大きさを調整します。 □設定値: -16 ~ +16
Rls Tone(Release Tone)	DX EP 1 ~ 4	鍵盤から指を離したときの音質を調整します。 □設定値: 0 ~ 16
DampReso(Damper Resonance Level)	CF 3Band, CF 2Band, S6 3Band, S6 2Band	本体に接続したサステインペダルを踏むと、ピアノのダンパーべダルを踏んだときの弦の共鳴音を再現できます。ここではその音の深さを調整します。 □設定値: -16 ~ +16
StrkPos(Striking Position)	71Rd I, 73Rd II, 75Rd I, 78Rd II, Dyno, 69Wr, 77Wr	ハンマーがたたく振動体の部位を変更するような効果を設定します。 □設定値: Top3/2/1, Default, Rear1/2/3
AtkTimbr(Attack Timbre)	DX EP 1 ~ 4	音色のアタック部分の音質を調整します。 □設定値: Soft2, Soft1, Default, Hard1, Hard2
Hammer(Hammer Stiffness)	DX EP 1 ~ 4 以外	弦をたたくハンマーの硬さを変更するように、音色を硬いイメージや柔らかいイメージに変える効果を設定します。 □設定値: Soft2, Soft1, Normal, Hard1, Hard2
OscDetun(Oscillator Detune)	DX EP 1 ~ 4	ビブラートの効果のかかり具合を調整します。 □設定値: -16 ~ +16

## プリアンプのパラメーターについて

エディット手順 [PRE-AMPLIFIER 1/2] ボタンを長押しする(1秒以上押したままにする)→ノブ1~6を回す

ピアノタイプに連動して設定されたプリアンプのパラメーターを編集することで、ピアノタイプの音質を調整します。プリアンプのタイプによって、構成しているパラメーターは異なります。次の表は、プリアンプのすべてのパラメーターをアルファベット順に説明しています。

	パラメーター名	該当するピアノタイプ	説明
<b>B</b>	Bass	CF 3Band, S6 3Band, CP80, CP88, 71Rd I, 73Rd I, 75Rd I, 78Rd II, Dyno, 69Wr, 77Wr	低域成分のレベルを調整します。
	Brill. (Brilliance)	CP80, CP88	音質の明るさを調整します。
<b>D</b>	Depth (Vibrato Depth)	71Rd I, 73Rd I, 75Rd I, 78Rd II, 69Wr, 77Wr	ビブラートの深さを設定します。
<b>G</b>	Gain (Input Gain)	すべてのピアノタイプ	プリアンプに入力する信号の量を調整します。
<b>H</b>	High	DX EP1 ~ 4	高域成分のレベルを調整します。
	HighMid (High Middle)	DX EP1 ~ 4	中高域成分のレベルを調整します。
<b>L</b>	Low	DX EP1 ~ 4	低域成分のレベルを調整します。
	LowMid (Low Middle)	DX EP1 ~ 4	中低域成分のレベルを調整します。
<b>M</b>	Mid	CF 3Band, S6 3Band	中域成分のレベルを調整します。
	Middle	CP80, CP88	中域成分のレベルを調整します。
	MidBoost (Mid Boost)	69Wr, 77Wr	中域成分のレベルを調整します。
	MidFreq (Mid Freq)	CF 3Band, S6 3Band	中域成分の周波数を調整します。
<b>N</b>	Normal	Dyno	中域成分のレベルを調整します。
<b>O</b>	Overtone	Dyno	高域成分のレベルを調整します。
<b>P</b>	Pk1Freq (Peak1 Freq)	CF 2Band, S6 2Band	Peak1 (Peaking Filter) の中心周波数を調整します。
	Pk1Gain (Peak1 Gain)	CF 2Band, S6 2Band	Peak1 (Peaking Filter) のレベルを調整します。
	Pk2Freq (Peak2 Freq)	CF 2Band, S6 2Band	Peak2 (Peaking Filter) の中心周波数を調整します。
	Pk2Gain (Peak2 Gain)	CF 2Band, S6 2Band	Peak2 (Peaking Filter) のレベルを調整します。
<b>S</b>	Speed (Vibrato Speed)	71Rd I, 73Rd I, 75Rd I, 78Rd II	ビブラートの速さを設定します。
<b>T</b>	Treble	CF 3Band, S6 3Band, CP80, CP88, 71Rd I, 73Rd I, 75Rd I, 78Rd II, 69Wr, 77Wr	高域成分のレベルを調整します。
<b>V</b>	Volume	すべてのピアノタイプ	出力音量を調整します。ピアノタイプが 71Rd I / 73Rd I / 75Rd I / 78Rd II / 69Wr / 77Wr の場合は、「Volume」を「100」以上に設定すると、音にドライブ感が加わります。

**NOTE** 以下のトーンコントロールパラメーターの値を変更するとき、プリアンプの出力が一瞬ミュートされます。

- CP80, CP88 のプリアンプパラメーター 「Bass」、「Middle」、「Treble」、「Brill」
- 71Rd I, 73Rd I, 75Rd I のプリアンプパラメーター 「Bass」
- 78Rd II のプリアンプパラメーター 「Treble」
- Dyno のプリアンプパラメーター 「Bass」、「Overtone」

## モジュレーションエフェクト

このブロックでは、パート 1/2 に設定したピアノに対してモジュレーション系のエフェクトを設定し、揺れや広がり、うねりなどの効果をかけます。

### モジュレーションエフェクトのタイプについて

**エディット手順** [MODULATION EFFECT 1/2] ボタンを長押しする(1秒以上押したままにする)→ノブ 1(「MdEffect」)を回す

次の表では、モジュレーションエフェクトの各タイプのしくみや効果について説明します。パート 1/2 で設定したピアノタイプに対して、以下のモジュレーションエフェクトタイプを設定できます。

タイプ名	説明
SmallPha(Small Phaser)	ピンテージ系のフェーザーです。独特なうねり感が得られます。
Max90	ピンテージ系のフェーザーです。オーソドックスなフェーザー効果が得られます。
Max100	ピンテージ系のフェーザーです。「Mode」パラメーターにより幅広い効果が得られます。
Flanger	ピンテージ系のフランジャーです。
TouchWah(Touch Wah)	ピンテージ系のタッチワウです。
PedalWah(Pedal Wah)	ピンテージ系のペダルワウです。このタイプに設定する場合は、コモン設定画面の 4 ページ目(54 ページ)でフットコントローラーに「MdEffect」を設定してお使いください。
Chorus	スタンダードなコーラスです
D Chorus	自然な柔らかい広がり感を得られるエフェクトです。
816Cho(816Chorus)	DX7 の 8 台分に相当する TX816 によって生み出される分厚いデチューンコーラスの効果を再現したエフェクトです。
Sympho(Symphonic)	変調を多重化し、より広がり感を得られるようにしたエフェクトです。

### モジュレーションエフェクトのパラメーターについて

**エディット手順** [MODULATION EFFECT 1/2] ボタンを長押しする(1秒以上押したままにする)→ノブ 2 ~ 6 を回す

モジュレーションエフェクトの各タイプによって、構成されているパラメーターは異なります。各パラメーターを設定することで、エフェクトの効果のかかり方を調整します。次の表は、モジュレーションエフェクトのすべてのパラメーターをアルファベット順に説明しています。

**NOTE** 各タイプがどのパラメーターで構成されているかについては、別冊「DATA LIST」のモジュレーションエフェクトのパラメーターリストをご参照ください。

	パラメーター名	該当するタイプ	説明
B	Bottom	Touch Wah、Pedal Wah	ワウフィルターの可変範囲の最低値を設定します。
C	Color	Small Phaser	フェーザー効果のうねり感を設定します。
D	Delay	Syphonic	変調のためのディレイタイムのオフセット値を設定します。
	Depth	Flanger、Chorus、816Chorus、Syphonic	変調の深さを設定します。
	Drive	Small Phaser、Max90 Touch Wah、Pedal Wah	フェーザー回路に入力するレベルを設定します。 歪み方の度合を設定します。
F	Feedback	Flanger、816Chorus	エフェクト出力を再び入力に戻すレベルを設定します。

	パラメーター名	該当するタイプ	説明
<b>M</b>	Manual	Flanger	ディレイ変調のオフセット値を設定します。
	Mix	Flanger、Chorus、816Chorus、Symphonic	エフェクト音の音量を調整します。
	Mode	Max100	モードを切り替えます。
<b>P</b>	Pedal Control	Pedal Wah	ワウフィルターのカットオフ周波数を設定します。
	Phase	816Chorus	位相のズレを設定します。
<b>R</b>	Rate	Small Phaser	変調の速さを設定します。
	Reso (Resonance Offset)	Touch Wah、Pedal Wah	レゾナンスの値のオフセット値を設定します。
<b>S</b>	Sens. (Sensitivity)	Touch Wah	Touch のかかり具合を設定します。
	Speed	Max90、Max100、Flanger、Chorus、816Chorus、Symphonic	変調の速さを設定します。
<b>T</b>	Top	Touch Wah、Pedal Wah	ワウフィルターの可変範囲の最高値を設定します。
	Type	Max90	タイプを切り替えます。
		D Chorus	プリセットタイプを選択します。

## パワーアンプ / コンプレッサー

このブロックでは、パート1/2に設定したピアノ音色に対して、エレクトリックピアノのパワーアンプとスピーカーを忠実に再現した効果や、コンプレッサーをかけます。

### パワーアンプ / コンプレッサーのタイプについて

エディット手順	[POWER AMPLIFIER/COMPRESSOR 1/2] ボタンを長押しする(1秒以上押したままにする)→ノブ1(「PowerAmp」)を回す
---------	---

次の表では、パワーアンプ / コンプレッサーの各タイプのしくみや効果について説明します。パート1/2で設定したピアノ、モジュレーションエフェクトタイプに対して、以下のパワーアンプ / コンプレッサーティプを設定できます。

**NOTE** ピアノタイプが「CF 3Band」、「CF 2Band」、「S6 3Band」または「S6 2Band」に設定されている場合、パワーアンプ / コンプレッサーブロックで設定可能なタイプは、「Clean」または「Comp376」のみになります。

タイプ名	説明
71Rd I(PowerAmp 71Rd I)	ビンテージな暖かみのある歪みを付加します。アコースティックなニュアンスを引き立たせるエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
73Rd I(PowerAmp 73Rd I)	まろやかで穏やかな音色に仕上げ、心地よい深みと奥行き感を演出するエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
75Rd I(Power Amp 75Rd I)	充実したエネルギー感により、力強さと包み込まれるようなイメージを作り出すエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
78Rd II(Power Amp 78Rd II)	クリアなサウンドで抜けのよさを特徴とし、コーラスなどエフェクトとの合性が良いエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
69Wr (PowerAmp 69Wr)	力強さとやさしさとを兼ね備え、低音のパワーを強調し、濃厚な音に仕上げるエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
77Wr (PowerAmp 77Wr)	ポップで明るく、華やかな響きを加え、音の存在感を増すように設定されたエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
Clean (Clean Amp)	全体の周波数特性がフラットで理想的なパワーアンプです。
Comp376(Compressor 376)	ビンテージ系のコンプレッサーです。

### パワーアンプ / コンプレッサーのパラメーターについて

エディット手順	[POWER AMPLIFIER/COMPRESSOR 1/2] ボタンを長押しする(1秒以上押したままにする)→ノブ2～6を回す
---------	---

パワーアンプ/コンプレッサーの各タイプによって、構成されているパラメーターは異なります。各パラメーターを設定することで、パワーアンプ / コンプレッサーの効果のかかり方を調整します。次の表は、パワーアンプ / コンプレッサーのすべてのパラメーターをアルファベット順に説明しています。

**NOTE** 各タイプがどのパラメーターで構成されているかについては、別冊「DATA LIST」のパワーアンプ / コンプレッサーのパラメーターリストをご参照ください。

	パラメータ名	該当するタイプ	説明
A	Attack	Compressor 376	コンプレッサー効果が効き始めるまでの時間を設定します。
D	Drive	PowerAmp 71Rd I/73Rd I/75Rd I/78Rd II/ 69Wr/77Wr	歪み方の度合を設定します。この設定を効果させるには、「LineBal」のスピーカーの出力(S)をある程度上げる必要があります。ライン出力(L)を最大にしていると、「Drive」は効果しません。
		Compressor 376	コンプレッサーのかかり具合を設定します。
L	LineBal (Line Balance)	Power Amp 71Rd I/73Rd I/75Rd I/78Rd II/ 69Wr/77Wr	スピーカーの出力(S)と、ライン出力(L)のバランスを調整します。

<b>O</b>	Output	PowerAmp 71Rd I/73Rd I/75Rd I/78Rd II/ 69Wr/77Wr、Compressor 376、Clean Amp	出力のレベルを設定します。 <b>NOTE</b> パワーアンプ / コンプレッサーのタイプを変更しても、「Output」の設定値は保持されます。ただし、パフォーマンスが変更された場合は、パフォーマンステータとして登録されている値が設定されます。
<b>R</b>	Ratio	Compressor 376	コンプレッサーの圧縮比を設定します。
	Release	Compressor 376	コンプレッサー効果から開放されるまでの時間を設定します。
<b>S</b>	SpType (Speaker Type)	PowerAmp 71Rd I/73Rd I/75Rd I/78Rd II/ 69Wr/77Wr	スピーカーのタイプを変更します。

## リバーブ

パート1とパート2に共通となる残響の効果を設定します。

エディット手順 [REVERB] ボタンを長押しする(1秒以上押したままにする)→ノブ1~5を回す

<b>RevType</b> (リバーブタイプ)	リバーブのタイプを設定します。 □設定値: RichHall、RichPlt、RichRoom、WoodRoom、Room1、Room2、Stage1、Stage2	
	RichHall (Rich Hall)	豊かで深い響きを持つホールリバーブです。
	RichPlt (Rich Plate)	伸びがある響きが美しいプレートリバーブです。
	RichRoom (Rich Room)	素直な響きを持つルームリバーブです。
	WoodRoom (Woody Room)	温かみのある残響音が得られるルームリバーブです。
	Room1	すっきりとした響きのルームリバーブです。
	Room2	やや深い響きのルームリバーブです。
	Stage1	奥行きがあり、伸びやかな響きを持つステージリバーブです。
<b>RevTime</b> (リバーブタイム)	リバーブの長さを設定します。 □設定値: WoodRoom...0.3 ~ 10.0(sec)、その他 ...0.3 ~ 30.0(sec)	
	パート1またはパート2において、リバーブエフェクトへ送る信号の量を設定します。値を大きくするとリバーブが深くなります。 □設定値: 0 ~ 127	
<b>FBHiDamp</b> (フィードバックハイダンプ)	残響音の明るさを調整します。値を大きくすると、高域の音の減衰が遅くなり、残響音が明るくなります。 「RevType」が「WoodRoom」の場合はこのパラメーターは表示されません。 □設定値: 0.1 ~ 1.0	
<b>HPF</b> (ハイパスフィルター カットオフ)	ハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。 □設定値: 20Hz ~ 8.0kHz	

## コモン

パート1とパート2に共通するパラメーターを設定します。コモンの設定画面は4ページあります。

### パフォーマンスの名前と鍵盤の発音方式を設定する(1/4ページ)

エディット手順	[COMMON] ボタンを押す→ [<◀PAGE>] ボタンを押して1ページ目を表示→ノブ1～6を操作
---------	---

Name(ネーム)	エディット中のパフォーマンスの名前を表示します。最大10文字の名前を設定できます。名前の設定方法については、基本操作の「名前の設定」(25ページ)をご参照ください。
Cursor(カーソル)	ノブ2を回すことによって、パフォーマンスネームのカーソルを1文字ずつ移動させます。
Data(データ)	ノブ3を回すことによって、パフォーマンスネームのカーソルがある位置の文字を変更します。 <input type="checkbox"/> 設定値: <ul style="list-style-type: none"><li>・英小文字 ..... abcdefghijklmnopqrstuvwxyz</li><li>・英大文字 ..... ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ</li><li>・数字、記号 ..... 0123456789!"#\$%&amp;'()*+,-./;:&lt;=&gt;?[@\]^_`{} —</li></ul>
KbdMode(キーボードモード)	鍵盤の発音方式を設定します。 <input type="checkbox"/> 設定値: layer(レイヤー)、split(スプリット)、zone(ゾーン) <ul style="list-style-type: none"><li>・layer ..... パート1とパート2両方のノートリミットを全鍵域に設定します。</li><li>・split ..... 「Point」で設定されたノートを境にして、低音部の鍵盤をパート1のノートリミット、高音部の鍵盤をパート2のノートリミットとして設定します。</li><li>・zone ..... パート1がzone1、パート2がzone2、外部音源用のパートがzone3とzone4となり、各ゾーンで指定したノートリミットを各パートに設定します。各ゾーンは固定の送受信チャンネルが設定されており(51ページ)、複数チャンネルでMIDIメッセージの送受信が可能な状態になり、マスター琴として使用できます。外部機器とMIDIメッセージを送受信する場合は、この設定にします。</li></ul> <b>NOTE</b> 「layer」または「split」設定時のMIDIメッセージの送受信に関する設定は、ユーティリティーで行ないます。
Point(ポイント)	パート1とパート2の音域を分けるスプリットポイントを設定します。「KbdMode」を「split」に設定したときのみ表示されます。 <input type="checkbox"/> 設定値: C-2～G8
ZoneEdit(ゾーンエディット)	ノブ6を押すと、ゾーンエディット画面(51ページ)に入ります。「KbdMode」を「zone」に設定したときのみ表示されます。

## ■ゾーンエディット

「KbdMode(キーボードモード)」を「zone(ゾーン)」に設定した場合(50 ページ)、ゾーンごとに詳細設定ができます。ゾーンエディットの設定画面は 2 ページあります。

### ●ゾーンごとのノートリミットや音色切り替えを設定する(1/2 ページ)

エディット手順	[COMMON] ボタンを押す→ノブ 5 を回して「KbdMode」を「zone」に設定→ノブ 6(「ZoneEdit」)を押す
---------	--

Zone(ゾーン)	<p>エディット対象となるゾーンを設定します。次の表のとおり、ゾーンごとに音源と MIDI 送受信チャンネルが固定されています。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: zone1、zone2、zone3、zone4</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ゾーン</th><th>音源</th><th>送信チャンネル</th><th>受信チャンネル</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>zone1</td><td>パート 1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr> <td>zone2</td><td>パート 2</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr> <td>zone3</td><td>外部音源パート</td><td>3</td><td>-</td></tr> <tr> <td>zone4</td><td>外部音源パート</td><td>4</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	ゾーン	音源	送信チャンネル	受信チャンネル	zone1	パート 1	1	1	zone2	パート 2	2	2	zone3	外部音源パート	3	-	zone4	外部音源パート	4	-
ゾーン	音源	送信チャンネル	受信チャンネル																		
zone1	パート 1	1	1																		
zone2	パート 2	2	2																		
zone3	外部音源パート	3	-																		
zone4	外部音源パート	4	-																		
NoteLimit(ノートリミット)	<p>選択中のゾーンの発音する音域を設定します。ノブ 2 で最低音を、ノブ 3 で最高音を設定します。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: C-2 ~ G8</p> <p><b>NOTE</b> C5~C4のように最低音の方が最高音より音程が高いような設定を行なった場合、C-2~C4 と C5~G8 の範囲で発音します。</p>																				
BankMSB (パンクセレクト MSB) BankLSB (パンクセレクト LSB) PCNum (プログラムチェンジナンバー)	<p>ノブ 4 ~ 6 を回して、外部音源への MIDI メッセージとなるパンクセレクト MSB/LSB およびプログラム チェンジナンバーを設定します。このメッセージにより、選択中のゾーンの音色を指定します。設定した番号に該当する音色は、外部音源によって異なります。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: Bank MSB .....0 ~ 127 Bank LSB .....0 ~ 127 PC .....1 ~ 128</p> <p>またノブ 4 またはノブ 6 を押して、ここで設定した MIDI メッセージを外部音源に送信する(on)か、送信しない(off)かを設定します。「MIDI(トランスマッチ MIDI スイッチ)」(下記のパラメーター)が「on」のときのみ有効な設定です。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: off、on</p>																				

## ■ゾーンごとのコントローラーの MIDI メッセージの設定をする(2/2 ページ)

エディット手順	[COMMON] ボタンを押す→ノブ 5 を回して「KbdMode」を「zone」に設定→ノブ 6 を押す→ [PAGE▶] ボタンを押す
---------	---

Zone(ゾーン)	<p>エディット対象となるゾーンを設定します。ページ 1 の「Zone」の設定と連動します。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: zone1、zone2、zone3、zone4</p>
MIDI (トランスマッチ MIDI スイッチ)	<p>選択中のゾーンの MIDI メッセージを送信する(on)か、送信しない(off)かを設定します。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: off、on</p>
PitchBend(ピッチベンドホール) FC1(フットコントローラー1) FC2(フットコントローラー2) SusPedal(サステインペダル)	<p>選択中のゾーンにおいて、ピッチベンドホール、フットコントローラー1/2、サステインペダルの MIDI メッセージを送信する(on)か、送信しない(off)かを設定します。「MIDI(トランスマッチ MIDI スイッチ)」が「on」のときのみ有効な設定です。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: off、on</p>

## 各パートのピッチやパンを設定する(2/4 ページ)

エディット手順	[COMMON] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 2 ページ目を表示→ノブ 1 ~ 6 を操作
---------	--

1NoteShf(ノートシフト 1) 2NoteShf(ノートシフト 2)	パート 1(「1NoteShf」)またはパート 2(「2NoteShf」)のピッチを半音単位で調整します。 □設定値: -24 ~ +24 [semitones]
1Detune(デチューン 1) 2Detune(デチューン 2)	パート 1(「1Detune」)またはパート 2(「2Detune」)のピッチを 0.1 ヘルツ単位で微調整します。 □設定値: -12.8 ~ +12.7 [Hz]
1Pan(パン 1) 2Pan(パン 2)	パート 1(「1Pan」)またはパート 2(「2Pan」)のパン(ステレオ定位)を設定します。 □設定値: L63(左端)~C(センター)~R63(右端)

## 各パートのピッチベンドレンジやベロシティを設定する(3/4 ページ)

エディット手順	[COMMON] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 3 ページ目を表示→ノブ 1 ~ 6 を操作
---------	--

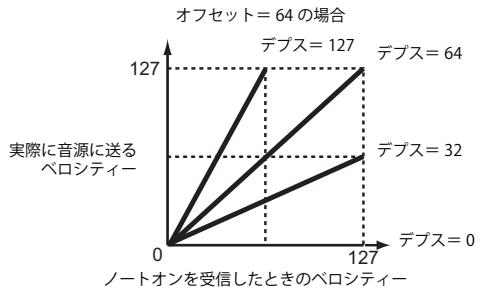
1PBRange (ピッチベンドレンジ 1) 2PBRange (ピッチベンドレンジ 2)	パート 1(「1PBRange」)またはパート 2(「2PBRange」)におけるピッチベンドホールの変化幅を半音単位で設定します。たとえば設定値を「12」にした場合、変化幅は -12(1 オクターブ下) ~ +12(1 オクターブ上)になります。 □設定値: 0 ~ 12
--	--

**1VelDepth-Offset**  
 (ペロシティーセンシティビティーデプス 1、ペロシティーセンシティビティーオフセット 1)  
**2VelDepth-Offset**  
 (ペロシティーセンシティビティーデプス 2、ペロシティーセンシティビティーオフセット 2)

**ペロシティーセンシティビティーデプス 1/2**

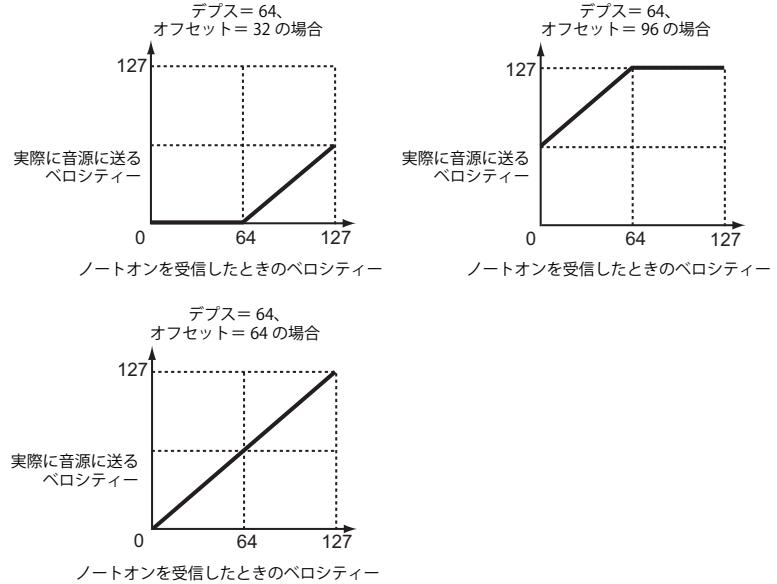
パート 1 またはパート 2 における、「鍵盤を弾いたときのペロシティー」に対する「実際に音源部に送るペロシティー」の変化の度合いを設定します。図のように、値を大きくするほど、「鍵盤を弾いたときのペロシティー」に対して「実際に音源に送るペロシティー」の変化が大きくなり、グラフの傾きが急になります。値を 0 に設定すると、「鍵盤を弾いたときのペロシティー」が変化しても「実際に音源に送るペロシティー」は変化しなくなり、オルガンのようにペロシティー変化のない状態になります。

□設定値: 0 ~ 127

**ペロシティーセンシティビティーオフセット 1/2**

パート 1 またはパート 2 において、実際に音源に送るペロシティーの値を一律に増減します。図のように、ここでの設定値から 64 を引いた値が実際のペロシティー値にプラス / マイナスされます。ただし、プラス / マイナスした結果、ペロシティーが 1 より小さくなる場合は 1 になり、127 より大きくなる場合は 127 になります。

□設定値: 0 ~ 127



## コントローラーの設定をする(4/4 ページ)

エディット手順 [COMMON] ボタンを押す→[PAGE▶] ボタンを押して 4 ページ目を表示→ノブ 1 ~ 4 を操作

Source(ソース)	<p>設定対象のコントローラーを選択します。</p> <p>□設定値: PtchBend(ピッチベンドホイール)、FC1(フットコントローラー1)、FC2(フットコントローラー2)、FSAssign(フットスイッチアサイナブル)、Soft(ソフトペダル)、Sostnuto(ソステヌートペダル)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• FC1/FC2.....FOOT CONTROLLER [1]/[2] 端子に接続したフットコントローラーです。</li> <li>• FSAssign.....FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] 端子に接続したフットスイッチです。</li> <li>• Soft.....FOOT SWITCH [SOFT] 端子に接続したペダルです。</li> <li>• Sostnuto.....FOOT SWITCH [SOSTENUTO] 端子に接続したペダルです。</li> </ul>													
1Dest(デスティネーション 1) 2Dest(デスティネーション 2)	<p>「Source」で設定したコントローラーに割り当てる機能をパートごとに設定します。</p> <p>□設定値: 次の表をご参照ください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">Source</th><th style="text-align: left;">Destination</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PtchBend(ピッチベンド)</td><td>off, MdEffect(ミュレーションエフェクト)</td></tr> <tr> <td>FC1/FC2(フットコントローラー1/2)</td><td>off, Volume, MdEffect</td></tr> <tr> <td>FSAssign(フットスイッチアサイナブル)</td><td>off, Vibrato, MdEffect, PowerAmp(パワーアンプ)</td></tr> <tr> <td>Soft(ソフトペダル)</td><td>off, Soft, Vibrato, MdEffect, PowerAmp</td></tr> <tr> <td>Sostnuto(ソステヌートペダル)</td><td>off, Sostnuto, Vibrato, MdEffect, PowerAmp</td></tr> </tbody> </table> <p><b>NOTE</b> 「Source」が「PtchBend」、「FC1」または「FC2」に設定されている場合は、デスティネーションに「MdEffect」を設定すると、ミュレーションエフェクトブロックのパラメーターのうち 1 つがコントローラーに割り当てられます。どのパラメーターが割り当てるかは、各ブロックに割り当てられているタイプによって異なります。詳しくは別冊「DATA LIST」のミュレーションエフェクトのパラメータリストをご参照ください。表の「Control」欄に●印がついているパラメーターが、コントローラーに割り当てるパラメーターになります。</p> <p><b>NOTE</b> 「Source」が「FSAssign」、「Soft」または「Sostnuto」に設定されている場合は、そのコントローラーを押すことで、デスティネーションに割り当てる機能をオン / オフします。デスティネーションが「Vibrato」、「MdEffect」/[PowerAmp] の場合は、「[PRE-AMPLIFIER]/[MODULATION EFFECT]/[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR] ボタンを押したときと同じ効果になります。各ボタンを押したときの効果について詳しくは、「基本操作」の「パフォーマンスを構成するブロックのオン / オフを切り替える」(31 ページ) をご参照ください。</p>		Source	Destination	PtchBend(ピッチベンド)	off, MdEffect(ミュレーションエフェクト)	FC1/FC2(フットコントローラー1/2)	off, Volume, MdEffect	FSAssign(フットスイッチアサイナブル)	off, Vibrato, MdEffect, PowerAmp(パワーアンプ)	Soft(ソフトペダル)	off, Soft, Vibrato, MdEffect, PowerAmp	Sostnuto(ソステヌートペダル)	off, Sostnuto, Vibrato, MdEffect, PowerAmp
Source	Destination													
PtchBend(ピッチベンド)	off, MdEffect(ミュレーションエフェクト)													
FC1/FC2(フットコントローラー1/2)	off, Volume, MdEffect													
FSAssign(フットスイッチアサイナブル)	off, Vibrato, MdEffect, PowerAmp(パワーアンプ)													
Soft(ソフトペダル)	off, Soft, Vibrato, MdEffect, PowerAmp													
Sostnuto(ソステヌートペダル)	off, Sostnuto, Vibrato, MdEffect, PowerAmp													
Mode(スイッチモード)	<p>「Source」を「FSAssign」、「Soft」または「Sostnuto」に設定したときのみ表示されます。設定対象のコントローラーがラッチタイプとモーメンタリータイプのどちらで働くかを設定します。ラッチタイプ(latch)ではスイッチを押すとオン / オフの切り替えになり、モーメンタリータイプ(momentary)ではスイッチを押している間だけオンになります。</p> <p>□設定値: momentary(モーメンタリー)、latch(ラッチ)</p> <p><b>NOTE</b> 「1Dest」 / 「2Dest」が「Soft」または「Sostnuto」の場合は、「Mode」をラッチタイプ(latch)に設定しても、モーメンタリータイプ(momentary)の動作になります。</p>													

## マスター EQ

全パフォーマンスに共通の音質補正を行ないます。5 バンドの帯域でそれぞれ特定の周波数付近の信号レベルを増減させることができます。マスターEQ の設定画面は 6 ページあります。

## マスターEQ のゲインを設定する(1/6 ページ)

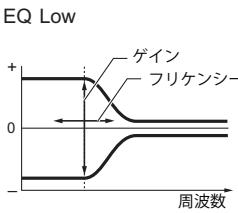
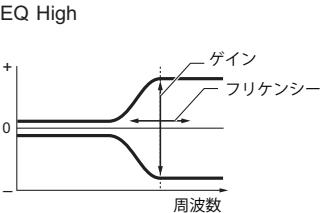
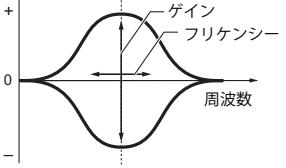
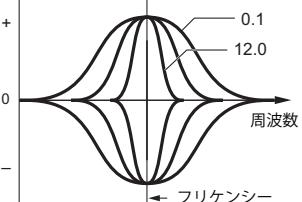
エディット手順 [MASTER EQUALIZER] ボタンを長押しする(1 秒以上押したままにする)→[◀PAGE] ボタンを押して 1 ページ目を表示→ノブ 2 ~ 6 を回す

Low(ロー) LowMid(ローミッド) Mid(ミッド) HighMid(ハイミッド) High(ハイ)	5 バンドの帯域(Low, LowMid, Mid, HighMid, High)において、特定の周波数付近の信号レベルをどの程度ブースト / カット(増減)するかを設定します。 □設定値: -12 ~ +12[dB]
--	--

## 帯域ごとに信号を調整する(2/6 ~ 6/6 ページ)

エディット手順	[MASTER EQUALIZER] ボタンを長押しする(1秒以上押したままにする)→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 2 ~ 6 ページ目を表示→ノブ 3 ~ 6 を回す
---------	---

5 バンドの帯域別に中心周波数やゲインを設定します。マスターEQ の設定画面のうち、2 ページ目は Low、3 ページ目は LowMid、4 ページ目は Mid、5 ページ目は HighMid、6 ページ目は High の帯域を設定します。各ページで表示されるパラメーターは次のとおりです。

Shape(シェイプ)	<p>EQ の両端に当たる Low(ロー)と High(ハイ)の 2 つのバンドについて、シェルビングとピーキングのどちらのタイプとして使うかを設定します。2 ページ目(Low)と 6 ページ目(High)にのみ表示されます。</p> <p>□設定値: shelv(シェルビングタイプ)、peak(ピーキングタイプ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>shelv.....特定の周波数以下あるいは以上の信号を盛り上げたり削ったりするタイプのイコライザーです。</li> </ul>   <ul style="list-style-type: none"> <li>peak.....特定の周波数帯の信号を盛り上げたり削ったりするタイプのイコライザーです。</li> </ul> 
Gain(ゲイン)	<p>「Freq」で設定した周波数付近の信号レベルをどの程度ブースト / カット(増減)するかを設定します。</p> <p>□設定値: -12 ~ +12 [dB]</p>
Freq(フリケンシー)	<p>ブースト / カット(増減)する中心周波数を設定します。</p> <p>□設定値:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Low(ロー)           <ul style="list-style-type: none"> <li>「Shape」=「shelv」の場合: 32Hz ~ 2.0kHz</li> <li>「Shape」=「peak」の場合: 63Hz ~ 2.0kHz</li> </ul> </li> <li>LowMid(ローミッド)、Mid(ミッド)、HighMid(ハイミッド)           <ul style="list-style-type: none"> <li>100Hz ~ 10.0kHz</li> </ul> </li> <li>High(ハイ)           <ul style="list-style-type: none"> <li>500Hz ~ 16.0kHz</li> </ul> </li> </ul>
Q(キュー)	<p>「Freq」で設定した周波数付近の信号レベルを増減させて、さまざまな周波数特性カープを作ることができます。値が大きくなると周波数の範囲が狭くなり、急な音色変化になります。値が小さくなると周波数の範囲が広くなり、なだらかな音色変化になります。</p> <p>□設定値: 0.1 ~ 12.0</p>  <p><b>NOTE</b> Low (ロー) と High (ハイ) に関しては、「Shape」を「shelv」に設定すると、「Q」の設定は無効になります。</p>

## ユーティリティー

ユーティリティーでは、システム全体に共通した設定を行ないます。ユーティリティーの設定画面は5ページあります。

### キーの設定をする(1/5 ページ)

エディット手順 [UTILITY] ボタンを押す→[◀PAGE] ボタンを押して1ページ目を表示→ノブ2～6を回す

Transpose(トランスポーズ)	鍵盤の音程を半音単位で移調します。 □設定値: -12～+12(semitones)
Tune(マスターチューン)	本体音源部で鳴るサウンド全体のチューニングを調整します。音程をセント単位で微調整します。 <b>NOTE</b> CP1のマスターチューニングはA3=440Hzに設定されています。1Hzは約4centです。 □設定値: -102.4～+102.3 [cent]
VelCurve (ペロシティーカーブ)	ペロシティーカーブを設定することで、鍵盤を弾く強さに対するペロシティーの出方を決めます。 □設定値: norm(ノーマル)、soft(ソフト)、hard(ハード)、wide(ワイド)、fixed(フィックスト) <ul style="list-style-type: none"> <li>•norm(ノーマル) ..... 鍵盤を弾く強さとペロシティーが比例しています。</li> <li>•soft(ソフト) ..... 全体に大きなペロシティーが出やすいカーブです。</li> <li>•hard(ハード) ..... 全体に大きなペロシティーが出にくいカーブです。</li> <li>•wide(ワイド) ..... キータッチの弱い部分ではペロシティーをおさえ、強い部分ではペロシティーを出やすくしたカーブです。ダイナミックレンジが広く感じられます。</li> <li>•fixed(フィックスト) ..... 鍵盤を弾く強さにかかわりなく、一定のペロシティーで音源を鳴らしたい場合に使用します。この設定にした場合は、ペロシティーの値をノブ5で設定します。設定値は1～127です。</li> </ul>
TunCurve (ピアノチューニングカーブ)	音域全体の調律曲線を設定します。 □設定値: flat(フラット)、stretch(ストレッチ) <ul style="list-style-type: none"> <li>•flat(フラット) ..... 全音域において音程がオクターブ高くなるごとに周波数が倍になる調律曲線です。</li> <li>•stretch(ストレッチ) ..... ピアノ特有の調律曲線です。「flat(フラット)」に比べ、低音側はより低く、高音側はより高く調律します。</li> </ul> <b>NOTE</b> 「stretch」に設定した場合、効果するピアノタイプと効果しないピアノタイプがあります。詳しくは、ピアノタイプリスト(43ページ)をご参照ください。

## 音律やペダルの設定をする(2/5 ページ)

エディット手順 [UTILITY] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 2 ページ目を表示→ノブ 2 ~ 6 を回す

Scale(スケール)	音律(調律法)を設定します。現在最も一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することでその曲が誕生したときの響きを味わえます。全部で 7 種類の音律(調律法)が用意されています。	
	<input type="checkbox"/> 設定値: 次の表をご参考ください。	
	Equal (イコール=平均律)	1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。
	Pure Major (ピュアメジャー=純正律「短調」)	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粹に響くのが特長です。現在でも合唱のハモニーなどで見られます。
	Pure Minor (ピュアマイナー=純正律「長調」)	
	Pythagorean (ピタゴリアン=ピタゴラス音律)	ギリシャ時代の学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。
	MeanTone (ミントーン=中全音律)	ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。
Basenote(ベースノート)	WerckMeister (ヴエルクマイスター)	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。
	KirnBerger (キルンベルガー)	
SusPedal(サステインペダル)	「Scale」で「Equal」以外に設定した場合に、ここで基音(演奏する曲の調の主音)を設定します。 <input type="checkbox"/> 設定値: C ~ B	

## コントローラーの設定をする(3/5 ページ)

エディット手順 [UTILITY] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 3 ページ目を表示→ノブ 1/ ノブ 3 を回す

Source(ソース)	設定対象のコントローラーを選択します。	
	<input type="checkbox"/> 設定値: FC1(フットコントローラー1)、FC2(フットコントローラー2)、FSAssign(フットスイッチアサイナブル)、Soft(ソフトペダル)、Sostnuto(ソステヌートペダル) •FC1/FC2 ..... FOOT CONTROLLER [1]/[2] 端子に接続したフットコントローラーです。 •FSAssign ..... FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] 端子に接続したフットスイッチです。 •Soft... ..... FOOT SWITCH [SOFT] 端子に接続したペダルです。 •Sostnuto..... FOOT SWITCH [SOSTENUTO] 端子に接続したペダルです。	
ContrlNo (コントロールナンバー)	「Source」で設定したコントローラーのコントロールチェンジナンバーを設定します。 <input type="checkbox"/> 設定値: •「Source」=「FC1」/「FC2」の場合 ..... 00(off)、01 ~ 95 •「Source」=「FSAssign」/「Soft」/「Sostnuto」の場合 ..... 00(off)、01 ~ 95、99(Pclnc)、100(PcDec)	

## MIDI の設定をする(4/5 ページ)

エディット手順 [UTILITY] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 4 ページ目を表示→ノブ 1 ~ 6 を操作

RecvCh (レシーブチャンネル)	<p>MIDI の受信チャンネルを設定します。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: 1 ~ 16、omni、off</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• omni(オムニ) .....すべてのチャンネルを受信する設定です。</li> </ul> <p><b>NOTE</b> コモンのエディットで「KbdMode (キーボードモード)」を「zone (ゾーン)」(50 ページ) に設定している場合は、ここでの設定に関係なく、受信チャンネルはパート 1 がチャンネル 1、パート 2 がチャンネル 2 に固定されます。</p>
TransCh (トランスマットチャンネル)	<p>鍵盤演奏やコントローラー操作の MIDI 送信チャンネルを設定します。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: 1 ~ 16、off</p> <p><b>NOTE</b> コモンのエディットで「KbdMode (キーボードモード)」を「zone (ゾーン)」(50 ページ) に設定している場合は、ここでの設定に関係なく、送信チャンネルはパート 1 がチャンネル 1、パート 2 がチャンネル 2 に固定されます。</p>
Local(ローカル)	<p>ローカルオン / オフを設定します。ローカルオフにすると、本体の鍵盤部と音源部が内部的に切り離され、鍵盤を弾いても音が出なくなります。ただし、ここでの設定には関係なく本体の演奏情報は MIDI 出力され、また外部から MIDI 入力されたメッセージは本体音源部で処理されます。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: off、on</p>
DevNo(デバイスナンバー)	<p>MIDI デバイスナンバーを設定します。外部 MIDI 機器との間で、パルクダンプやパラメーターチェンジなどのシステムエクスクルーシブメッセージの送受信を行なう場合、この MIDI デバイスナンバーを相手側機器のデバイスナンバーと合わせる必要があります。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: 1 ~ 16、all、off</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• all .....すべての MIDI デバイスナンバーのシステムエクスクルーシブメッセージを受信する設定です。送信時には、「1」で送信します。</li> <li>• off .....パルクダンプやパラメーターチェンジなどのシステムエクスクルーシブメッセージの送受信を行なわない設定です。送受信しようとすると、エラーメッセージがでたり、実行されなかつたりします。</li> </ul>
In/Out(MIDI In/Out)	<p>MIDI メッセージの入出力口として、どの端子を使用するかを設定します。</p> <p><input type="checkbox"/> 設定値: MIDI、USB MIDI</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• MIDI .....MIDI 端子を使用します。</li> <li>• USB MIDI .....USB 端子を使用します。</li> </ul> <p><b>NOTE</b> MIDI メッセージを送受信する際、MIDI、USB MIDI の 2 種類を同時に使うことはできません。</p>
BulkDump(パルクダンプ)	<p>現在選択中のパフォーマンスデータを、MIDI のシステムエクスクルーシブデータ(パルクデータ)として、コンピューターや外部 MIDI 機器などに送信(パルクダンプ)できます。ノブ 6 を押すと確認画面が表示されるので、その後ノブ 4([YES [PUSH]])を押すとパルクダンプが実行されます。確認画面が表示されたあと、パルクダンプの実行をやめる場合は、ノブ 5 または [EXIT] ボタンを押します。</p> <p><b>NOTE</b> パルクダンプを行なうためには、「DevNo (デバイスナンバー)」が正しく設定されている必要があります。パルクダンプの操作方法については、クイックガイドの 41 ページをご参照ください。</p>

## その他の設定をする(5/5 ページ)

エディット手順 [UTILITY] ボタンを押す→[PAGE▶] ボタンを押して 5 ページ目を表示→ノブ 1/ ノブ 2/ ノブ 6 を操作

Brightness (ディスプレイブライトネス)	本体の画面表示の輝度を設定します。 □設定値: 15(最大輝度)～1 <b>NOTE</b> 本体の蛍光表示管の輝度は、[UTILITY] ボタンを押しながら [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押すことによっても設定できます。
Start Up (スタートアップ)	電源を入れたときにトップ画面に表示されるパフォーマンスを設定します。 □設定値: PREA-1～16、PREB-1～16、PREC-1～16、USRA-1～16、USRB-1～16、USRC-1～16、EXTA-1～16、EXTB-1～16、EXTC-1～16
FctrySet (ファクトリーセット)	本体内蔵のユーザーメモリーを工場出荷時の状態に戻すファクトリーセットを実行します。ノブ 6 を押すと確認画面が表示されるので、その後ノブ 4([YES [PUSH]])を押すとファクトリーセットが実行されます。確認画面が表示されたあと、ファクトリーセットの実行をやめる場合は、ノブ 5([NO [PUSH]])または[EXIT] ボタンを押します。 <b>△注意</b> ファクトリーセットを実行すると、現在のユーザーメモリーのパフォーマンスデータや、ユーティリティーおよびマスター EQ の設定内容が、すべて工場出荷時の設定に書き換えられます。大切なデータを失わないようご注意ください。必要な設定内容は、あらかじめ USB フラッシュメモリーなどに保存されることをおすすめします(41 ページ)。

## ファイル

ファイルでは、本体のユーザーメモリーの全データを USB フラッシュメモリーに保存したり、USB フラッシュメモリーからデータを読み込んだりできます。ファイルの設定画面は 7 ページあります。

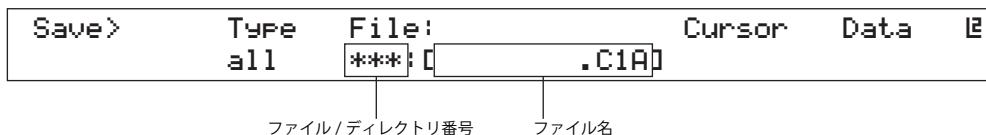
## USB フラッシュメモリーの容量を確認する(1/7 ページ)

エディット手順 [FILE] ボタンを押す→[◀PAGE] ボタンを押して 1 ページ目を表示

Free(フリー)	本体に接続している USB フラッシュメモリーの空き容量を表示します。全容量に対する割合も、パーセントで表示します。
Total(トータル)	本体に接続している USB フラッシュメモリーの全容量を表示します。

## ファイルを USB フラッシュメモリーに保存(セーブ)する(2/7 ページ)

エディット手順	[FILE] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 2 ページ目を表示→ノブ 2/ノブ 3/ノブ 5/ノブ 6 を回すことによってパラメーターを設定→[ENTER] ボタンを押す→ノブ 4(「YES」)を押して実行
---------	---



Type(ファイルタイプ)	USB フラッシュメモリーにセーブするファイルのタイプを選択します。 □設定値: all(オール)、external(エクスターナル) <ul style="list-style-type: none"> <li>• all .....ユーザー/フォーマンスマモリーおよびシステム設定(マスターEQとユーティリティの設定)のデータを、まとめて 1 つのファイル(拡張子:C1A)としてセーブします。エクスターナル/フォーマンスマモリーのデータは含まれません。</li> <li>• external .....エクスターナル/フォーマンスマモリーの全データを、まとめて 1 つのファイル(EXTBANK.C1E)としてセーブします。</li> </ul> <b>NOTE</b> 「external」は、「File」で現在設定されているセーブ先がルートディレクトリーのときのみ選択可能です。
File(ファイル)	ファイルのセーブ先を設定します。ノブ 5 とノブ 6 を回してファイル名を設定することで、新規ファイルとしてセーブされます。ファイル / ディレクトリ番号はセーブ実行後に自動的に通し番号が付けられます。既存のファイルに上書き保存をしたい場合は、ノブ 3 を回して目的のファイルを選択します。下の階層のディレクトリーに移動したい場合は、ノブ 3 を回して既存のディレクトリー(「ディレクトリ名 DIR」)を選択し、[ENTER] ボタンを押します。上の階層のディレクトリーに移動したい場合は、ノブ 3 を回して「(updir)」を選択し、[ENTER] ボタンを押します。「Type」を「external」に設定した場合は、「File」は自動的に「EXTBANK.C1E」に固定されます。 <b>NOTE</b> ファイル番号が「***」と表示されている場合は、新規ファイルとしてセーブされることを表しています。既存のファイルを選択した場合でも、ファイル名を変更するとファイル番号は「***」になり、新規ファイルとしてセーブされます。 <b>NOTE</b> 新規ディレクトリーを作成したい場合は、ファイル設定画面の 6 ページ目(62 ページ)で作成できます。 <b>NOTE</b> エクスターナルバンクのファイル(EXTBANK.C1E)は、1 つの USB フラッシュメモリーに 1 ファイルのみセーブできます。
Cursor(カーソル)	ノブ 5 を回すことによって、ファイル名のカーソルを 1 文字ずつ移動させます。ファイル名は最大 8 文字まで設定できます。
Data(データ)	ノブ 6 を回すことによって、ファイル名のカーソルがある位置の文字を変更します。 □設定値: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 英大文字 .....ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ</li> <li>• 数字、記号 .....0123456789!#\$%&amp;()_-@^`{}~</li> </ul>

## USB フラッシュメモリーのファイルを本体に保存(ロード)する(3/7 ページ)

エディット手順	[FILE] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 3 ページ目を表示→ノブ 1/ ノブ 3 を回すことによってパラメーターを設定→[ENTER] ボタンを押す→ノブ 4(「YES」)を押して実行
---------	--

△注意 ロードを実行すると、指定したメモリーに保存されていたデータは消えてしまいます。大切なデータは、あらかじめ USB フラッシュメモリーなどに保存(セーブ)しておくことをおすすめします。

Type(ファイルタイプ)	<p>本体にロードするファイルのタイプを選択します。</p> <p>□設定値: all(オール)、perf(パフォーマンス)、external(エクステナナル)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•all ..... 選択したファイル(拡張子:C1A)の全データを本体のユーザーメモリーにロードします。ユーザーメモリー上にあるエクステナナルパフォーマンス以外の全データは上書きされます。</li> <li>•perf ..... 選択したファイル(拡張子:C1A)の一部のパフォーマンスデータを、ロード先として指定したメモリーにロードします。「perf」に設定した状態で [ENTER] ボタンを押して、ロードするパフォーマンスとロード先となる本体のパフォーマンスを選択します。ノブ 2 とノブ 3 でファイルの中からロードするパフォーマンスを選択し、ノブ 4 とノブ 5 でロード先となる本体のパフォーマンスを選択します。ノブ 2/ ノブ 4 でバンク(USRA, USRB, USRC)を設定し、ノブ 3/ ノブ 5 でプログラムナンバー(all, 1 ~ 16)を設定します。</li> <li>•external ..... エクステナナルパフォーマンスマモリーのファイル(EXTBANK.C1E)をロードします。</li> </ul> <p><b>NOTE</b> 「external」は、「File」で現在設定されているディレクトリーがルートディレクトリーのときのみ選択可能です。</p> <p>「perf」選択時のロード指定画面</p>
File(ファイル)	ロードするファイルを選択します。下の階層のディレクトリーに移動したい場合は、ノブ 3 を回して既存のディレクトリー(「ディレクトリ名 DIR」)を選択し、[ENTER] ボタンを押します。上の階層のディレクトリーに移動したい場合は、ノブ 3 を回して「(updir)」を選択し、[ENTER] ボタンを押します。「Type」を「external」に設定した場合は、「File」は自動的に「EXTBANK.C1E」に固定されます。

## ファイル / ディレクトリーをリネームする(4/7 ページ)

エディット手順	[FILE] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 4 ページ目を表示→ノブ 3/ ノブ 5/ ノブ 6 を回すことによってパラメーターを設定→[ENTER] ボタンを押して実行
---------	---

File(ファイル)	リネームするファイル / ディレクトリーを選択します。下の階層のディレクトリーに移動したい場合は、ノブ 3 を回して既存のディレクトリー(「ディレクトリ名 DIR」)を選択し、[ENTER] ボタンを押します。上の階層のディレクトリーに移動したい場合は、ノブ 3 を回して「(updir)」を選択し、[ENTER] ボタンを押します。
Cursor(カーソル)	ノブ 5 を回すことによって、ファイル / ディレクトリー名のカーソルを 1 文字ずつ移動させます。ファイル / ディレクトリー名は最大 8 文字まで設定できます。
Data(データ)	ノブ 6 を回すことによって、ファイル / ディレクトリー名のカーソルがある位置の文字を変更します。 □設定値: •英大文字 ..... ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ •数字、記号 ..... 0123456789!#\$%&!()-@^_`{}~

## ファイル / ディレクトリーを削除する(5/7 ページ)

エディット手順	[FILE] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 5 ページ目を表示→ノブ 3/ ノブ 5/ ノブ 6 を回すことによってパラメーターを設定→[ENTER] ボタンを押して実行
---------	---

File(ファイル)	削除するファイル / ディレクトリーを選択します。ディレクトリーは中が空の場合のみ削除できます。下の階層のディレクトリーに移動したい場合は、ノブ 3 を回して既存のディレクトリー(「ディレクトリー名  DIR 」)を選択し、[ENTER] ボタンを押します。上の階層のディレクトリーに移動したい場合は、ノブ 3 を回して「(updir)」を選択し、[ENTER] ボタンを押します。
------------	---

## ディレクトリーを作成する(6/7 ページ)

エディット手順	[FILE] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 6 ページ目を表示→ノブ 3/ ノブ 5/ ノブ 6 を回すことによってファイルを選択→[ENTER] ボタンを押す→ノブ 4(「YES」)を押して実行
---------	--

Dir(ディレクトリー)	作成するディレクトリーを表示します。ノブ 5 とノブ 6 を回してディレクトリー名を設定することで、新規ディレクトリーが作成されます。ディレクトリー番号はセーブ実行後に自動的に通し番号が付けられます。下の階層のディレクトリーに移動したい場合は、ノブ 3 を回して既存のディレクトリー(「ディレクトリー名  DIR 」)を選択し、[ENTER] ボタンを押します。上の階層のディレクトリーに移動したい場合は、ノブ 3 を回して「(updir)」を選択し、[ENTER] ボタンを押します。 <b>NOTE</b> ディレクトリー番号が「***」と表示されている場合は、新規ディレクトリーが作成されることを表しています。既存のディレクトリーを選択した場合でも、ディレクトリー名を変更するとディレクトリー番号は「***」になり、新規ディレクトリーが作成されます。
Cursor(カーソル)	ノブ 5 を回すことによって、ファイル名のカーソルを 1 文字ずつ移動させます。ディレクトリー名は最大 8 文字まで設定できます。
Data(データ)	ノブ 6 を回すことによって、ファイル名のカーソルがある位置の文字を変更します。 □設定値： <ul style="list-style-type: none"><li>・英大文字 ..... ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ</li><li>・数字、記号 ..... 0123456789!#\$%&amp;!()-@^_`{}~</li></ul>

## USB フラッシュメモリーをフォーマットする(7/7 ページ)

エディット手順	[FILE] ボタンを押す→[PAGE▶] ボタンを押して 7 ページ目を表示→ノブ 6 を押す→ノブ 4(「YES」)を押して実行
---------	--

**△注意** フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

Press	ノブ 6 または [ENTER] ボタンを押すことで、フォーマット実行画面を表示します。フォーマットの実行により、接続中の USB フラッシュメモリーが初期化されます。
-------	--

**NOTE** フォーマット終了後、自動的にエクステナラルパフォーマンスマモリーが USB フラッシュメモリーのルートディレクトリーに作成されます。

# 資料

## 困ったときは

「音が鳴らない」「音が歪む」などといった場合は、まず以下の項目をチェックしてください。また、外部機器にデータのバックアップをしてから(41ページ)、ファクトリーセット(42ページ)をすることで解決できることもあります。  
それでも直らないときは、お買い上げのお店、または巻末のシンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

## 音が鳴らない

### ■ 本体に外部アンプやスピーカー、ヘッドフォンが接続されていますか？

本体にはスピーカーが内蔵されていません。音を出すためには、外部アンプやスピーカー、ヘッドフォンなどを接続してください(11ページ)。

### ■ 本体と、本体に接続した外部オーディオ機器の電源は、オンになっていますか？

### ■ 本体と、本体に接続した外部オーディオ機器のマスター音量は、十分に上がっていますか？

FOOT CONTROLLER [1]/[2] 端子にフットコントローラーを接続している場合は、動かしてみてください。

### ■ 外部 MIDI コントローラーによって、MIDI 音量やエクスプレッションが下がっていませんか？

### ■ 本体と、外部オーディオシステム(アンプやスピーカーなど)との接続は正しく行なわれていますか？

### ■ ローカルコントロールがオフになっていませんか？

本体をコンピューターと接続して使用しない場合、ローカルコントロールがオフになっていると、鍵盤を弾いても内部音源は鳴りませんので、ご注意ください。

[UTILITY] ボタンを押す → [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 4 ページ目を表示 → ノブ 3 を回して「Local」=「on」に設定 →  
[STORE] ボタンを押して設定を保存(38, 58 ページ)

### ■ [PIANO 1]/[PIANO 2] ボタンはオンになっていますか？

[PIANO 1]/[PIANO 2] ボタンがオフ(ランプが消灯)になっている場合は、パート 1/パート 2 の音が鳴らなくなります。

[PIANO 1]/[PIANO 2] ボタンを押してオン(ランプが点灯)にしてください。

### ■ プリアンプおよびパワーアンプ / コンプレッサーの出力音量が最小になっていますか？

[PRE-AMPLIFIER] を長押しする(1 秒以上押したままにする) → ノブ 6 を回して「Volume」を設定(45 ページ)

[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR] を長押しする(1 秒以上押したままにする) → ノブ 6 を回して「Output」を設定(48 ページ)

## 音が歪む

---

### ■ ボリュームを上げすぎていませんか？

本体に接続したミキサーやアンプの入力レベルを確認してください。入力ゲインを下げたり、PADをオンにしても歪む場合は、本機のマスター・ボリュームを下げてみてください。小音量でも歪んだ音に聴こえる場合は、[PRE-AMPLIFIER] や [POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR] の設定を次の手順で変更してください。

[PRE-AMPLIFIER] を長押しする(1秒以上押したままにする) → ノブ1またはノブ6を回して「Gain」または「Volume」を設定(45ページ)

[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR] を長押しする(1秒以上押したままにする) → ノブ6を回して「Output」を設定(48ページ)

### ■ プリアンプ、モジュレーションエフェクト、パワーアンプ / コンプレッサーの設定は適切ですか？

設定によっては、音が歪む場合があります。

[PRE-AMPLIFIER] を長押しする(1秒以上押したままにする)(45ページ)

[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR] を長押しする(1秒以上押したままにする)(48ページ)

## 音が途切れる

---

### ■ 全体の発音数が多すぎると、音が途切れる場合があります。

## ピッチがずれている

---

### ■ トランスポーズまたはチューンの設定が、0以外の値になっていませんか？

[UTILITY] ボタンを押す → [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して1ページ目を表示 → ノブ1/ノブ2を回して「Trnspose」/「Tune」を設定

### ■ 各パートのノートシフト、デチューンが0以外に設定されていませんか？

[COMMON] ボタンを押す → [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して2ページ目を表示 → ノブ1/ノブ2を回して「1NoteShf」/「2NoteShf」を設定

[COMMON] ボタンを押す → [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して2ページ目を表示 → ノブ3/ノブ4を回して「1Detune」/「2Detune」を設定

## プリアンプ、モジュレーションエフェクト、パワーアンプ/コンプレッサー、リバーブがかかるない

---

### ■ [PRE-AMPLIFIER 1]/[PRE-AMPLIFIER 2] ボタン、[MODULATION EFFECT 1]/[MODULATION EFFECT 2] ボタン、[POWER AMPLIFIER/COMPRESSOR 1]/[POWER AMPLIFIER/COMPRESSOR 2] ボタン、[REVERB] ボタンはオンになっていますか？

これらのボタンがオフ(ランプが消灯)になっている場合は、各ブロックがオフになります。各ブロックを有効にしたい場合は、各ボタンを押してオン(ランプが点灯)にしてください。

### ■ モジュレーションエフェクトがかからない場合、パラメーターの設定は適切ですか？

[MODULATION EFFECT] ボタンを長押しする(1秒以上押したままにする)(46ページ)

## エディットしていないのにエディットマーク(□)が表示される

- ノブを操作したり、外部 MIDI 入力により CP1 の音源を鳴らした場合に、パラメーター設定が変更されエディットマークが表示されることがあります。

## 接続したコンピューターと本体との通信がうまくできない

- コンピューター側でのポート設定はできていますか？
- MIDI メッセージの入出力口の設定で、実際に使用している端子を設定していますか(58 ページ)？

[UTILITY] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 4 ページ目を表示→ノブ 5 を回して「In/Out」を設定→[STORE] ボタンを押して設定を保存

## 本体と接続したコンピューター/MIDI 機器のシーケンスデータを再生させても、本体の音が適切に鳴らない

- コンピューター側の送信チャンネルが本体の受信チャンネルと一致していますか？

[UTILITY] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 4 ページ目を表示→「RecvCh」(58 ページ)

- 本体の「kbdMode(キーボードモード)」が「zone(ゾーン)」に設定されていますか？  
2 チャンネルを同時に再生するには、ゾーンに設定してください(50 ページ)。

## バルクデータがうまく送信 / 受信できない

- うまく送信できない場合、デバイスナンバーの設定値が、接続している MIDI 機器のデバイスナンバーと一致していますか？

[UTILITY] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 4 ページ目を表示→「DevNo」(58 ページ)

- 本体のバルクダンプ機能を使って記録したデータを受信するときは、送信時と同じデバイスナンバーに設定する必要があります。

[UTILITY] ボタンを押す→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押して 4 ページ目を表示→ノブ 4 を回して「DevNo」を設定→[STORE] ボタンを押して設定を保存(58 ページ)

## USB フラッシュメモリーにセーブできない

- USB フラッシュメモリーにライトプロテクトがかかっていませんか？
- USB フラッシュメモリーは正しくフォーマットされていますか？
- [FILE] ボタンを押す→[PAGE▶] ボタンを押して 7 ページ目を表示→ノブ 6 を押してフォーマットを実行(62 ページ)
- USB フラッシュメモリーは本体と動作確認済みのものを使用されていますか？(23 ページ)
- USB ハブを介して USB フラッシュメモリーを接続していませんか？  
USB ハブは動作保証していません(23 ページ)。

# メッセージリスト

メッセージ	説明
<b>Are You Sure?</b>	各操作を実行したときの、確認を求める表示です。
<b>Completed.</b>	処理が完了したときに表示されます。
<b>Connected USB device is not supported.</b>	使用不可能なUSBフラッシュメモリーが本体に接続されています。
<b>Connecting to USB device...</b>	USBフラッシュメモリーを接続中です。
<b>Device number is off.</b>	デバイスナンバーがオフなので、バルクデータを送受信できません。
<b>Device number mismatch.</b>	デバイスナンバーが異なるので、バルクデータを送受信できません。
<b>Error storing user memory.</b>	本体のユーザーメモリーへの保存(ストア)に失敗しました。ユーザーメモリーが故障した可能性があるので、巻末のヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。
<b>Executing...</b>	実行中です。表示中は絶対に電源を切らないでください。
<b>File already exists.</b>	同じ名前のファイルがすでに存在しています。
<b>File is not found.</b>	選択したタイプのファイルがありません。
<b>File path is too long.</b>	開こうとするファイルやディレクトリーのパス名が長すぎて開けません。
<b>Illegal file name.</b>	ファイルネームが無効の場合に表示されます。
<b>Illegal file.</b>	ロードのとき、目的のファイルが本機では扱えない、または現在のモードではロードできない場合に表示されます。
<b>Load? (EXT perf)</b>	USBフラッシュメモリー上のエクスターナルパフォーマンスマモリーのファイル(EXTBANK.C1E)を本体のメモリーに上書きしてもいいかを確認しています。EXTBANK.C1Eがすでに本体に読み込まれている場合に、EXTBANK.C1Eをルートディレクトリーに記録しているUSBフラッシュメモリーを本体に接続すると、表示されます。
<b>Loading... (EXT Performance)</b>	エクスターナルパフォーマンスマモリーのファイルロード中に表示されます。
<b>Loading... (MEQ&amp;Utility)</b>	マスターEQやユーティリティーのファイルロード中に表示されます。
<b>Loading... (Performance)</b>	ユーザーパフォーマンスマモリーのファイルロード中に表示されます。
<b>Making external memory...</b>	エクスターナルパフォーマンスマモリーを、本体に接続したUSBフラッシュメモリー上に作っています。
<b>MIDI buffer full.</b>	一度に大量のMIDIデータを受信したので処理できませんでした。
<b>MIDI checksum err.</b>	受信したシステムエクスクルーシブのチェックサムが違います。
<b>MIDI data error.</b>	MIDIデータを受信中にエラーが生じました。
<b>No more files can be created.</b>	これ以上ファイルを作成できません。
<b>Number of USB devices above supported limit.</b>	USBフラッシュメモリーの最大接続数を超えてます。
<b>Overwrite?</b>	ファイルをセーブする際に、USBフラッシュメモリー内に同名のファイルがある場合に表示されます。
<b>Read only file.</b>	属性が読み込み専用に設定されているファイルに、デリート、リネーム、上書きセーブをしようとした場合に表示されます。
<b>Receiving MIDI bulk...</b>	MIDIバルクデータを受信中です。
<b>Saving... (EXT performance)</b>	エクスターナルパフォーマンスマモリーのファイルセーブ中に表示されます。
<b>Saving... (MEQ&amp;Utility)</b>	マスターEQとユーティリティーのファイルセーブ中に表示されます。
<b>Saving... (Performance)</b>	ユーザーパフォーマンスマモリーのファイルセーブ中に表示されます。

メッセージ	説明
<b>Store MEQ&amp;Utility?</b>	マスターEQとユーティリティーの設定を保存するときに表示されます。
<b>Transmitting MIDI bulk...</b>	MIDI バルクデータを送信中です。
<b>USB communication failed.</b>	USB フラッシュメモリーとの通信中にエラーが発生しました。
<b>USB connection terminated.</b>	USB 機器に異常な電流が流れたので接続を遮断しました。
<b>USB device full.</b>	USB フラッシュメモリーの容量が一杯でファイルがセーブできないときに表示されます。新しいUSB フラッシュメモリーを用意するか、不要ファイルを消去してから操作をやりなおしてください。
<b>USB device is not responding.</b>	USB フラッシュメモリーからの応答がありません。
<b>USB device not ready.</b>	USB フラッシュメモリーが本体に正しくセットされていない場合に表示されます。
<b>USB device read/write error.</b>	USB フラッシュメモリーへのリード / ライト中にエラーが発生しました。
<b>USB device unformatted.</b>	USB フラッシュメモリーがフォーマットされていないか、本機で処理できないフォーマットの場合に表示されます。USB フラッシュメモリーの内容を確認してください。
<b>USB device write protected.</b>	USB フラッシュメモリーが書き込み禁止状態になっている場合に表示されます。
<b>USB power consumption exceeded.</b>	USB フラッシュメモリーの消費電力が規定値を超えています。

## 付属ディスクについて

### ご注意

- 付属のソフトウェアの著作権は、Steinberg Media Technologies GmbH が所有します。
- 次のページに、付属のソフトウェアのご使用条件が記載されています。付属のソフトウェアをインストールする前に、必ずこのご使用条件をお読みください。ディスクの包装を解かれた場合は、付属のソフトウェアのご使用条件に同意したことになります。
- 付属のソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- 付属のソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 付属のソフトウェアのディスクは、オーディオ用ではありません。一般のオーディオ・ビジュアル用の CD/DVD プレーヤーでは絶対に使用しないでください。

## 付属 DAW ソフトウェアについて

付属のディスクには DAW ソフトウェアが入っています (Windows/Macintosh)。

**NOTE** • 付属 DAW ソフトウェアをインストールするときは、管理者権限のあるアカウントで行なってください。

- 付属 DAW ソフトウェアを継続してご使用いただくために、ユーザー登録とソフトウェアライセンス認証が必要です。登録と認証は、インターネットに接続した状態で付属 DAW ソフトウェアを起動したときに行なえます。起動時に表示される「今すぐ登録」ボタンをクリックし、表示されたすべての項目を入力してください。登録と認証をされない場合は、インストール後、一定期間のみご使用いただけます。
- Macintosh の場合は、「.mpkg (拡張子)」のアイコンをダブルクリックしてインストールします。

付属のソフトウェアおよび最新の動作環境については、下記の URL をご参照ください。

<http://www.yamahasynth.com/jp/>

### サポートについて

付属 DAW ソフトウェアについては、スタインバーグ社のホームページをご参照ください。スタインバーグ社のホームページでは、製品に関するサポート情報や最新のアップデータのダウンロード、FAQ などを下記 URL にて公開しております。

<http://japan.steinberg.net/>

付属 DAW ソフトウェアの [ヘルプ(Help)] メニューからスタインバーグ社のホームページにアクセスできます。  
(ヘルプメニューには付属 DAW ソフトウェアの PDF マニュアルや追加情報なども掲載されています。)

**※重要※ ヤマハ株式会社では、付属のソフトウェアについてのサポートは、一切行なっておりません。**

## ソフトウェアのご使用条件

弊社では本ソフトウェアのお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについて、<ソフトウェア使用許諾契約>を設けさせていただいており、お客様が下記条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。

本ソフトウェアのディスクの包装を解かれた場合は下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みの上開封してください。ご同意いただけない場合は、インストール、コピー、その他のご使用はおやめください。

このソフトウェア使用許諾契約は、本製品に同梱している、スタインバーグ社の付属 DAW ソフトウェアに関して、お客様のご使用条件を規定するものです。付属 DAW ソフトウェアをインストールする過程で「スタインバーグ・エンドユーザー・ライセンス契約書」が表示されますが、その契約書は、このソフトウェア使用許諾契約に置き換えられるために、意味のないものです。インストールする際には、その「スタインバーグ・エンドユーザー・ライセンス契約書」を無視して「同意します」を一律選択し「次へ」をクリックして、次頁（ユーザー登録）に進んでください。

## ソフトウェア使用許諾契約

### 1.著作権および使用許諾

弊社はお客様に対し、ソフトウェアプログラムおよびデータファイル（以下「本ソフトウェア」といいます。）を使用する権利を許諾します。本契約条項は、今後お客様に一定の条件付きで配布され得る本ソフトウェアのバージョンアッププログラム、データファイルにも適用されるものとします。本ソフトウェアの権利およびその著作権はスタインバーグ社（ドイツ）にあり、弊社は同社からお客様に使用許諾するためのサプライセンス権を得ています。本ソフトウェアの使用によって作成されたデータの権利はお客様が取得しますが、本ソフトウェアは、関連する著作権法規のもとで保護されています。

- お客様ご自身が一時に一台のコンピューターにおいてのみ使用することができます。
- バックアップが許されているものは、バックアップをとる目的でのみ、機械で読み取れる形式での本ソフトウェアのコピーを作成することができます。ただし、そのバックアップコピーには本ソフトウェアに表示されている弊社の著作権の表示や他の権利帰属についての説明文もコピーしてください。
- お客様は、製品本体を第三者に譲渡する場合に限り、付属品である本ソフトウェアを使用する権利を、同じ第三者に譲渡することができます。ただし、お客様が本ソフトウェアのコピーを保持せず、かつ譲受人が本契約条項に同意する場合に限られます。

### 2.使用制限

- 本ソフトウェアの使用にあたっては、次のことを遵守してください。
- 本ソフトウェアには著作権があり、その保護のため、お客様が本ソフトウェアを逆コンパイル、逆アセンブル、リバース・エンジニアリング、またはその他のいかなる方法によっても、人間が感得できる形にすることは許されません。

- 本ソフトウェアの全体または一部を複製、修正、改変、貸貸、リース、頒布または本ソフトウェアの内容に基づいて二次的著作物をつくることは許されません。
- 本ソフトウェアをネットワークを通して別のコンピューターに伝送したり、ネットワークで他のコンピューターと共有することは許されません。
- 本ソフトウェアを使用して、違法なデータや公序良俗に反するデータを配信することは許されません。
- 弊社の許可無く本ソフトウェアの使用を前提としたサービスを立ち上げることは許されません。

2) 楽曲用 MIDI データ等、本ソフトウェアにより使用または入手できる著作権曲については次のことを遵守してください。

- 本ソフトウェアの使用によって得られたデータを著作権者の許可なく営業目的で使用することは許されません。
- 本ソフトウェアの使用によって得られたデータを著作権者の許可なく複製、転送または配信したり、または不特定多数にむけて再生および演奏することは許されません。
- 本ソフトウェアの使用によって入手できるデータの暗号を著作権者の許可無く解除したり、電子透かしを改変したりすることは許されません。

### 3.終了

本契約はお客様が本ソフトウェアをお受け取りになった日に発効します。本契約は、お客様が著作権法または本契約条項に1つでも違反されたときは、弊社からの終了通知がなくても自動的に終了するものとします。その場合には、ただちに本ソフトウェアとそれに関するドキュメンテーション、およびそれらのコピーをすべて廃棄しなければなりません。

### 4.製品の保証

本ソフトウェアがディスク等の媒体で販売された場合や、ディスク等の媒体で製品に同梱された場合には、弊社は、お客様が本ソフトウェアをお受け取りになった日から 14 日間に限り（お受け取りの日は、受領書の写しで証明される日とします）、媒体に物理的な欠陥があった場合には、その原因が事故、乱用、誤用など弊社の責に帰さない事由による場合を除き、無償で同種の良品と交換させていただきます。弊社はそれ以上の保証はいたしません。

### 5.本ソフトウェアに関する保証

本ソフトウェアのご使用についての一切のリスクはお客様のご負担となります。

本ソフトウェアの商品性、特定の目的への適合性、第三者の権利を侵害しないことの保証は明示であると黙示であるとを問わず、一切いたしません。特にお客様の目的に適合することや、ソフトウェアの操作が中断されないことやソフトウェアの欠陥や瑕疵が修正されることの保証はいたしません。

## 6. 責任の制限

弊社の義務は、お客様に本契約条項の条件で本ソフトウェアの使用を許諾することがすべてです。

弊社は、本ソフトウェアの使用、誤用またはそれを使用できなかつたことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害（データの破損、営業上の利益の損失、業務の中止、営業情報の損失などによる損害を含む）については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生の可能性について予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。すべての損害、損失、契約や違法行為等に対する訴訟申立てについて、いかなる場合も、お客様に対する弊社の責任は、お客様が本ソフトウェアの購入のために支払った金額を越えることはありません。

## 7. 一般事項

本契約条項は、弊社の権限ある者の署名のある書面によらない限り、改訂することはできません。

本契約条項は、日本法の適用を受け、日本法に基づいて解釈されるものとします。本契約に関し紛争が生じた場合には東京地方裁判所を専属管轄裁判所とします。

## 8. インストール時に表示される契約書

本ソフトウェアをインストールする過程で表示される「スタインバーグ・エンドユーザー・ライセンス契約書」は、このソフトウェア使用許諾契約に置き換えられるために、意味のないものです。

# MIDIについて

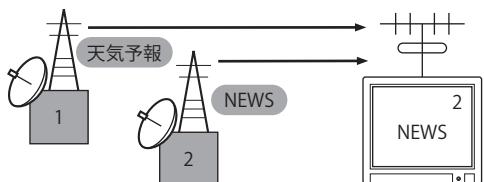
MIDI(ミディ)は、Musical Instrument Digital Interface の頭文字をとったもので、楽器同士を接続して演奏情報や音色情報などをやりとりするために作られた世界統一の規格です。世界統一規格ですから、メーカーや楽器の種類が違ってもデータをやりとりできます。MIDIでは、「鍵盤を弾く」、「パフォーマンスを選ぶ」といった演奏に関する情報以外に、テンポをコントロールするための情報など、さまざまな情報をやりとりできます。これらの情報をフルに活用すると、鍵盤やコントローラーを使って演奏するだけではなく、パートごとのパンやリバーブの深さを変えたり、エフェクトの設定を変更するなど、本体パネルで設定するパラメーターのほとんどを、外部 MIDI 機器から MIDI を通してコントロールできます。

「MIDIについて」では、データ / 値を 10 進数や 2 進数、16 進数で表現しています。16 進数の場合は数値の後(または列の頭)に H (Hexadecimal) が付いています。また、"n" は任意の整数を表します。

## MIDI チャンネル

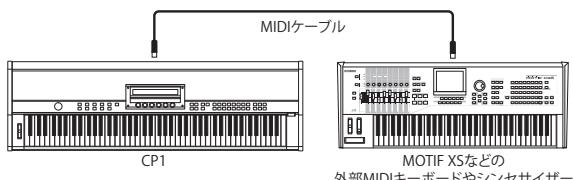
MIDI の情報には、MIDI チャンネルという 1 ~ 16 の番号が割り当てられています。この MIDI チャンネルを使って、1 本の MIDI ケーブルで同時に 16 パート分の情報を送る仕組みになっています。

MIDI チャンネルは、テレビのチャンネルと同じようなものだと考えることができます。テレビの放送局は、あらかじめ割り当されたチャンネルで情報を送信します。各家庭では複数の放送局から送られてきた情報を同時に受信した上で、特定のチャンネルを選択することで目的の放送局の情報(番組)をみることができるわけです。



MIDI チャンネルもこれと同じ仕組みです。MIDI データは、送信側の楽器で設定された MIDI 送信チャンネル(MIDI トランスマッティックチャンネル)によって MIDI ケーブルを通り受信側の楽器に送られます。このとき、受信側の楽器で設定される MIDI 受信チャンネル(MIDI レシーブチャンネル)が、送信側のチャンネルと一致してはじめて音が鳴ります。

MIDI 送信チャンネルと受信チャンネルの設定については、リファレンスの 58 ページをご参照ください。



## MIDI チャンネルと MIDI ポート

MIDI チャンネルは「16」まで規定されていますが、16 チャンネル(パート)を超える MIDI データも扱えるよう「ポート」という概念があり、1 ポートあたり 16 チャンネルを扱えるようになっています。MIDI ケーブルでは同時に 1 ポート分(16 チャンネル分)のデータしか通信できませんが、USB ケーブルでは最大 8 ポート分( $16 \times 8 = 128$  チャンネル分)の MIDI データを扱えます。CP1 では、USB 端子を使って外部機器と接続する場合、扱えるポートが 1 つに固定されています。

## 本体で送受信できる MIDI メッセージ

MIDI メッセージは、大きく分けてチャンネルメッセージとシステムメッセージの 2 つのタイプがあります。それぞれのタイプには以下のようないちごうがあります。別冊「DATA LIST」の MIDI データフォーマット、MIDI インプリメンテーションチャートとあわせてお読みください。

### チャンネルメッセージ

チャンネルメッセージは、チャンネルごとに個別に送られる、演奏についての情報のことです。

#### ■ノートオン / オフ

鍵盤の演奏情報を伝えるメッセージです。

ノートオンは鍵盤を押されたときに送信されるメッセージで、ノートオフは鍵盤を離したときに送信されるメッセージです。各メッセージには、どの鍵盤を演奏したかを示す「ノートナンバー」と、どれくらいの強さで演奏したかを示す「ベロシティー」という 2 種類のデータが含まれます。

ノートナンバーの受信範囲は、中央のド(C3)を 60 として、0(C-2) ~ 127(G8) です。ベロシティーの情報はノートオンにのみ含まれ、受信範囲は 1 ~ 127 です。

#### ■コントロールチェンジ

ボリュームやパンなどをコントロールするメッセージです。いろいろな種類のコントロールチェンジには、それぞれコントロールナンバーが付いています。

**バンクセレクト MSB(コントロールナンバー0)****バンクセレクト LSB(コントロールナンバー32)**

外部機器からパフォーマンスのバンクを選択する MIDI メッセージです。MSB と LSB の 2 つのコントロールチェンジの組み合わせでパフォーマンスバンクが選択されます。CP1 では、LSB の値でパフォーマンスのバンクを設定します。

実際には、バンクセレクト MSB、LSB を受信したあと、プログラムチェンジを受信してはじめてパフォーマンスバンクが切り替わります。

パフォーマンスバンクを含めてパフォーマンスを切り替える場合は、バンクセレクトとプログラムチェンジをセットにして、MSB、LSB、プログラムチェンジの順に送信します。

各パフォーマンスバンクとパフォーマンスについては、別冊の「DATA LIST」をご参照ください。

**データエントリーMSB(コントロールナンバー6)****データエントリーLSB(コントロールナンバー38)**

RPN MSB、RPN LSB で指定したパラメーターの値を設定する MIDI メッセージです。MSB と LSB の 2 つのコントロールチェンジの組み合わせでパラメーターの値が設定されます。

**メインボリューム(コントロールナンバー7)**

パートごとのボリューム(音量バランス)を調節する MIDI メッセージです。値が 0 のとき音が出ず、127 のとき音量が最大になります。パートごとの音量のバランスを調節するときに使います。

**パン(コントロールナンバー10)**

パートごとのパン(ステレオ再生したときの音の定位)を調節する MIDI メッセージです。値が 0 のときいちばん左に、64 のときに中央に、127 のときいちばん右に移動します。

**エクスプレッション(コントロールナンバー11)**

パートごとのエクスプレッションを設定する MIDI メッセージです。値が 0 のとき音が出ず、127 のとき音量が最大になります。曲中の音量変化(抑揚)をつけるときに使用します。

**ホールド 1(コントロールナンバー64)**

サステインペダルのオン / オフを設定する MIDI メッセージです。ペダルを踏んだときに発音していた音を持続します。値が 0 ~ 63 のときサステインペダルがオフ(離した状態)、64 ~ 127 のときオン(踏んだ状態)になります。オンのときはノートオフを受信しても発音している音が持続します。

**ソステナートペダル(コントロールナンバー66)**

ピアノのソステナートペダルのオン / オフを設定する MIDI メッセージです。値が 0 ~ 63 のときソステナートがオフ、64 ~ 127 のときオンになり、ソステナート効果がかかります。特定の音(ノートナンバー)の発音中にオンにすると、オフするまでその音が持続します。

**ソフトペダル(コントロールナンバー67)**

ピアノのソフトペダルのオン / オフを設定する MIDI メッセージです。値が 0 ~ 63 のときソフトがオフ、64 ~ 127 のときオンになり、ソフト効果がかかります。

**リリースタイム(コントロールナンバー72)**

パートごとの AEG リリースタイムを調節する MIDI メッセージです。

0 ~ 127 の値を -64 ~ + 63 に置き換えて元のパフォーマンスデータに加減され、リリースタイムが変更されます。

**ディケイタイム(コントロールナンバー75)**

パートごとの AEG ディケイタイムを調節する MIDI メッセージです。

0 ~ 127 の値を -64 ~ + 63 に置き換えて元のパフォーマンスデータに加算され、ディケイタイムが変更されます。値を大きくすると立ちあがり後の余韻が長くなります。

**エフェクト 1 デプス(リバーブセンドレベル)****(コントロールナンバー91)**

リバーブエフェクトに対するセンドレベルを設定する MIDI メッセージです。

**データインクリメント(コントロールナンバー96)****データデクリメント(コントロールナンバー97)**

外部機器の RPN(下記参照)でピッチベンドセンシティビティーを指定した後、それぞれのパラメーターの値を 1 ずつ増減する MIDI メッセージです。

**RPN LSB(レジスタードパラメーターナンバーLSB)****(コントロールナンバー100)****RPN MSB(レジスタードパラメーターナンバーMSB)****(コントロールナンバー101)**

外部機器から、ピッチベンドセンシティビティーやチューニングなど、パートの設定をオフセット値で変更するための MIDI メッセージです。

RPN MSB、RPN LSB で変更したいパラメーターを指定したあと、前述のデータインクリメント / デクリメントでパラメーターの値を設定します。

RPN が設定されると、その後同じチャンネルで受信するデータエントリーは、設定した RPN の値として処理されます。このメッセージを使ってコントロールした後は、一旦パラメーターナンバーを Null(7FH, 7FH)に設定し直して誤操作を防止してください。

以下のパラメーターをコントロールできます。

RPN MSB	RPN LSB	パラメーター名
00H	00H	ピッチベンドセンシティビティー
7FH	7FH	RPN ヌル

## チャンネルモードメッセージ

2nd BYTE	3rd BYTE	MESSAGE
120	0	オールサウンドオフ
121	0	リセットオールコントローラー
123	0	オールノートオフ

### オールサウンドオフ(コントロールナンバー120)

各パートの発音中の音をすべて消去する MIDI メッセージです。ホールド 1 やソステナートなどのチャンネルメッセージは保持します。

### リセットオールコントローラー(コントロールナンバー121)

コントローラーの値を初期設定値に戻す MIDI メッセージです。次の各値を初期値に戻します。

コントローラー	初期値
ピッチベンド	0(中央)
エクスプレッション	127(最大値)
ホールド 1	0(off)
ソステナート	0(off)
ソフトペダル	0(off)
RPN	番号未設定状態となり、内部データは変更されない

### オールノートオフ(コントロールナンバー123)

各パートのオンになっているノートをすべてオフにする MIDI メッセージです。ただし、ホールド 1 またはソステナートがオンになっている場合は、それがオフになるまでは音は消えません。

### オムニモードオフ(コントロールナンバー124)

オールノートオフを受信したときと同じ処理を行ないます。CP1 のレシーブチャンネルを 1 に設定します。

### オムニモードオン(コントロールナンバー125)

オールノートオフを受信したときと同じ処理を行ないます。CP1 のレシーブチャンネルのみをオムニオンに設定します。

## ■プログラムチェンジ

パフォーマンスを選択するための MIDI メッセージです。バンクセレクトと組み合わせて使用すると、すべてのバンクのパフォーマンスを MIDI で選択できるようになります。パフォーマンスリストについては、別冊の「DATA LIST」をご参照ください。

**NOTE** プログラムチェンジを 0 ~ 127 で設定する場合は、データリストの No. から 1 を引いた数で指定します。たとえば、No.16 のプログラムを指定する場合は、プログラムチェンジ =15 になります。

## ■ピッチベンド

ピッチベンドホイールの演奏を伝えて、ピッチを変化させる MIDI メッセージです。

## システムメッセージ

システムメッセージは、機器間の同期などシステム全体に関連した設定を行なう情報です。

### ■システムエクスクルーシブメッセージ

システムエクスクルーシブメッセージのバルクダンプやパラメーターチェンジでは、デバイスナンバーと呼ばれる専用の MIDI チャンネルのようなものがあり、送信側の機器と受信側の機器で一致していなければなりません。この MIDI メッセージを使うと、外部 MIDI 機器から本体のほとんどすべての設定をエディットすることも可能になります。

### ■システムリアルタイムメッセージ

#### アクティブセンシング(FEH)

演奏中に MIDI ケーブルが抜けたり、断線したりしてトラブルが起こるのを防ぐための MIDI メッセージです。アクティブセンシングを受信すると、本体は MIDI ケーブルの状態を監視する状態になります。アクティブセンシングを受信してから約 300msec 以上経っても次の信号がこない場合は、MIDI ケーブルにトラブルが起きたと判断して、オールノートオフとリセットオールコントローラーを受信したときと同じ処理をします。

## 仕様

項目	内容
鍵盤	木製象牙調ウェイテッド鍵盤 88 鍵
パフォーマンス	プリセット: 16×3 バンク ユーザー: 16×3 バンク(すべてプリセットからのピックアップ) エクストラナル: 16×3 バンク(USB フラッシュメモリー)
パート数	2 パート
効果	ブリアンプ、モジュレーションエフェクト、パワー・アンプ / コンプレッサー、リバーブ、マスターEQ(5 バンド)
コントローラー	ピッチベンドホイール、[MASTER VOLUME] ダイアル、ノブ 1 ~ 6
画面	55 文字 × 2 行、VFD(蛍光表示管)
接続端子	MIDI [IN]/[OUT]/[THRU] 端子、ヘッドフォン端子(ステレオ標準フォーンジャック)、OUTPUT [L/MONO]/[R] 端子(アンバランス接続の標準フォーンジャック)、OUTPUT [L]/[R] 端子(バランス接続の XLR 端子)、FOOT SWITCH [SUSTAIN]/[SOSTENUTO]/[SOFT]/[ASSIGNABLE] 端子([SUSTAIN] 端子はハーフダンパー対応)、FOOT CONTROLLER [1]/[2] 端子、USB TO DEVICE 端子、[USB TO HOST] 端子、[AC IN] 端子
消費電力	16W
寸法(間口 × 奥行き × 高さ)(付属ペダルを除く)	1385(W) mm × 420(D) mm × 173(H) mm
質量(付属ペダルを除く)	27.2kg
付属品	電源コード、付属ペダル、「Illustrated Guide to the CP1」、取扱説明書(本書)、「DATA LIST」、ディスク × 1 枚、保証書、2P-3P 変換器

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

# 索引

## Symbols

[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタン ..... 16、24

## Numerics

[1] ~ [16] ボタン ..... 27  
 1Dest (デスティネーション 1) ..... 54  
 1Detune (デチューン 1) ..... 52  
 1NoteShf (ノートシフト 1) ..... 52  
 1Pan (パン 1) ..... 52  
 1PBRRange (ピッチバンドレンジ 1) ..... 52  
 1RevSend (リバーブセンド 1) ..... 49  
 1VelDepth-Offset (ペロシティーセンシティ  
ビティーデブス 1、ペロシティーセンシティ  
ビティーオフセット 1) ..... 53  
 2Dest (デスティネーション 2) ..... 54  
 2Detune (デチューン 2) ..... 52  
 2NoteShf (ノートシフト 2) ..... 52  
 2Pan (パン 2) ..... 52  
 2PBRRange (ピッチバンドレンジ 2) ..... 52  
 2RevSend (リバーブセンド 2) ..... 49  
 2VelDepth-Offset (ペロシティーセンシティ  
ビティーデブス 2、ペロシティーセンシティ  
ビティーオフセット 2) ..... 53  
 69Wr ..... 43  
 69Wr (PowerAmp 69Wr) ..... 48  
 71Rd I ..... 43  
 71Rd I (PowerAmp 71Rd I) ..... 48  
 73Rd I ..... 43  
 73Rd I (PowerAmp 73Rd I) ..... 48  
 75Rd I ..... 43  
 75Rd I (Power Amp 75Rd I) ..... 48  
 77Wr ..... 43  
 77Wr (PowerAmp 77Wr) ..... 48  
 78Rd II ..... 43  
 78Rd II (Power Amp 78Rd II) ..... 48  
 816Cho (816Chorus) ..... 46

## A

[AC IN] 端子 ..... 10  
 all ..... 58、60、61  
 AtkTimbr (Attack Timbre) ..... 44  
 Attack ..... 48  
 [A] ボタン ..... 27

## B

BankLSB (バンクセレクト LSB) ..... 51  
 BankMSB (バンクセレクト MSB) ..... 51  
 Basenote (ベースノート) ..... 57  
 Bass ..... 45  
 Bottom ..... 46  
 Brightns (ディスプレイライトネス) ..... 59

Brill. (Brilliance) ..... 45  
 BulkDump (バルクダンプ) ..... 58  
 [B] ボタン ..... 27

## C

CF 2Band ..... 43  
 CF 3Band ..... 43  
 Chorus ..... 46  
 Clean (Clean Amp) ..... 48  
 Color ..... 46  
 [COMMON] ボタン ..... 16、50  
 Comp376 (Compressor 376) ..... 48  
 ContrlNo (コントロールナンバー) ..... 57  
 CP80 ..... 43  
 CP88 ..... 43  
 Cursor (カーソル) ..... 50、60、61、62  
 [C] ボタン ..... 27

## D

D Chorus ..... 46  
 DampReso (Damper Resonance Level) ..... 44  
 Data (データ) ..... 50、60、61、62  
 Decay (Decay Time) ..... 44  
 Delay ..... 46  
 Depth ..... 46  
 Depth (Vibrato Depth) ..... 45  
 DevNo (デバイスナンバー) ..... 58  
 Dir (ディレクトリー) ..... 62  
 DRAM ..... 39  
 Drive ..... 46、48  
 DXEP 1 ..... 43  
 DXEP 2 ..... 43  
 DXEP 3 ..... 43  
 DXEP 4 ..... 43  
 Dyno ..... 43

## E

[ENTER/EXECUTE] ボタン ..... 17  
 Equal ..... 57  
 [EXIT/jump to edit] ボタン ..... 17、26、33  
 external ..... 60、61  
 [EXTERNAL] ボタン ..... 21、27

## F

FBHiDamp (フィードバックハイダンプ) ..... 49  
 FC1 (フットコントローラー 1) ..... 51、54、57  
 FC2 (フットコントローラー 2) ..... 51、54、57  
 FC3 (HalfOff) ..... 57  
 FC3 (HalfOn) ..... 57  
 FC4/5 ..... 57  
 FctrySet (ファクトリーセット) ..... 59

Feedback ..... 46

File (ファイル) ..... 60、61、62

[FILE] ボタン ..... 59

fixed ..... 56

Flanger ..... 46

flat ..... 56

FOOT CONTROLLER [1]/[2] 端子 ..... 12

FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] 端子 ..... 12

Free (フリー) ..... 59

Freq (フリケンシー) ..... 55

FSAssign ..... 54、57

## G

Gain (Input Gain) ..... 45  
 Gain (ゲイン) ..... 55

## H

Hammer (Hammer Stiffness) ..... 44  
 hard ..... 56  
 High ..... 45  
 HighMid (High Middle) ..... 45  
 HPF (ハイパスフィルター カットオフ) ..... 49

## I

In/Out (MIDI In/Out) ..... 58

## J

jump to edit ..... 17、26、33

## K

KbdMode (キーボードモード) ..... 50  
 Key-off (Key-off Noise Level) ..... 44  
 KlrnBerger ..... 57

## L

latch ..... 54  
 layer ..... 50  
 [LIGHT] スイッチ ..... 18  
 LineBal (Line Balance) ..... 48  
 Local (ローカル) ..... 58  
 Low ..... 45  
 LowMid (Low Middle) ..... 45

## M

Manual ..... 47  
 [MASTER EQUALIZER] ボタン ..... 16、54  
 [MASTER VOLUME] ダイアル ..... 14  
 Max100 ..... 46  
 Max90 ..... 46  
 MeanTone ..... 57  
 Mid ..... 45

## 索引

資料

MidBoost (Mid Boost) .....	45
Middle .....	45
MidFreq (Mid Freq) .....	45
MIDI .....	71
MIDI [IN][OUT][THRU] 端子 .....	35
MIDI (トランスマット MIDI スイッチ) .....	51
MIDI スルー .....	38
MIDI 送受信チャンネル .....	51、58
MIDI デバイスナンバー .....	58
MIDI の設定 .....	58
Mix .....	47
Mode .....	47
Mode (スイッチモード) .....	54
[MODULATION EFFECT] ボタン .....	16、46
momentary .....	54

## N

Name (ネーム) .....	50
norm .....	56
Normal .....	45
NoteLimit (ノートリミット) .....	51

## O

omni .....	58
OscDetun (Oscillator Detune) .....	44
Output .....	49
OUTPUT [L/MONO]/[R] 端子 .....	11、18
OUTPUT [L]/[R] 端子 .....	11、18
Overtone .....	45

## P

Pan .....	52、72
PCNum (プログラムエンジンバー) .....	51
peak .....	55
Pedal Control .....	47
PedalWah (Pedal Wah) .....	46
perf (パフォーマンス) .....	61
Phase .....	47
[PIANO] ボタン .....	16、43
Pk1Freq (Peak1 Freq) .....	45
Pk1Gain (Peak1 Gain) .....	45
Pk2Freq (Peak2 Freq) .....	45
Pk2Gain (Peak2 Gain) .....	45
Point (ポイント) .....	50
[POWER-AMPLIFIER/COMPRESSOR]	
ボタン .....	16、48
[PRE-AMPLIFIER] ボタン .....	16、43
[PRESET] ボタン .....	21、27
Press .....	62
PtchBend (ピッチベンドホール) .....	51
Pure Major .....	57
Pure Minor .....	57
Pythagorean .....	57

## Q

Q (キュ) .....	55
R	
Rate .....	47
Ratio .....	49
RecvCh (レシーブチャンネル) .....	58
Release .....	49
Release (Release Time) .....	44
Reso (Resonance Offset) .....	47
[REVERB] ボタン .....	16、49
RevTime (リバーブタイム) .....	49
RevType (リバーブタイプ) .....	49
Rls Tone (Release Tone) .....	44

## S

S6 2Band .....	43
S6 3Band .....	43
Scale (スケール) .....	57
Sens. (Sensitivity) .....	47
Shape (シェイプ) .....	55
shelv .....	55
SmallPha (Small Phaser) .....	46
Soft .....	54、56、57、72
[SOFT] 端子 .....	30
Sostenuto .....	54、72
[SOSTENUTO] 端子 .....	30
Sostnuto (Sostenuto) .....	57
Source (ソース) .....	54、57
Speed .....	47
Speed (Vibrato Speed) .....	45
split .....	50
SpType (Speaker Type) .....	49
Start Up (スタートアップ) .....	59
[STORE/ASSIGN] ボタン .....	17、29、40
stretch .....	56
StrkPos (Striking Position) .....	44
SusPedal (サステインペダル) .....	51、57
Sustain .....	57
[SUSTAIN] 端子 .....	30
Sympho (Symphonic) .....	46

## T

Top .....	47
Total (トータル) .....	59
TouchWah (Touch Wah) .....	46
TransCh (トランスマットチャンネル) .....	58
Treble .....	45
Trnspose (トランスポーズ) .....	56
TunCurve (ピアノチューニングカーブ) .....	56
Tune (マスターチューン) .....	56
Type .....	47
Type (ファイルタイプ) .....	60、61

## U

[USB TO DEVICE] 端子 .....	23
[USB TO HOST] 端子 .....	36、37
USB フラッシュメモリー .....	
.....22、23、28、39、40、41、59、61、62	
[USER] ボタン .....	21、27
[UTILITY] ボタン .....	56

## V

VelCurve (ペロシティーカーブ) .....	56
Volume .....	45

## W

WerokMeister .....	57
wide .....	56

## Z

zone .....	50、51
Zone (ゾーン) .....	51
ZoneEdit (ゾーンエディット) .....	50

## あ

安全上のご注意 .....	1
---------------	---

## い

イコライザー .....	20
移調 .....	56

## え

エクスター／フォーマンスメモリー .....	
.....13、21、22、28、39、40	
エコーバック .....	38
エディットバッファー .....	39
エディットマーク .....	26

## お

音源 .....	19
音律 .....	57
音量 .....	14、16

## か

外部 MIDI 機器 .....	35
外部オーディオ機器 .....	11
カスタマイズ .....	7、19
画面 .....	14、16
画面の明るさ .....	14、59

## き

キーの設定 .....	56
キュー .....	55

## け

ゲイン .....	45、55
-----------	-------

<b>こ</b>	<b>ト</b>	<b>ま</b>	
工場出荷時の状態に戻す ..... 42、59	トラブルシューティング ..... 63	マスターEQ ..... 19、20、40、54	
困ったときは ..... 63	トランスポーズ ..... 56	マスターキーボード ..... 50、51	
コモン ..... 19、20、50	トランスマットチャンネル ..... 51、58	マスターボリューム ..... 14、16	
コントローラーの設定 ..... 54、57	<b>な</b>		
コンピューター ..... 36	名前の設定 ..... 25、50、60、61、62	<b>め</b>	
コンプレッサー ..... 19、20、48	メッセージリスト ..... 66		
<b>の</b>			
<b>さ</b>	ノートシフト ..... 52	メモリー構成 ..... 21、39	
サステインペダル ..... 12、30、44、57	ノートリミット ..... 51	<b>も</b>	
<b>し</b>			ノブ1~6 ..... 16、24、28
シェイプ ..... 55	<b>は</b>		モーメンタリー ..... 54
シェルビングタイプ ..... 55	パート ..... 19、21	モジュレーションエフェクト ..... 19、20、46	
受信チャンネル ..... 51、58	パフォーマンス ..... 19、21、27、33	<b>い</b>	
仕様 ..... 74	パフォーマンスマモリー ..... 21	ユーザーパフォーマンスマモリー ..... 21、39、40	
初期化 ..... 42、59	バルクダンプ ..... 39、41、58	ユーチャームモリー ..... 39	
<b>す</b>	パワーアンプ ..... 19、20、48	ユーティリティー ..... 40、56	
スイッチモード ..... 54	パン ..... 52、72	<b>ら</b>	
スケール ..... 57	バンク ..... 17、21、27	ラッチ ..... 54	
ストア ..... 39、40	バンクセレクト ..... 51、72	<b>り</b>	
スピーカー ..... 11、20	<b>ひ</b>		リネーム ..... 61
スプリット ..... 50	ピーキングタイプ ..... 55	リバーブ ..... 19、20、49	
スプリットポイント ..... 50	ピアノタイプ ..... 19、20、27、43	<b>れ</b>	
<b>せ</b>	ピッチペンド ..... 31、51、54	レイヤー ..... 50	
セーブ ..... 39、41、60	ピッチペンドレンジ ..... 52	レシーブチャンネル ..... 51、58	
接続	<b>れ</b>		
外部MIDI機器 ..... 35	<b>ふ</b>	レゾナンス ..... 47	
外部オーディオ機器 ..... 11	ファイル ..... 39、41、59	<b>ろ</b>	
コンピューター ..... 36	ファクトリーセット ..... 42、59	ローカルオン/オフ ..... 58	
電源コード ..... 10	フォーマット ..... 23	ローカルコントロール ..... 38	
ペダル ..... 12	付属ディスク ..... 68	ロード ..... 39、61	
<b>そ</b>	付属ペダル ..... 12	<b>へ</b>	
ゾーン ..... 35、50、51	フットスイッチ ..... 12、18、30	ペダル ..... 12、30、51、54、57	
ゾーンエディット ..... 50、51	フットスイッチアサイナブル ..... 54	ヘッドフォン ..... 11	
送信チャンネル ..... 51、58	フットペダル ..... 12、18、30	ヘッドフォン端子 ..... 11	
ソステナートペダル ..... 12、30、54、72	フラッシュROM ..... 39	ベロシティーセンシティビティー ..... 53	
ソフトペダル ..... 12、30、54、72	プリアンプ ..... 19、20、43、45	<b>ほ</b>	
<b>ち</b>	フリケンシー ..... 55	保存 ..... 4、40	
チューニング ..... 56、57	プリセットパフォーマンスマモリー ..... 21、39		
<b>て</b>	プログラムチェンジ ..... 37、51、73		
ディレクター ..... 61、62			
デチューン ..... 52			
デバイスナンバー ..... 58			
デモソング ..... 15			
電源 ..... 13			
電源コード ..... 10			
電源スイッチ ..... 13			

# ユーザーサポートサービスのご案内

## ■ ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方々をサポートし、関連情報をご提供するために、本製品をご購入いただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。

ユーザー登録手続きは、下記ホームページよりお願いします。

### ヤマハデジタル楽器・DTM 製品ホームページ

<http://www.yamahasynth.com/jp/>

\* ユーザー登録には、製品本体のシリアル番号（SER No.）が必要になります。

\* ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」、「メールアドレス」などを変更された場合は、上記ホームページよりお手続きください。

付属 DAW ソフトウェアについては、Steinberg 社のホームページをご覧ください。Steinberg 社のホームページでは、製品に関するサポート情報や、最新のアップデータのダウンロード、FAQ などを下記 URL にて公開しております。

<http://japan.steinberg.net/>

付属 DAW ソフトウェアの [ヘルプ(Help)] メニューから Steinberg 社のホームページにアクセスできます。（ヘルプメニューには、付属 DAW ソフトウェアの PDF マニュアルや追加情報なども掲載されています。）

## ■ 質問の受付

ヤマハデジタル製品は、常に新技術 / 高機能を搭載し技術革新を進める一方、お使いになる方々の負担とわずらわしさを軽減できるような製品づくりを進めております。また取扱説明書の記載内容も、よりわかりやすく使いやすいものにするため、研究 / 改善いたしております。

しかし、一部高機能デジタル製品では、取扱説明書だけでは説明しきれないほどのいろいろな知識や経験を必要としてしまうものがあります。

実際の操作に関して、基本項目は取扱説明書に解説いたしておりますが、「記載内容が理解できない」、「手順通りに動作しない」、「記載が見つからない」といったさまざまな問題が起こる場合があります。

そのようなお客様への一助となるよう、弊社ではシンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口を開設いたしております。

お気軽にご利用いただきますようご案内申し上げます。

お問い合わせの際には、「製品名」、「シリアル番号 (SER No.)」をお知らせください。

### お客様コミュニケーションセンター

#### シンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口

ナビダイヤル  
(全国共通番号)



0570-015-808

※一般公衆電話からは、市内通話料金をご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP 電話からは 053-460-1666

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00、

土曜日 10:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

メールでのお問い合わせ

<http://www.yamaha.co.jp/support/music-production/>

\* 営業日や営業時間を変更させていただく場合がございます。

あらかじめご了承ください。

### ヤマハデジタル楽器・DTM 製品ホームページ

<http://www.yamahasynth.com/jp/>

### ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

### あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ

<http://www.music-eclub.com/>

# 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

## ●保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

## ●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

## ●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## ●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

### 消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

## ●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

## ●修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

## ●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

## ◆修理に関するお問い合わせ

### ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル  
(全国共通番号)  0570-012-808

市内通話料でOK<sup>®</sup> ナビダイヤル<sup>®</sup> ※一般公衆電話からは、市内通話料金ご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは TEL 053-460-4830

営業時間：月曜日～金曜日 9:00～18:00、

土曜日 9:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX 053-463-1127

## ◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45

(祝日および弊社休業日を除く)

\* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

### 北海道サービスステーション

〒 064-8543

札幌市中央区南 10 条西 1 丁目 1-50 ヤマハセンター内

FAX 011-512-6109

### 首都圏サービスセンター

〒 143-0006

東京都大田区平和島 2 丁目 1-1 京浜トラックターミナル内

14 号棟 A-5F

FAX 03-5762-2125

### 名古屋サービスセンター

〒 454-0058

名古屋市中川区玉川町 2 丁目 1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫 3F

FAX 052-652-0043

### 大阪サービスセンター

〒 564-0052

吹田市広芝町 10-28 オーク江坂ビルディング 2F

FAX 06-6330-5535

### 九州サービスステーション

〒 812-8508

福岡市博多区博多駅前 2 丁目 11-4

FAX 092-472-2137

\* 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。



ヤマハデジタル楽器・DTM製品ホームページ  
<http://www.yamahasynth.com/jp/>

ヤマハマニュアルライブラリー  
<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ  
<http://www.music-eclub.com/>